

---

上尾市

---

# 宿北V遺跡

---

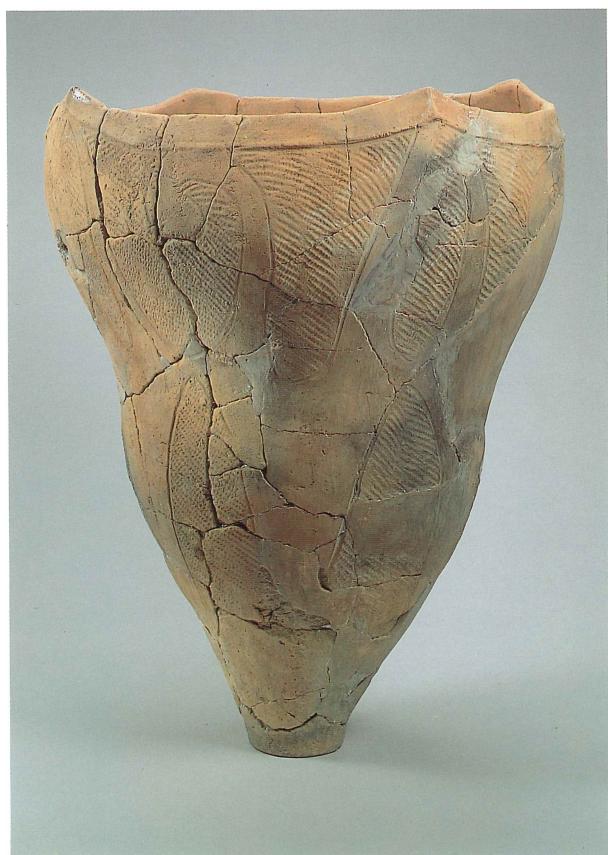
県道川越上尾線関係埋蔵文化財発掘調査報告

1999

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



第2号住居跡



第2号住居跡出土遺物

# 序

埼玉県では、豊かな彩の国づくりに向けて、県民が地域社会の中で、ゆとりと安らぎのある生活ができる基盤づくりを進めています。

人口の増加が続くなか、県民の生活を支えるための道路網の整備が、その一環として進められています。

県道川越上尾線の建設も、県民の快適な生活や地域間の連携を深めるための施策の一つとして計画されたものです。

上尾市内の県道川越上尾線用地内には、宿北V遺跡の所在が確認され、その取扱いについては、関係機関が慎重に協議を重ねてまいりましたが、やむをえず記録保存の措置を講じることになりました。そのための発掘調査は、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課の調整により、当事業団が埼玉県土木部道路建設課の委託を受け、実施いたしました。

遺跡が所在する上尾市は、埼玉県の南部中央にあって、西側の川越市との境界には、荒川が流れています。市内からは、数多くの遺跡が確認されています。その中には、江戸時代に編さんされた『新編武藏国風土記稿』に、当時の向山村・柏座村の旧跡として記述されたものもあります。

本書で報告いたします宿北V遺跡は、発掘調査の結果、旧石器時代の石器や、縄文時代の柄鏡形住居跡などが発見され、上尾市の当時の生活の様子を知る貴重な資料を得ることができました。

本書はこれらの成果をまとめたものであります。本書が、埋蔵文化財の保護に関する教育・普及の資料として、また学術研究の基礎資料として、広く御活用いただければ幸いと存じます。

刊行にあたり、発掘調査に関する諸調整に御尽力をいただきました埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課をはじめ、発掘調査から報告書の刊行にいたるまで御協力いただきました埼玉県土木部道路建設課、埼玉県大宮土木事務所、上尾市教育委員会並びに地元関係者各位に深く感謝申し上げます。

平成10年11月

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

理 事 長 荒 井 桂

## 例 言

1. 本書は埼玉県上尾市に所在する、宿北V遺跡に関する発掘調査報告書である。
2. 遺跡の略号と代表地番及び発掘調査届に対する指示通知は、以下のとおりである。

宿北V遺跡（略号SKKT-V）  
上尾市大字平方1714番地他  
平成7年6月27日付け教文第2-56号
3. 発掘調査は、県道川越上尾線の建設に伴う事前調査であり、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課が調整し、埼玉県土木部道路建設課の委託を受け、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
4. 本事業は、第1章の組織により実施した。本事業のうち発掘調査は元井 茂、浅野晴樹が担当し、平成7年6月1日から平成7年8月31日まで実施した。整理報告書作成作業は上野真由美が担当し、平成10年10月1日から平成10年11月30日ま

- で実施した。
5. 遺跡の基準点測量と航空写真は、株式会社シン技術コンサルに委託した。遺物の巻頭カラー写真は小川忠博氏に委託した。
  6. 発掘調査時の遺構写真撮影は元井と浅野が行った。遺物写真撮影は上野が行った。
  7. 出土品の整理・図版の作成は上野が行った。また、旧石器時代の石質の鑑定は町田瑞男が行った。本文の執筆は、I-1を埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課が、それ以外は上野が行った。
  8. 本書の編集は、上野があたった。
  9. 本書にかかる資料は平成11年度以降、埼玉県立埋蔵文化財センターが管理・保管する。
  10. 本書の作成にあたり、下記の方々から御教示、御協力を賜った。記して謝意を表します。（敬称略）

上尾市教育委員会 赤石光資 小宮山克己  
中平 薫

## 凡 例

1. 本書の遺跡全測図におけるX・Yの座標値は、国土地標準平面直角座標第IX系に基づく座標値を示している。また、各遺構図における方位指示は、全て座標北を示している。
2. 遺構図及び実測図の縮尺は、原則として以下のとおりである。

遺構図 住居跡……1/60  
土壙……1/60  
遺物 旧石器時代の石器……4/5  
縄文時代の土器実測図……1/5  
拓本・石器……1/3  
小形石器……1/2  
その他のものに関しては、スケール及び縮尺率等をその都度表記して示している。

3. 全体図等に示す遺構表記の略号は以下のとおりである。

S J……住居跡 SK……土壙 SD……溝
4. 挿図中のスクリーントーンは以下のことを示す。

遺構断面図 斜線部分……地山  
住居跡平面図 網部分……炉跡  
土器展開図 網部分……地文  
その他のものに関しては、その都度挿図内に表記して示している。
5. 遺構断面図における水平数値は、海拔高度を示しており、単位はmである。
6. 本書に掲載した地形図は、建設省国土地理院発行の1/25000の地形図を使用した。

# 目 次

序

例 言

凡 例

目 次

I	発掘調査の概要	1	(4) 磺群	18
1	調査に至る経過	1	2 縄文時代	35
2	発掘調査・報告書作成の経過	2	(1) 住居跡	35
3	発掘調査・整理・報告書刊行の組織	3	(2) 土壙	49
II	遺跡の立地と環境	4	(3) ピット	56
III	遺跡の概要	8	(4) グリッド出土遺物	56
IV	遺構と遺物	10	3 中・近世	59
1	先土器時代	10	(1) 土壙	59
(1)	概要	10	(2) 溝跡	62
(2)	石器集中	11	V 結語	67
(3)	出土石器	12		

## 挿図目次

第1図	埼玉県の地形図	4	第18図	第1号住居跡	36
第2図	周辺の遺跡	5	第19図	第1号住居跡出土遺物	37
第3図	周辺の地形図	7	第20図	第2号住居跡	38
第4図	全体図	9	第21図	第2号住居跡炉跡・埋甕	39
第5図	先土器時代 石器集中・礫群分布図	10	第22図	第2号住居跡遺物出土状況・遺物分布図	40
第6図	基本土層図	11	第23図	第2号住居跡出土遺物(1)	41
第7図	石器集中1	12	第24図	第2号住居跡出土遺物(2)	42
第8図	石器集中2	13	第25図	第2号住居跡出土遺物(3)	43
第9図	石器実測図(1)	14	第26図	第3号住居跡	44
第10図	石器実測図(2)	15	第27図	第3号住居跡遺物分布図・出土遺物	45
第11図	石器実測図(3)	16	第28図	第4号住居跡	46
第12図	礫群1	18	第29図	第4号住居跡出土遺物	47
第13図	礫群1微細図	19	第30図	第5号住居跡	48
第14図	礫群2	20	第31図	第5号住居跡出土遺物	49
第15図	礫群2微細図	21	第32図	土壙(1)	50
第16図	礫群3・礫群3微細図	22	第33図	土壙(2)	51
第17図	礫接合図	23	第34図	土壙(3)	52

第35図	土壙出土遺物分布図	53	第43図	土壙(3)	62
第36図	土壙出土遺物(1)	54	第44図	溝跡(1)	63
第37図	土壙出土遺物(2)	55	第45図	溝跡(2)	64
第38図	ピット	56	第46図	溝跡出土遺物	64
第39図	グリッド出土遺物(1)	57	第47図	溝跡(3)	65
第40図	グリッド出土遺物(2)	58	第48図	土器変遷図(1)	68
第41図	土壙(1)	60	第49図	土器変遷図(2)	69
第42図	土壙(2)	61			

## 図版目次

図版1	航空写真 (荒川右岸から)	第49号土壙 第50号土壙
	航空写真 (南西から)	第51号土壙 第53号土壙
図版2	航空写真 (南西から)	第55号土壙 第57号土壙
	航空写真 (北西から)	図版12 第58号土壙 第61号土壙
図版3	調査区A区全景	第62号土壙 第65号土壙
	調査区B区全景	第2号・第3号溝跡
図版4	礫群1	図版13 先土器時代出土石器
	礫群2	図版14 出土土器(1)
図版5	礫群3	図版15 出土土器(2)・出土古銭
	礫群3出土状況	第1号住居跡出土遺物(1)
図版6	第1号住居跡	図版16 第1号住居跡出土遺物(2)
	第1号住居跡遺物出土状況	第2号住居跡出土遺物(1)
図版7	第2号住居跡	図版17 第2号住居跡出土遺物(2)
	第2号住居跡遺物出土状況	第1号・第4号住居跡出土石器
	第2号住居跡炉跡	図版18 第3号住居跡出土遺物
	第2号住居跡埋甕	第4号住居跡出土遺物
	第2号住居跡炉跡・埋甕	図版19 第5号住居跡出土遺物
図版8	第3号住居跡	土壙出土遺物(1)
	第3号住居跡遺物出土状況	図版20 土壙出土遺物(2)
図版9	第4号住居跡	土壙出土遺物(3)
	第5号住居跡遺物出土状況	図版21 グリッド出土遺物(1)
図版10	第2号土壙 第3号土壙	グリッド出土遺物(2)
	第4号土壙 第5号・第6号土壙	図版22 グリッド出土遺物(3)
	第9号土壙 第10号土壙	小形石器
	第11号土壙 第13号土壙	図版23 展開写真
図版11	第27号土壙 第48号土壙	

# I 発掘調査の概要

## 1. 発掘調査に至る経過

首都圏に位置する埼玉県では、急激な人口増加に伴う自動車台数の急増等によって、慢性的な交通渋滞が生じている。そのため県ではバイパス等を積極的に建設して、これらの渋滞解消をめざしている。今回調査を行った県道川越上尾線も、荒川にかかる開平橋を中心にして、交通量の多い所であり、バイパス建設の果たす効果は大きい。

埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課では、このような施設の推進に伴う文化財の保護について、従前より関係部局との事前協議を重ね、調整を図ってきたところである。

平成7年4月28日付け大上第185号で、県大宮土木事務所長より、県道川越上尾線のバイパス部における埋蔵文化財の所在及び取扱いについての照会を受けた。これに対し、文化財保護課では確認調査を行い、その結果をもとに、平成7年5月29日付け教文第217号「埋蔵文化財の所在の有無及び取扱いについて」で、大宮土木事務所あて次のとおり回答した。

### 1 埋蔵文化財の所在

事業地内には、次の埋蔵文化財包蔵地が所在します。

名 称	種 別	時 代	所 在 地
宿北V遺跡	集落	縄文	上尾市平方地内（平方1760、1725他）

### 2 取扱いについて

上記の埋蔵文化財包蔵地は現状保存するのが望ましいが、事業計画上やむを得ず現状を変更する場合には、事前に文化財保護法第57条の3の規定に基づき、文化庁長官あての発掘通知を提出し、記録保存のための発掘調査を実施してください。

なお、発掘調査の実施については、当課と別途協議願います。

発掘調査については、実施機関である財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団と大宮土木事務所、文化財保護課の三者により、調査方法、期間、経費等の問題を中心に協議が行われた。その結果平成7年6月1日から8月31までの期間で、発掘調査を実施することになった。

発掘調査に先立って、埼玉県知事から文化財保護法第57条の3の規定に基づく発掘通知が、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長からは同法第57条第1項の規定に基づく発掘調査届けが提出された。

発掘調査に係る通知番号は次のとおりである。

平成7年6月27日付け 教文第2-56号

(文化財保護課)

## 2. 発掘調査・報告書作成の経過

### 発掘調査

宿北V遺跡の発掘調査は、平成7年6月1日から、平成7年8月31日までの3ヶ月間にわたって行われた。

6月1日から現場事務所設置、器材運搬などの発掘準備を開始した。

6月上旬には、重機による表土除去作業を開始した。またそれと並行して、現場事務所の設置や、囲柵の設置を行った。

6月中旬には表土除去作業が終了し、遺構確認作業を行った。調査区は南西部の台地平坦面をA区、北東側の斜面と低地をB区に便宜的に分けた。

遺構の確認後に、調査を開始した。遺構は縄文時代では、前期から後期の住居跡5軒、土壙47基、ピット群が検出された。中世以降では、土壙25基、溝跡10条が検出された。

7月上旬には、遺構の平面図等の図面作成を開始した。図面作成と並行して、遺構の写真撮影を行った。

8月上旬には、空中写真撮影を行った。撮影終了後、残っていた遺構の平面図などの作成作業を行った。

また、ローム層が良好に残存している台地平坦面にあたるA区において、先土器時代の確認作業を2mのグリッドを組んで行った。遺物が検出され次第、随時面的に、グリッドを拡張していく方法を取った。その

結果、石器集中2ヶ所、礫群3ヶ所が検出された。遺物は1点ごとに、計測をして取り上げ、平面図を作成した。

8月下旬には発掘現場での作業を全て終了した。その後発掘器材の搬出、現場事務所の撤去を行い、発掘調査事業の全行程を終了した。

### 整理・報告書刊行

報告書の作成作業は、平成10年10月1日から平成10年11月30日にかけて行った。

10月上旬から遺物の洗浄・注記を行い、10月中旬には接合・復元を開始した。

遺物と並行して、図面整理、遺構の写真の整理も開始した。

10月下旬には出土遺物の接合が終了し、分類した遺物の拓本と実測を開始した。

11月上旬には、拓本、実測の終了した遺物と、整理の終わった遺構のトレースを並行して開始した。同時に、実測を終了した遺物の写真撮影を行った。

11月中旬には遺構と遺物の版組みを開始し、全体の割付を行い、同時に並行して文章の執筆を開始した。

11月下旬以降は校正等を行い、平成11年2月26日には報告書を刊行した。

### 3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織

主体者 財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

#### (1) 発掘調査 (平成7年度)

理事長	荒井 桂
副理事長	富田 真也
専務理事	吉川 國男
常務理事兼管理部長	新井 秀直
理事兼調査部長	小川 良祐
管 理 部	
庶務課長	及川 孝之
主 査	市川 有三
主 任	長瀧 美智子
主 事	菊池 久
専門調査員兼経理課長	関野 栄一
主 任	江田 和美
主 任	福田 昭美
主 任	腰塚 雄二
調 査 部	
調査部副部長	高橋 一夫
調査第四課長	酒井 清治
主 査	元井 茂
主 査	浅野 晴樹

#### (2) 整理事業 (平成10年度)

理事長	荒井 桂
副理事長	飯塚 誠一郎
常務理事兼管理部長	鈴木 進
管 理 部	
庶務課長	金子 隆
主 査	田中 裕二
主 任	長瀧 美智子
主 任	腰塚 雄二
専門調査員兼経理課長	関野 栄一
主 任	江田 和美
主 任	福田 昭美
主 任	菊池 久
資 料 部	
資料部長	増田 逸朗
主幹兼資料部副部長	小久保 徹
専門調査員	
兼資料整理第一課長	坂野 和信
主任調査員	上野 真由美

## II 遺跡の立地と環境

宿北V遺跡が所在している上尾市は、大宮台地のほぼ中央部に位置している。

大宮台地は、関東地方のおおよそ中央に位置しており、妻沼、加須、中川、荒川低地といった、広大な沖積低地に周囲を囲まれている。台地は、北北西から南南東へのび、長さ約40km、幅約12kmの規模となっている。台地は多くの侵食谷が発達しており、綾瀬川、元荒川の流れる2条の侵食谷は、大宮台地を北西から南東に縦断している。また台地内には、侵食谷に向かい小さな侵食が多く進み、谷は樹枝状となっている。これらの谷にも沖積低地が発達しており、そのうち芝川、鴨川、江川、切敷川が流れる谷が規模の大きなものとなっている。

宿北V遺跡は、上尾市の南西の荒川左岸に位置しており、荒川低地に面する大宮台地の、縁辺が樹枝状に入り込む小支谷に面した台地上に立地している。

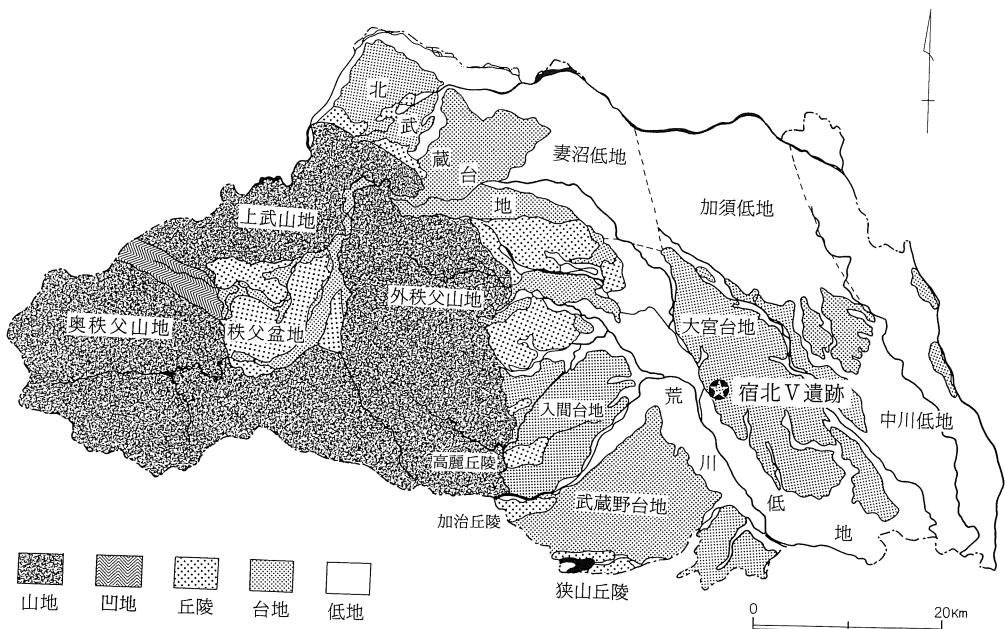
遺跡の所在する上尾市は、荒川、原市沼川、鴨川、芝川の4つの水系の流域によって分けられた、3つの台地地域に分けることができる。遺跡もおおまかには、それらの川の流域に沿った、東部、中部、西部の、3

つの南北にのびる台地上に、分布していると言える。

宿北V遺跡は、そのうち西部の台地上に位置しており、荒川低地から1～1.5km幅で、数多くの遺跡が分布している地域となっている。ここでは、宿北V遺跡から出土した遺構や遺物が、先土器時代、縄文時代を中心であることから、それらの時期を中心として周辺の遺跡や環境を考えていきたい。

先土器時代の遺跡としては、代表的なものとして殿山遺跡（2）があげられる。この遺跡は、三次にわたる調査によって、ナイフ形石器などが出土する石器集中が、数多く検出されている（赤石他1979 石器研究会1982 荒井他1991）。また、国府型ナイフ形石器が出土したことでも知られている。宿北V遺跡近くの、箕輪I遺跡（13）では、尖頭器が出土している（赤石他1985）。ほかに、宿北II遺跡（12）、上尾市稻荷台遺跡（18）、雨沼I遺跡（16）平方貝塚（15）、畔吉遺跡（4）、畔吉・本村I遺跡（3）、天沼遺跡（17）、在家遺跡（7）が先土器時代の遺跡として知られ、なかでも天沼遺跡、在家遺跡では石器集中が検出されている（藤波他1984 赤石他1993）。

第1図 埼玉県の地形図



第2図 周辺の遺跡



- |           |              |             |            |
|-----------|--------------|-------------|------------|
| 1. 宿北V遺跡  | 2. 殿山遺跡      | 3. 畔吉・本村遺跡  | 4. 畔吉遺跡    |
| 5. 畔吉貝塚   | 6. 小林遺跡      | 7. 在家遺跡     | 8. 箕輪貝塚    |
| 9. 箕輪II遺跡 | 10. 宿北IV遺跡   | 11. 宿北III遺跡 | 12. 宿北II遺跡 |
| 13. 箕輪I遺跡 | 14. 東谷遺跡     | 15. 平方貝塚    | 16. 雨沼I遺跡  |
| 17. 天沼遺跡  | 18. 上尾市稻荷台遺跡 | 19. 薬師耕地前遺跡 |            |

縄文時代草創期では、上尾市の東部の台地上に所在する十二番耕地II遺跡から土器群が出土しているが、遺構は発見されていない。

縄文時代早期の宿北V遺跡周辺では、早期前半の撲糸文系土器は平方貝塚（15）、天沼遺跡（17）で、沈線文系土器は在家遺跡（7）、上尾市稻荷台遺跡（18）で出土しているが、全体的に遺跡数は希薄である。

縄文時代早期後半から前期にかけては、縄文海進期にあたり、上尾周辺の低地にまで東京湾が拡大していた。平方貝塚（15）と中堀川に沿った沖積層の調査の結果によると、早期末の平方付近の荒川低地は、砂地の海岸～河口部となっていたとされている（上尾市1992）。早期後半には、平方貝塚（15）、畔吉貝塚（5）、薬師耕地前遺跡（19）などの貝塚が営まれていた。

ほかに早期後半の遺跡では、殿山遺跡（2）、天沼遺跡（17）などで住居跡やファイヤー・ピットなどが検出されている。

縄文時代前期の遺跡では、箕輪I・II遺跡（13・9）で花積下層式土器が出土しており、箕輪II遺跡からは住居跡が検出され、貴重な発掘例となっている（赤石他1985）。後山遺跡、上尾市稻荷台遺跡（18）、宿北II遺跡（12）からは、関山式期の住居跡が検出されている。

また、今回報告する宿北V遺跡からは、黒浜式期の住居跡が一軒検出されている。

前期後半では、在家遺跡（7）から諸磯C式期の住居跡が検出されているほか、前期終末から中期初頭にかけての土器が出土している（細田1991）。

縄文時代中期は、他地域と同様に遺跡数が増大する

傾向が認められるが、当該地域では大規模な集落を営む遺跡は少ないのが特徴的である（上尾市1992）。

宿北V遺跡の周辺では、雨沼I遺跡（16）、在家遺跡（7）が知られている。雨沼I遺跡からは、比較的まとまって、住居跡が検出されている（赤石他1986）。

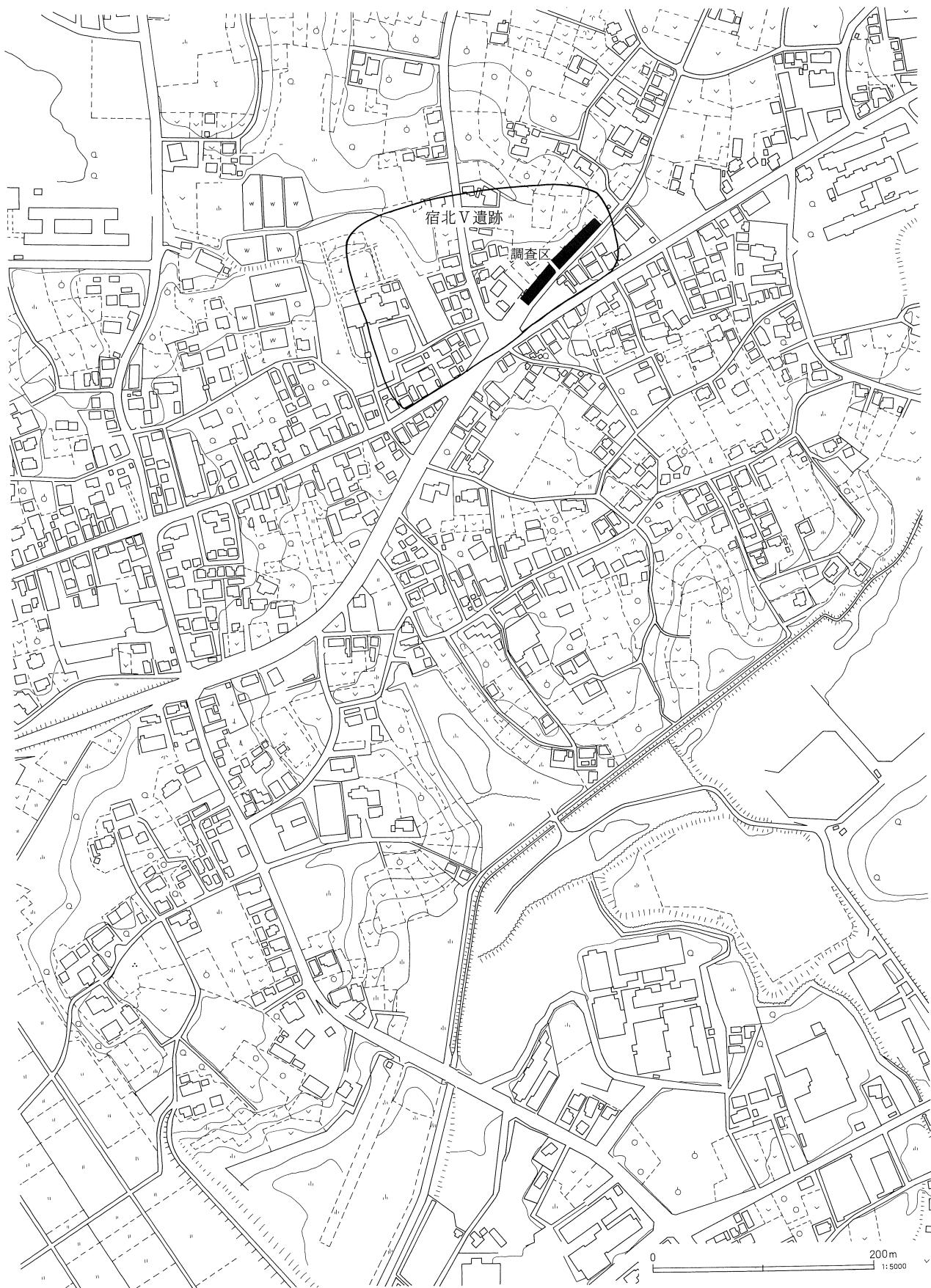
比較的大規模な集落跡は、他の台地上でも少なく、東部の台地上では秩父山遺跡、中部の台地上では氷川遺跡で、住居跡がまとまって検出されている。

縄文時代後期では、宿北V遺跡と同じく西部の台地上に立地する、山下遺跡が知られている。山下遺跡からは、堀之内式期を主体とし、19軒の住居跡が検出されている（山崎他1988）。他に、小林遺跡（6）、天沼遺跡（17）からは、堀之内式期の住居跡が検出されている。また、宿北V遺跡と隣接する、東谷遺跡（14）では、称名寺式期、堀之内式期の住居跡が各1軒ずつ検出されている（橋本1992）。宿北V遺跡では、後期初頭の住居跡が検出されている。

他に東部の台地上では、十八番耕地遺跡、十四番耕地遺跡、十五番耕地遺跡から、中部の台地上では、柏座遺跡から、住居跡が検出されている。

縄文時代後期後半から晩期にかけて、西部の台地の遺跡は、激減する傾向にあるが、これは中部、東部の台地上でも同様である。この時期の遺跡としては、西部の台地上では、在家遺跡（7）があげられる。在家遺跡からは、晩期終末の千網式土器と、大洞A式土器が出土した住居跡が1軒検出されており、貴重な資料となっている（細田1991）。他には、東部の台地上に立地している、後期から継続している十四番耕地遺跡が、代表的な遺跡である。

第3図 周辺の地形図



### III 遺跡の概要

宿北V遺跡は、埼玉県上尾市に所在し、JR高崎線上尾駅から南西へ約4.3kmに位置している。北緯35°56'37"、東経138°34'20"付近である。

遺跡は、荒川低地に面する大宮台地の、縁辺が樹枝状に入り込む小支谷に面した台地上に立地している。

遺跡の範囲は東西約220m、南北約150mである。

今回報告する調査は、遺跡内を北東から南西方向に横切る県道川越上尾線の建設に伴って、平成7年6月1日から平成7年8月31日までの2ヶ月間に亘って実施されたものである。

調査区の位置は、遺跡の範囲の東南よりにあたる箇所で、調査区は、南西側のA区、北東側をB区に便宜的に分けて調査を実施した。A区は台地の平坦面にあたり、B区は北東側に向かって斜面となり、谷頭部分が現れている（第4図）。

発掘調査は表土除去作業より開始し、その後遺構確認のための精査を行った。その結果、調査区から住居跡、土壙、ピット、溝跡などが確認された。

遺構は台地の平坦面にあたるA区に、縄文時代の遺構がやや密集していた。B区の北半分の斜面部分では、遺構は希薄であった。

調査はグリッド方式を採用した。グリッドは国土標準平面直角座標第IX系に基づいて1辺10mのメッシュを切り、グリッドを設定した。西から東方向へ1～9、北から南方向へA～Jを設定した。

調査の結果、縄文時代の遺構は、住居跡5軒、土壙47基、単独のピットが6基検出された。また中世以降では、土壙25基、溝跡10条が検出された。

縄文時代の住居跡は、A区から3軒、B区から2軒が検出された。確認面からの住居跡の掘り込みは浅く、柱穴のみが残存するものもあり、遺物の出土量は少なかった。その中でも、第2号住居跡は形の整った柄鏡形住居跡で、入り口部分から埋甕も検出された。住居

跡の時期は前期が1軒、後期が4軒であった。

縄文時代の土壙のほとんどは、A区の北半部で密集して検出された。遺物量は全体的に少なく、明確な時期を決定できる土壙はほとんどなかったが、覆土の状態や形態などから、47基を縄文時代とした。土壙から出土している遺物は、中期後半から後期前半のものである。

ピットとしたものは、住居跡などの遺構に伴わなかった用途不明の単独のものである。覆土や規模は住居跡の柱穴と同様で、時期は住居跡や土壙の時期と同様であると考えられる。

中世以降の遺構としては、土壙と溝跡が検出されている。そのほとんどがB区から検出されている。

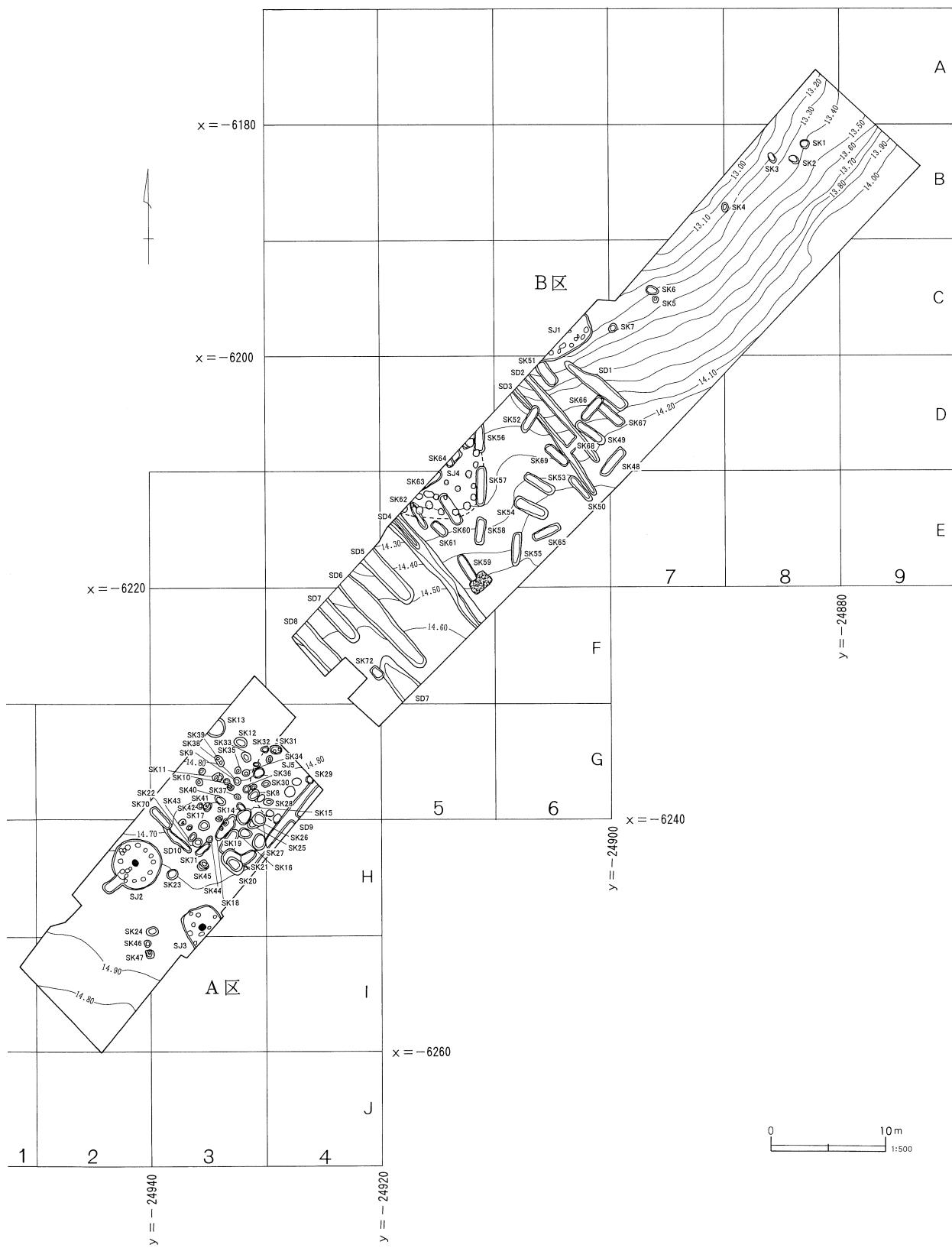
土壙の形態は方形で、覆土は黒色土や黒褐色土中に、ロームブロックが多量に含まれるものであった。短期間に埋め戻されたと考えられ、縄文時代とした土壙とは明らかな相違が認められた。確認面よりの掘り込みは浅く、遺物は埋め戻し時に混入したと考えられる縄文土器などが出土しているのみで、明確に土壙にともなう遺物は出土しなかった。

溝跡は、第1号～8号、10号溝跡はみな同じ主軸方向で、第9号溝跡はそれらに直行する主軸方向となっている。確認面からの掘り込みは極く浅いもので、途中で途切れてしまうものも多い。

遺物は中世の擂鉢などの他、寛永通宝が出土しているが、小破片が数点出土しているのみで、溝跡の時期を確定できるものではなかった。

以上の遺構の発掘作業後、先土器時代の確認作業を行った。その結果、A区から、石器集中2箇所、礫群3基が検出された。石器集中からは、ナイフ形石器や磨石が出土した。石器集中、礫群とともにソフトロームのIII層下部からハードロームのIV層上部中で検出されている。

第4図 全体図



# IV 遺構と遺物

## 1. 先土器時代

### (1) 概要 (第5図・第6図)

宿北V遺跡の先土器時代の遺構と遺物は、台地上にあたるA区で検出された。検出された遺構は、石器集中2箇所と礫群3基である。石器集中と礫群は分布が重複している。

宿北V遺跡の基本層位であるが、礫群1に隣接する

場所で行い、現地表面から最大で2.20m掘り下げた。I層は耕作土である。II層は縄文時代の遺物が出土する包含層であった。III層はいわゆるソフトローム層で、IV層からはいわゆるハードローム層となる。

石器集中、礫群の出土層位は、両者ともにIII層下位か

第5図 先土器時代 石器集中・礫群分布図



らIV層上位にかけて検出されている。

遺構、遺物は検出されなかつたが、VI層以下については、V層はVI層よりやや黒色がかる土層で、第1黒色帶と考えられる。VI層、VII層はV層より濃い黒色で、第2黒色帶に相当すると考えられる。VII層とVIII層間は不整合に堆積しており、VIII層より武藏野ローム層と考

えられる。

なお石器集中と礫群であるが、発掘調査時点ではブロックとして両者を分離せずに遺物を取り上げたが、整理時点で、石器集中と礫群を分離して報告したため、遺構名を変更した。遺物番号に関しては、調査時のものをそのまま使用している。

先土器時代新旧対照表

新番号	旧番号	新番号	旧番号
石器集中1	第2ブロック	礫群1	第1ブロック
石器集中2	第3ブロック	礫群2	第2ブロック
		礫群3	第3ブロック

## (2) 石器集中

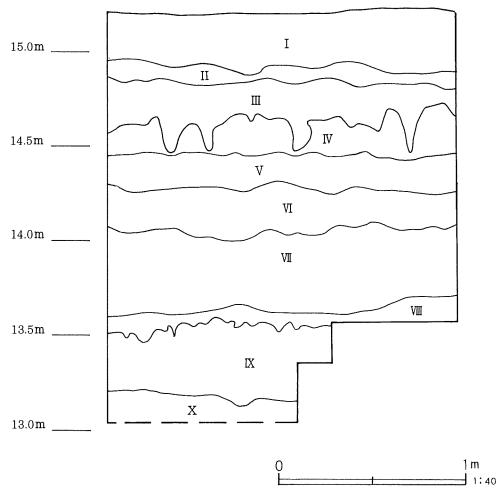
### 石器集中1 (第7図)

H-3グリッド内の、南北7m、東西6mの範囲に分布する。礫群2と重複し、礫群2の範囲の中に内包されている。遺物の総数は14点でまとまりではなく、全体的に散漫に分布して検出された。内訳は、ナイフ形石器3点、剝片5点、碎片6点である。石材はすべて黒曜石である。出土層位は、III層とIV層の境界部分に集中しており、IV層下位より出土したものはなかった。また、ナイフ形石器3点は、北東寄りにややまとまって検出された。

### 石器集中2 (第8図)

H-2グリッドを中心に南北4m、東西3mの範囲に分布する。礫群3と重複し、礫群3の中に内包されている。遺物の総数は10点で、石器集中1と比較すればややまとまって検出された。内訳はナイフ形石器1点、磨石5点、石核1点、剝片2点、碎片1点である。磨石の石材は複輝石安山岩2点、石英玢岩3点で、大きさはこぶし大程度で比較的小形である。他の石材は黒曜石であった。出土層位はIII層とIV層の境界部分に集中している。3B-94と3B-26は、接合した。

第6図 基本土層図



基本土層	
I	黒褐色土層(10YR3/2) 耕作土 サラサラとして粘性、しまり共に弱い
II	暗褐色土層(9.5YR2/4) 粘性弱い しまりあり
III	褐色土層(10YR4/6) ソフトローム層 粘性弱い サラサラとしてしまり弱い
IV	褐色土層(10YR2/6) IV層以下ハードローム層 白色粒子(パミス状) 少量含む 粘性あり
V	暗褐色土層(10YR3/4) 白色粒子(パミス状)多量に含む 赤褐色スコリア 微量に含む 粘性強い しまりあり IV層より黒味強い
VI	暗褐色土層(10YR3/3) 白色粒子(パミス状)多量に含む 赤褐色スコリア 微量に含む 粘性強い しまりあり 斑点状に褐色ローム多量に含む
VII	暗褐色土層(10YR3/4) 白色粒子(パミス状)微量に含む 赤褐色スコリア 極く微量に含む 粘性強い しまりあり 斑点状に褐色ローム微量に含む
VIII	褐色土層(10YR4/4) 赤褐色スコリア少量含む 粘性強い しまり弱い 腐植質多少認められる
IX	褐色土層(10YR4/4) 赤褐色スコリア多量に含む 粘性強い しまりあり 波状にⅧ層と接する
X	にぶい黄褐色土層(10YR3/4) 火山質ガラス極く微量に含む 赤褐色スコリア極く微量に含む 粘性極く強い しまりあり

第7図 石器集中I



### (3) 出土石器

#### ナイフ形石器 (第9図1~4)

1~3は石器集中1から、4は石器集中2から出土した。石材はすべて黒曜石であった。1~3は石器集中1から出土したものであるが、それぞれ質が違うもので、同一母岩ではなかった。

1 (2B-195) は、背縁から丸みを持って、最大幅のある基部に至っている。右側にある刃縁は直線的で、基部は丸みを持っている。素材は正面左側基部からの縦長剥片を使用しており、基部には打面を残している。背縁の一部には自然面を残している。背縁と基部は細かい剥離によって、調整加工されている。

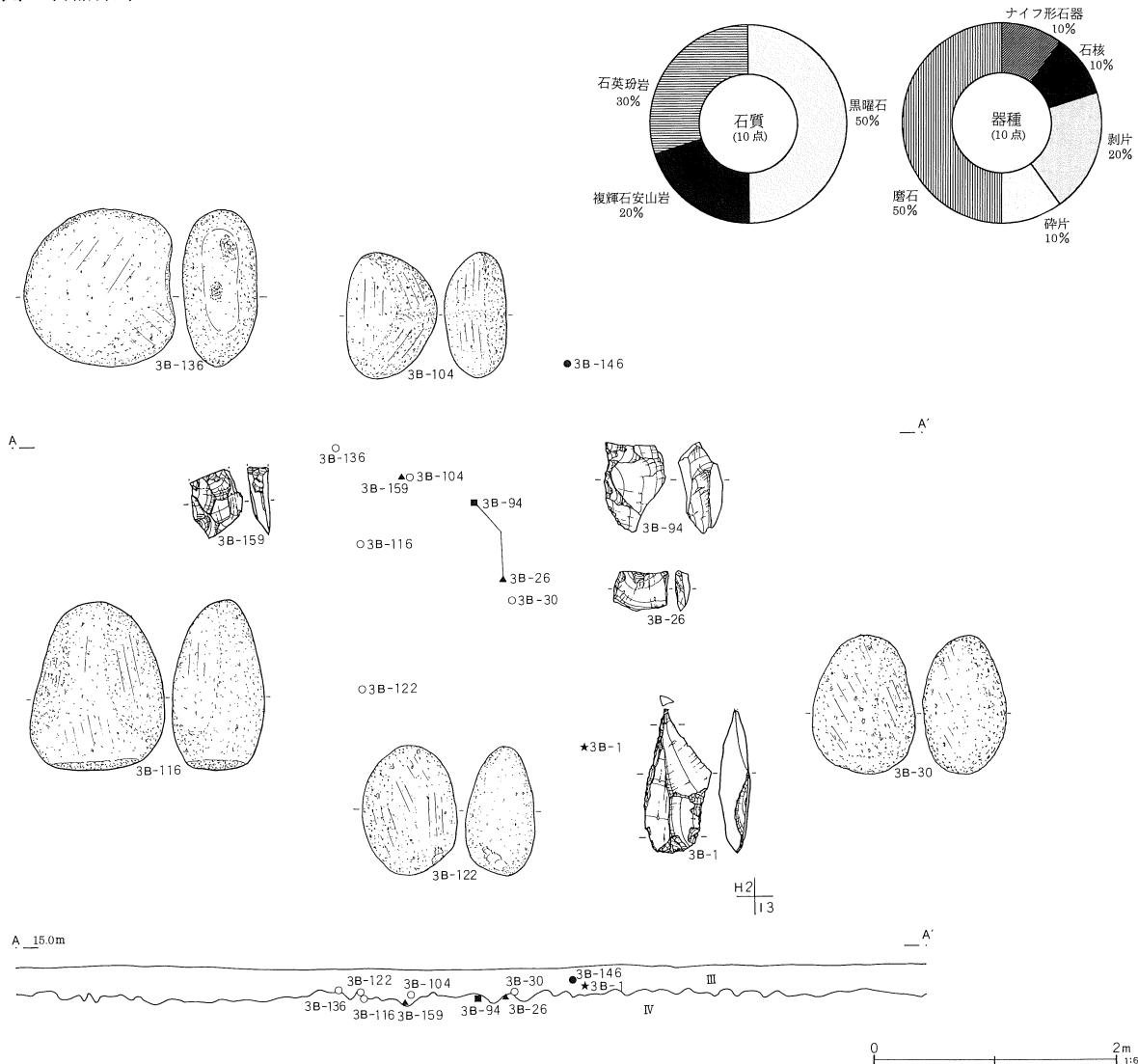
2 (2B-147) は左側に刃部を持つもので、基部に

最大幅を持っている。素材は正面右先端からの、縦長剥片を使用している。打面は背縁の調整加工によって、取り除かれている。刃縁は直線的で、基部に至る部分に細かい剥離をいれて丸みをつけている。基部の端部は、剥離の形状をそのまま利用している。背縁は調整加工によって、粗雑ではあるが鋸歯状にしている。

3 (2B-160) は、基部のみが残存するものである。周縁は細かい剥離によって、調整加工がなされている。素材は剥離面から先端方向からの、縦長剥片と考えられる。

4 (3B-1) は先端をわずかに欠損するもので、刃縁と背縁は鋭角に交わっている。素材は側縁側から

第8図 石器集中2



の、横長剥片を使用している。背縁は丁寧な調整加工を施して、形を整えている。基部の刃部側は、不要な部分を折り取り、最低限の調整剥離を施している。右側に刃部を持っている。

#### 石核 (第10図11・14)

石核は2点出土している。石器集中2より1点、グリッドより1点出土している。石材はすべて黒曜石であった。

11 (1B-204) はF-3グリッドから出土したもので、礫群1内に位置している。自然面を多く残すもので、下面で折り取られている。石核本体の端部を折り取った部分とも考えられる。

14 (3B-94) は、断面が方形に近いもので、四面

に剥離面を持っている。剥片の13 (3B-26) と接合している。

#### 剥片 (第9図5～10・第10図12、13)

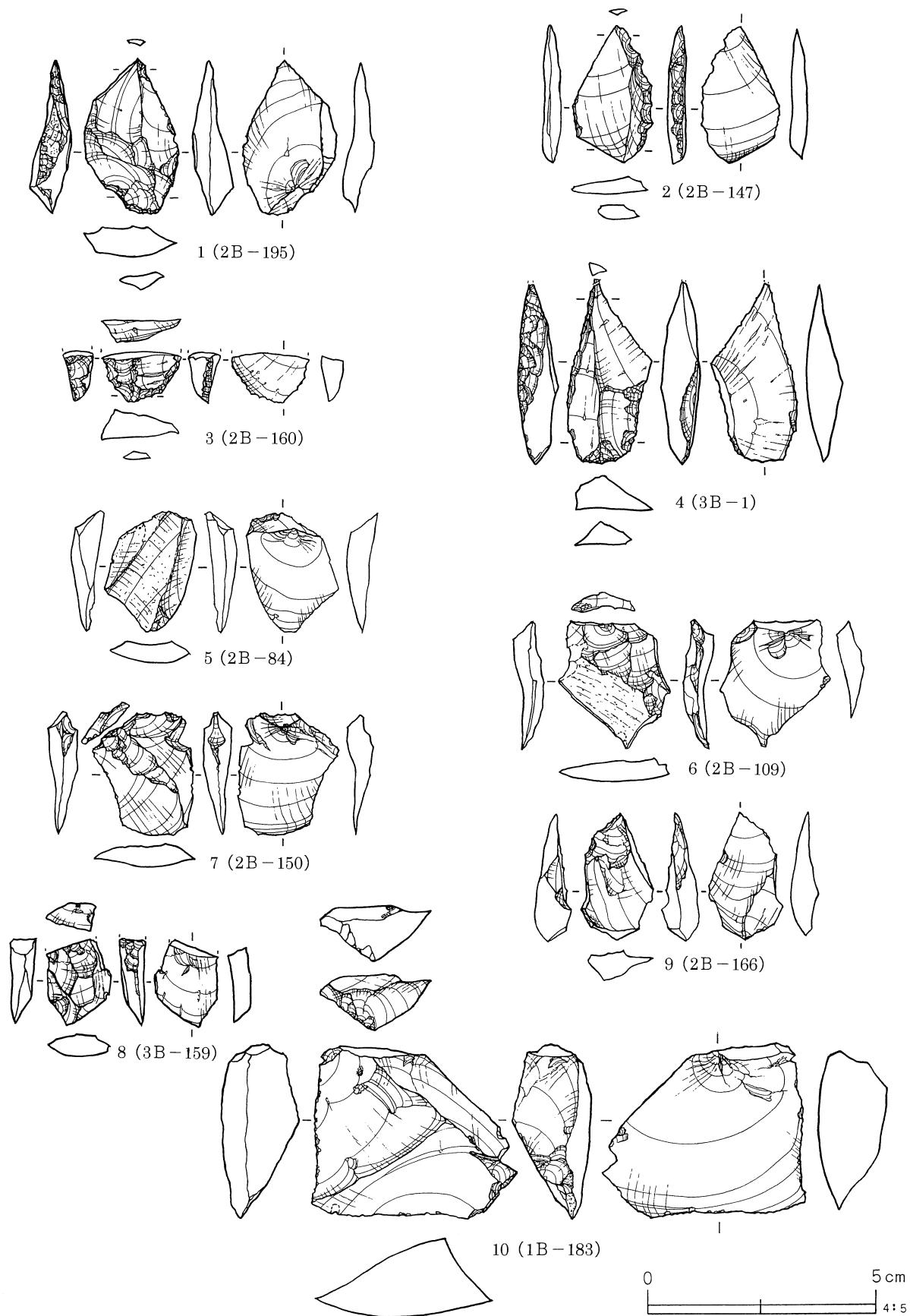
剥片は8点出土している。石器集中1から5点、石器集中2から2点、グリッドより1点出土している。石材はすべて黒曜石であった。

5～7は打面が残る薄手の縦長剥片で、形状や規模が似通っている。5 (2B-84)、6 (2B-109) の表面には自然面が残存している。

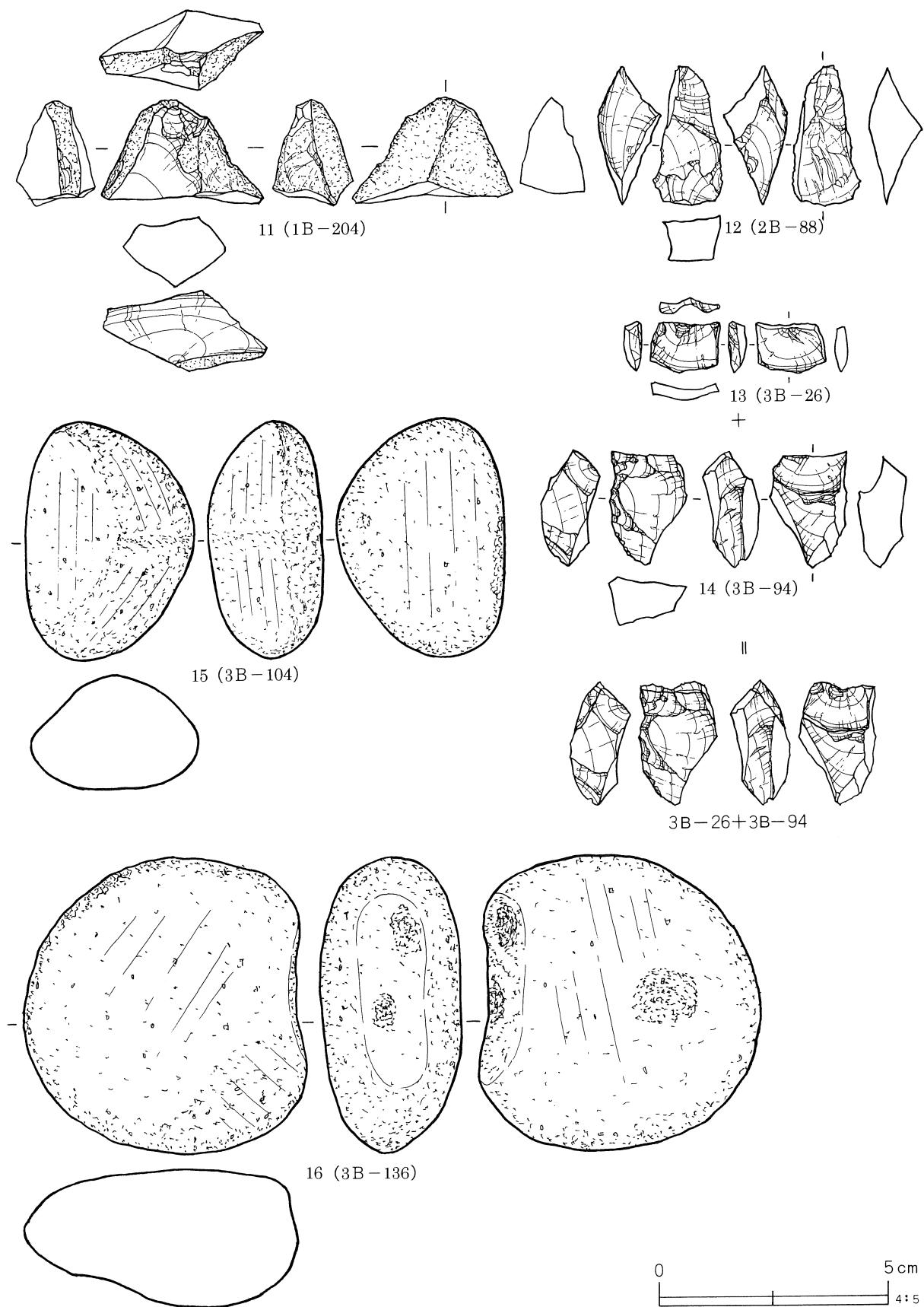
8 (3B-159) はやや小形の縦長剥片で、打面は欠損している。

10 (1B-183) はF-3グリッドから出土したもので、礫群1内に位置している。厚手のやや横長の剥片

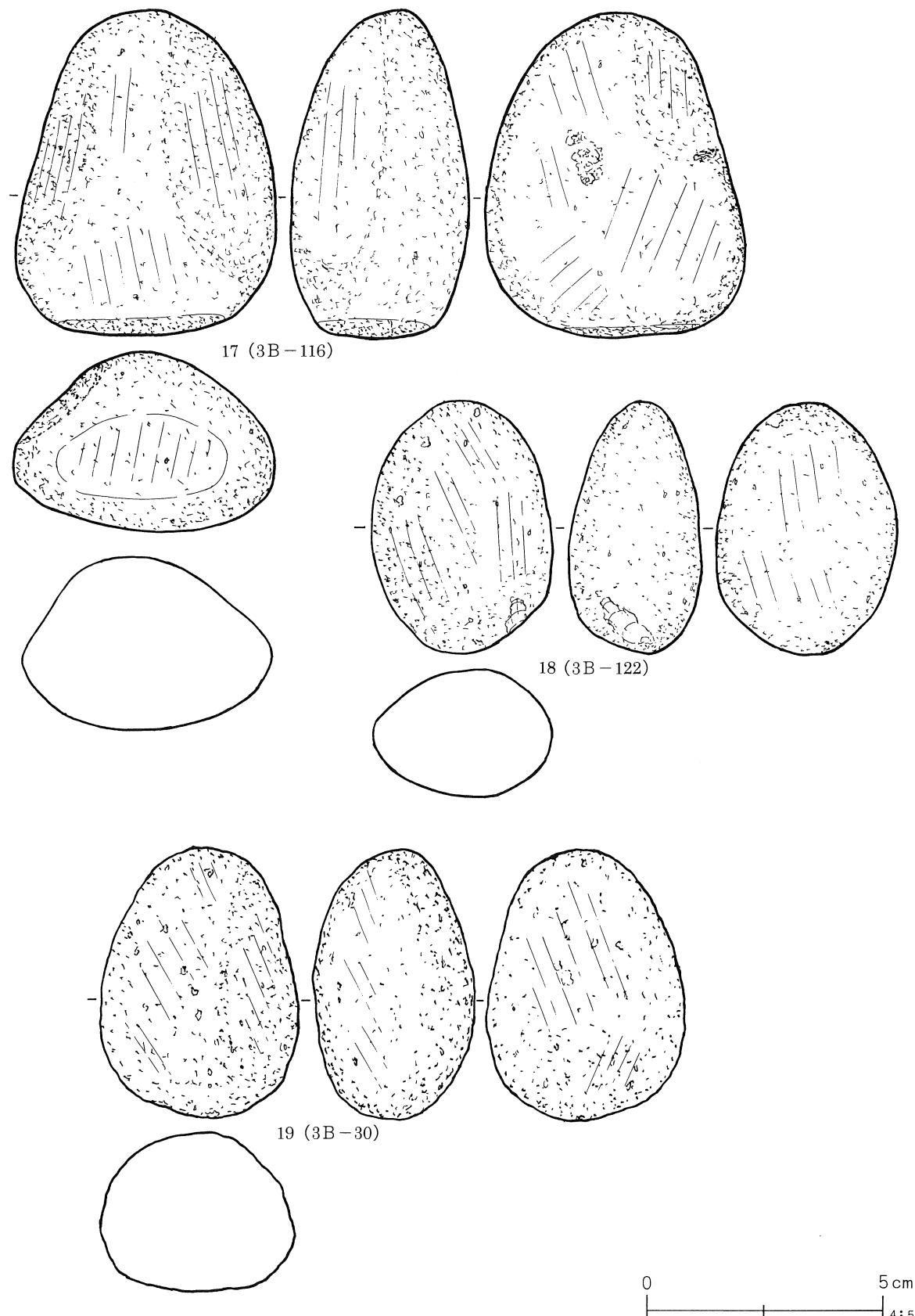
第9図 石器実測図(1)



第10図 石器実測図(2)



第11図 石器実測図(3)



である。打面には、数回にわたる打痕が観察された。断面は三角形に近い。

12 (2B-88) は断面が方形のもので、石核と当初は考えたが、主要剥離面が観察されたため、剥片とした。打面には打痕も残存していた。

13 (3B-26) は14 (3B-94) と接合する、小形の横長剥片である。

#### 磨石 (第10図15、16・第11図17~19)

磨石は5点出土している。すべて石器集中2から検出されている。石材は複輝石安山岩が2点、石英玢岩が3点であるが、肉眼の観察では両石材の石質はよく似通っている。出土した磨石は、いずれも5~7cm程度と小形のもので、礫群から出土している計測可能な

礫の長さが、10cmを超えるものがわずかであることからも、手に入る素材自体で大きさが左右されていたと考えられる。

15 (3B-104)、18 (3B-122)、19 (3B-30) は、長さ5cm前後の断面が橢円形に近い肉厚なもので、磨面は両面や側面で観察された。

16 (3B-136) は偏平な素材を使用している。磨面は両面で観察され、側縁や裏面の一部に敲打の痕跡が観察された。

17 (3B-116) は長さ6.6cmで、検出された磨石のなかでは、比較的大きいものである。磨面には両面を使用し、下面も磨面として使用している。

#### 石器集中1

番号	グリッド	北→南(cm)	西→東(cm)	標高	器種	石質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
2B-20	H3	558.0	202.0	14.674	碎片	黒曜石	1.0	1.4	0.2	0.30	
2B-84	H3	449.0	344.0	14.693	剥片	黒曜石	2.6	1.8	0.5	2.48	
2B-88	H3	176.0	295.0	14.597	剥片	黒曜石	3.0	1.5	1.4	3.83	
2B-100	H3	203.0	426.0	14.550	碎片	黒曜石	0.7	0.9	0.3	0.25	
2B-103	H3	236.0	451.0	14.557	碎片	黒曜石	0.8	0.6	0.2	0.05	
2B-109	H3	318.0	434.0	14.693	剥片	黒曜石	2.8	2.3	0.6	2.50	
2B-133	H3	486.0	513.0	14.651	碎片	黒曜石	1.0	1.4	0.2	0.13	
2B-139	H3	402.0	512.0	14.600	碎片	黒曜石	1.2	1.6	0.5	0.61	
2B-141	H3	383.0	562.0	14.668	碎片	黒曜石	0.8	1.6	0.4	0.25	
2B-147	H3	283.0	519.0	14.628	ナイフ形石器	黒曜石	2.9	1.8	0.4	1.61	
2B-150	H3	168.0	538.0	14.544	剥片	黒曜石	2.7	2.2	0.6	2.30	
2B-160	H3	71.0	528.0	14.533	ナイフ形石器	黒曜石	1.1	1.8	0.7	0.81	
2B-166	H3	674.0	105.5	14.833	剥片	黒曜石	2.8	1.5	0.8	1.91	
2B-195	H3	20.0	675.0	14.510	ナイフ形石器	黒曜石	3.3	2.0	0.8	3.53	

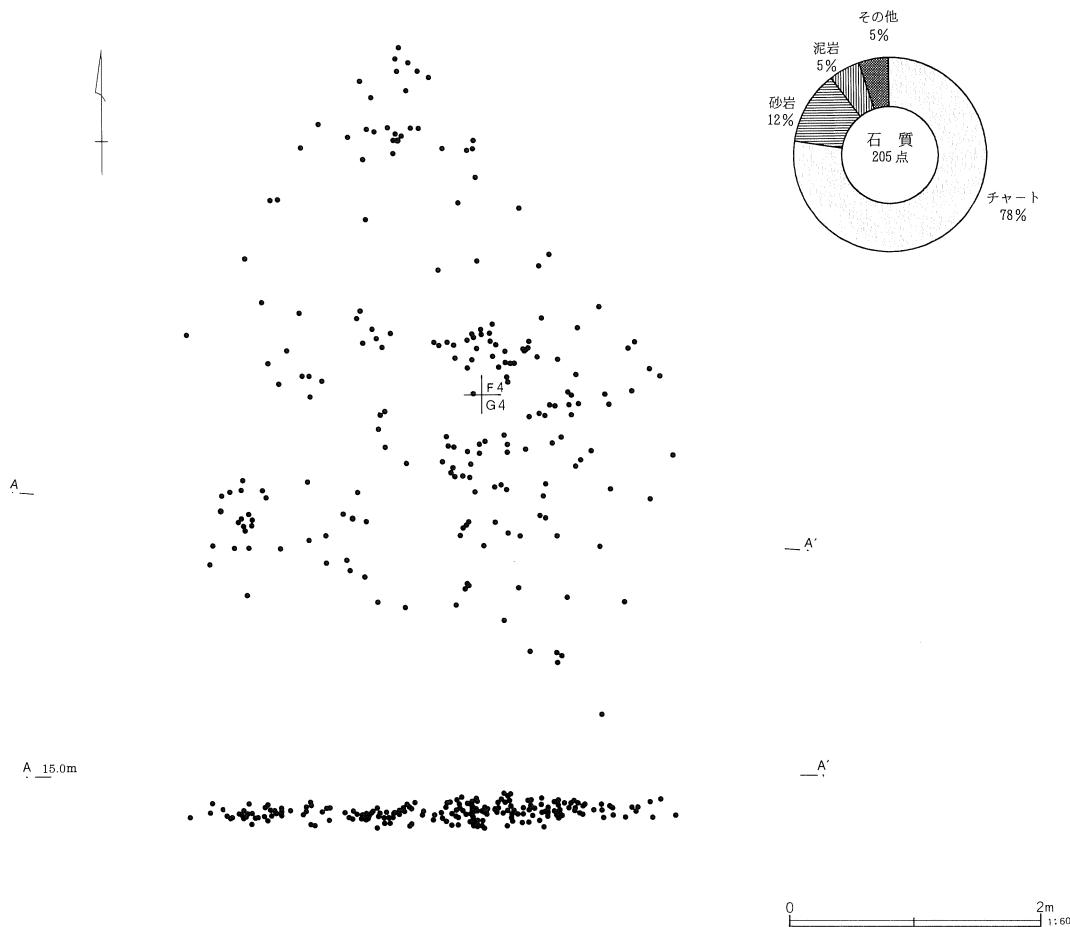
#### 石器集中2

番号	グリッド	北→南(cm)	西→東(cm)	標高	器種	石質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
3B-1	H2	879.0	861.5	14.674	ナイフ形石器	黒曜石	3.9	1.7	0.8	4.02	
3B-26	H2	741.5	794.0	14.587	剥片	黒曜石	1.1	1.5	0.4	0.64	94と接合
3B-30	H2	758.0	801.5	14.627	磨石	複輝石安山岩	5.4	4.0	3.2	94.04	
3B-94	H2	681.0	772.0	14.572	石核	黒曜石	2.5	1.7	1.1	4.22	26と接合
3B-104	H2	659.0	718.0	14.612	磨石	石英玢岩	4.9	3.4	2.3	61.12	
3B-116	H2	713.0	678.0	14.593	磨石	石英玢岩	6.6	5.2	3.7	192.85	赤化
3B-122	H2	832.0	678.5	14.612	磨石	石英玢岩	5.1	3.7	2.8	71.83	
3B-136	H2	635.0	658.0	14.620	磨石	複輝石安山岩	6.2	5.8	3.0	159.05	赤化
3B-146	H2	566.0	850.0	14.732	破片	黒曜石	0.9	1.2	0.2	0.20	
3B-159	H2	659.0	713.0	14.553	剥片	黒曜石	1.9	1.4	0.6	1.15	

#### グリッド出土石器

番号	グリッド	北→南(cm)	西→東(cm)	標高	器種	石質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
1B-183	F3	973.0	917.0	14.636	剥片	黒曜石	3.20	4.40	1.60	21.47	
1B-204	F3	754.5	950.0	14.678	石核	黒曜石	2.10	3.40	1.70	8.66	

第12図 磯群 1



#### (4) 磯群

磯群は3基検出された。B区からは検出されておらず、磯群の分布は台地の平坦面に沿って広がっていくものと考えられる。磯群2は石器集中1と、磯群3は石器集中2と重複している。

磯の接合は、それぞれの磯群内でのみ接合し、磯群を超えて接合はしなかった(第17図)。

また、磯群1は調査区外に続くと考えられ、磯群2と3は、縄文時代の遺構の密集地と重なっており、本来の磯群の分布と、多少異なると考えられる。

#### 磯群1(第12図・第13図)

A区の北端F-3・4、G-3・4グリッドにまた

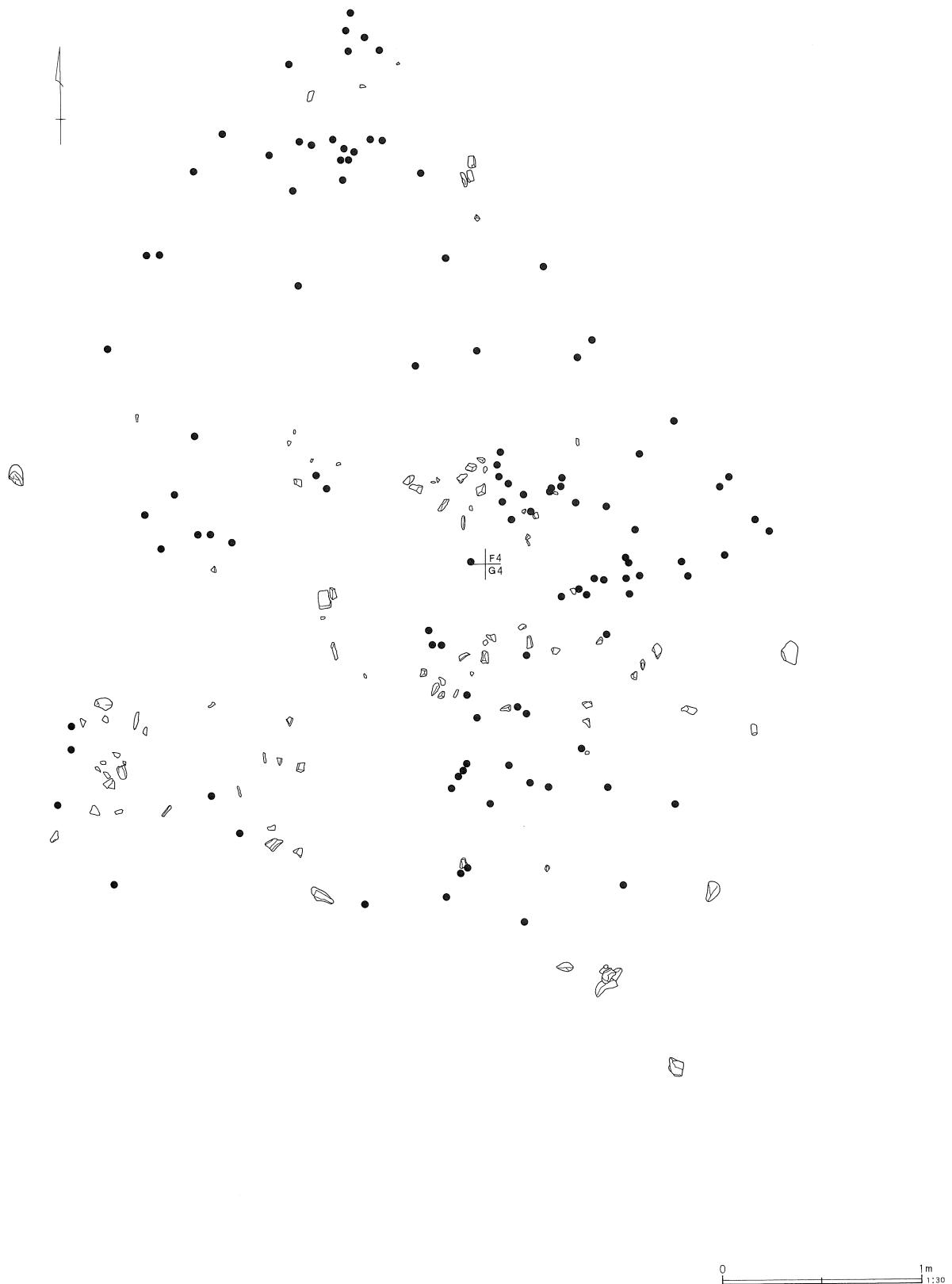
がって検出された。磯群は調査区外に続くもので、全体の規模は不明である。石器集中は重複して検出されなかったが、単独の石器2点が磯群1内の、F-3グリッドで検出されており、磯群1の北側の続きが調査されれば、石器集中となる可能性がある。

磯群は、やや散漫に分布して検出された。磯は小形のものが多く、細かい破片が多かった。そのため重量も400gを超えるものはなく、100g前後が多かった。

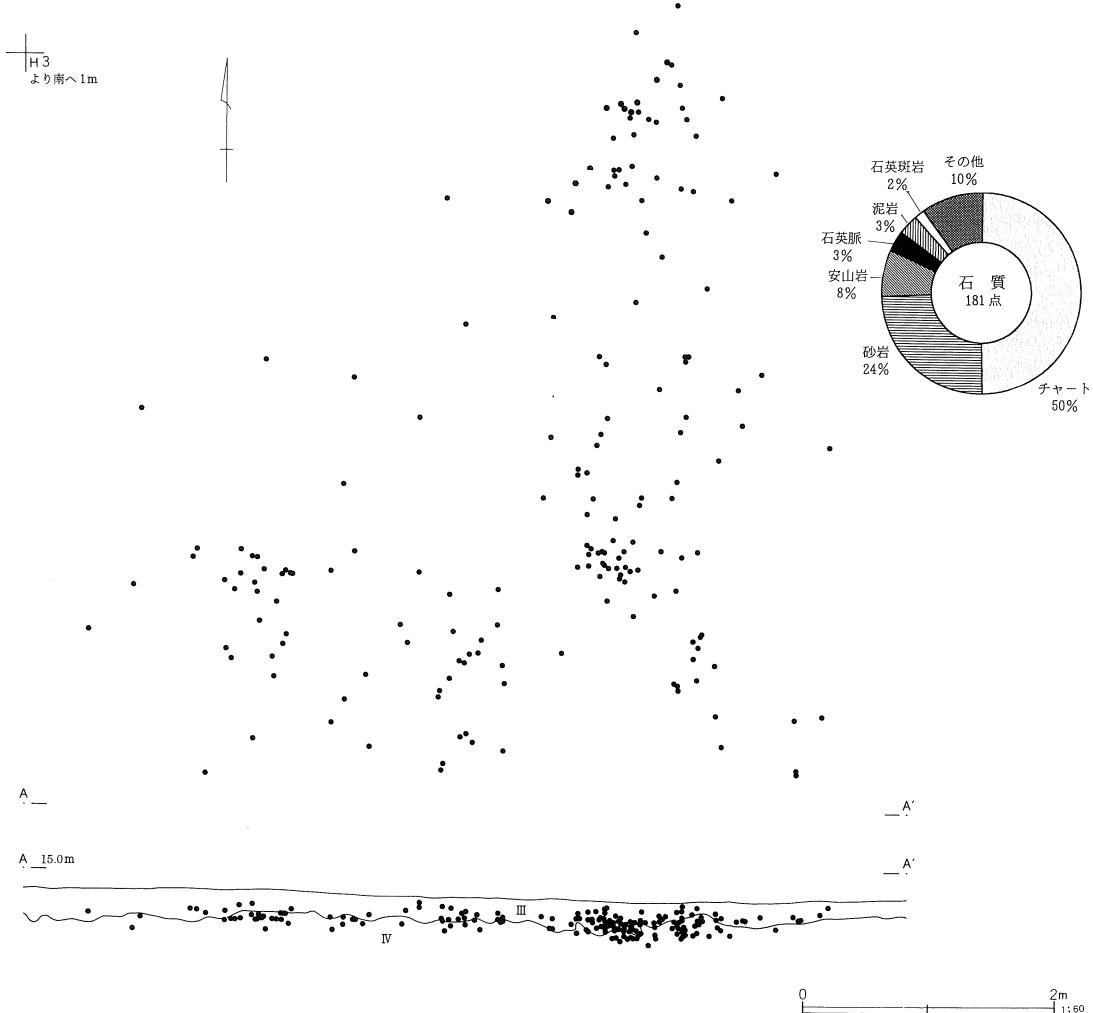
垂直分布は、III層とIV層との境界部分に密集して分布していた。

磯の総数は205点で、石材はチャートが全体の78%を占めていた。

第13図 碓群Ⅰ微細図



第14図 磯群2



#### 磯群2 (第14図・第15図)

A区のほぼ中央、H-3グリッドから検出された。

磯の分布は径約7mで、やや密集する部分はあるが、全体的に散漫に出土した。

磯は小形のものが多く、小破片も多かった。そのため、磯群1と同様に、重量が100g以下のものが多くを占めている。

磯の垂直分布は、III層とIV層の境界部分に集中しており、重複する石器集中1と同様であった。

磯の総数は181点で、石材は、磯群1ではチャートが78%を占めていたのに対し、磯群2ではチャートの割合は50%となり、砂岩が24%となっている。

#### 磯群3 (第16図)

H-2グリッド、磯群2の西側から検出された。

磯の分布は径約5mで、磯群の中央には2箇所の密集部分が認められ、その周辺に磯が散漫に分布して検出された。

磯群3は磯群1・2と比べると、完形に近い磯が多く検出されている。しかしながら、磯の大きさはやはりこぶし大のものが多い。

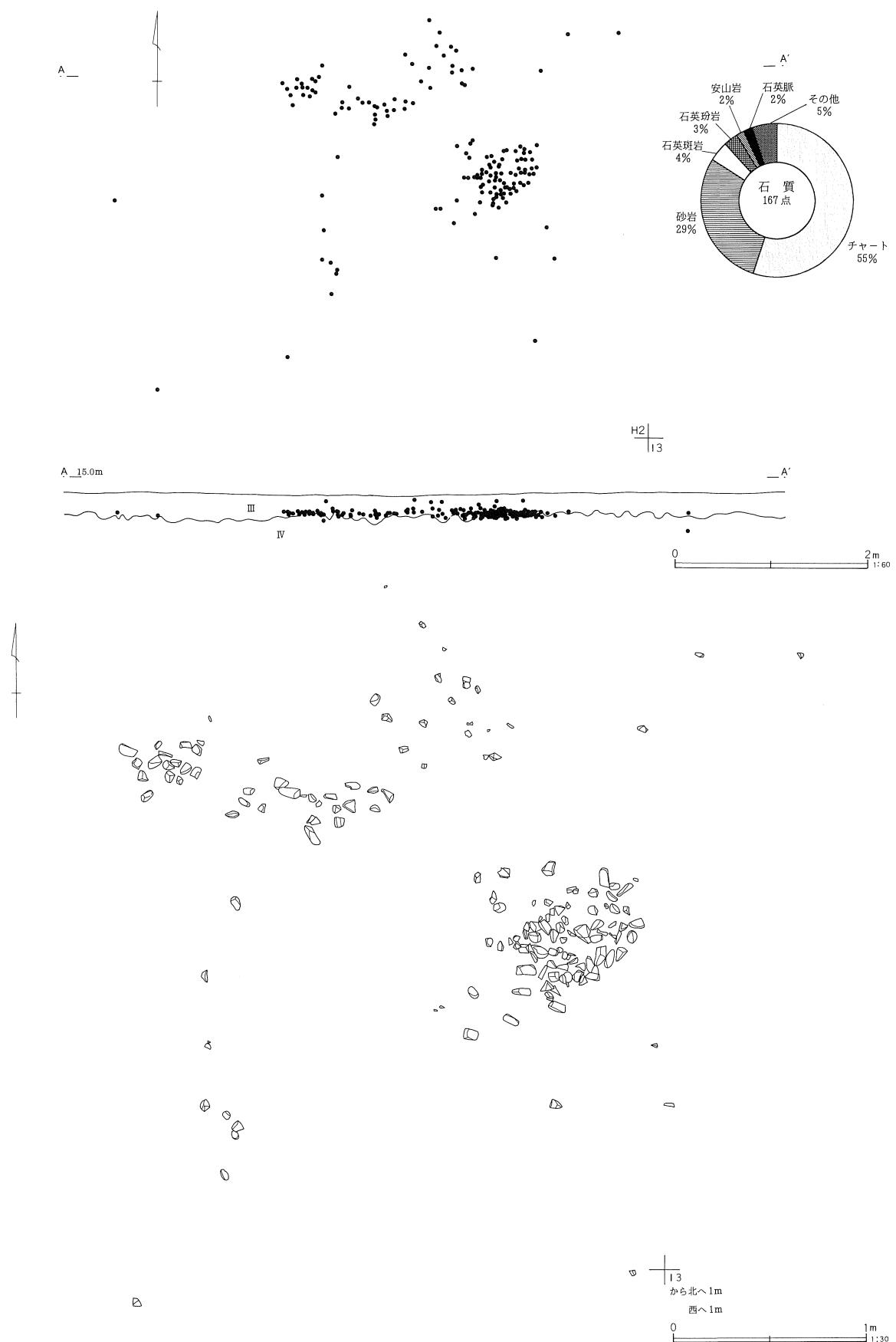
磯の垂直分布は、他と同様にIII層とIV層の境界部分に集中していた。

磯の総数は167点で、石材はチャート55%、砂岩29%と、磯群2の組成と似通っていた。

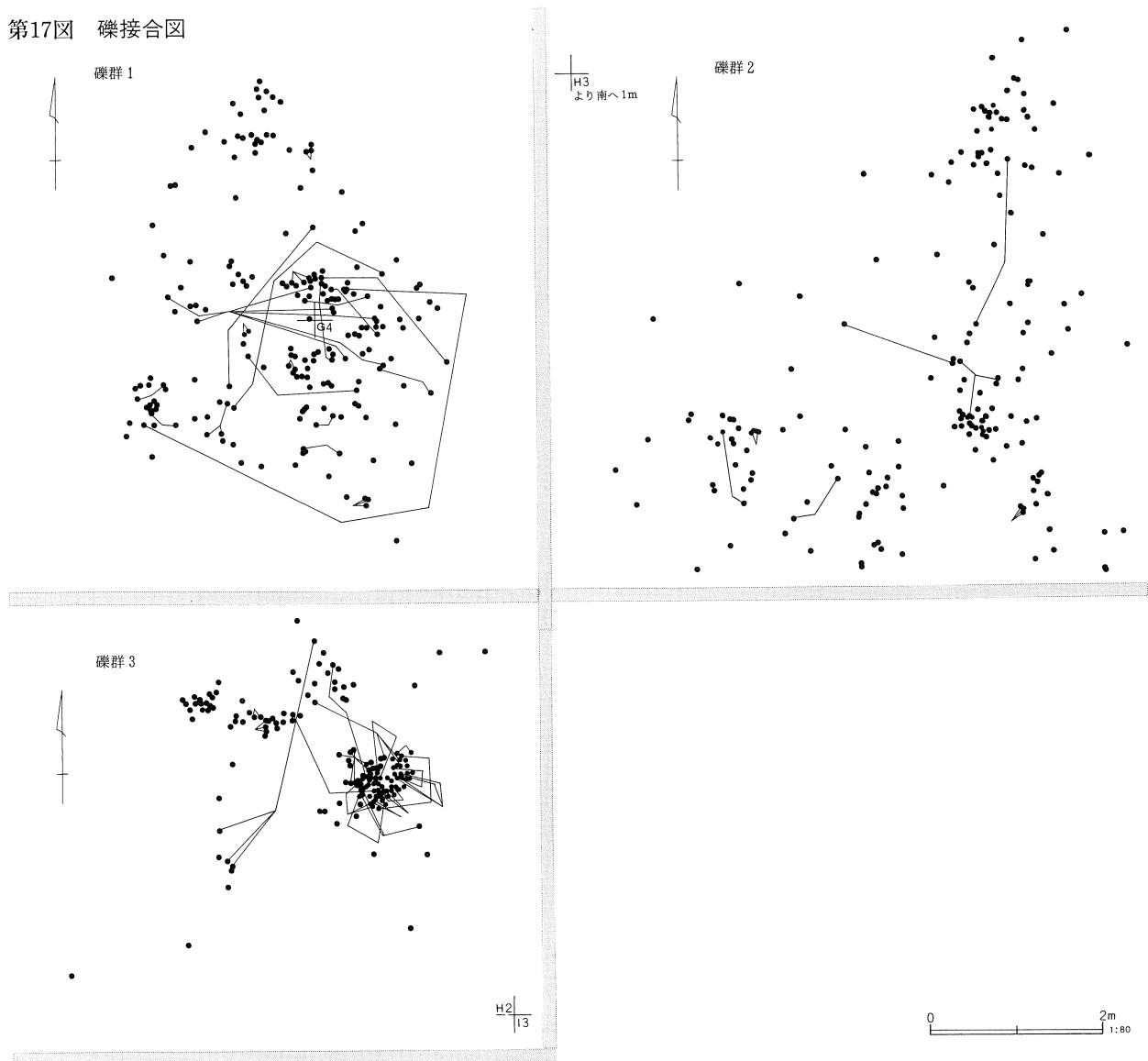
第15図 磚群 2 微細図



第16図 碓群3・礫群3微細図



第17図 碓接合図



礫群 1 接合

接合番号／長さ×幅×厚さ(cm)

7+20  
12+77+82+185  
37+172  
40+155+156  
44+90+120+124+130+176+187  
72+153  
78+164  
83+108  
86+152  
102+103  
109+119  
113+206+207／9.1×8.1×7.3  
116+146  
125+135／4.1×4.1×1.1  
137+140  
148+149

159+165  
190+192+208  
199+200  
144+145

接合番号／長さ×幅×厚さ(cm)

3+12／6.4×3.5×3.5  
15+17  
22+28／5.0×2.3×2.0  
67+68+69  
85+117／6.6×5.0×1.8  
112+183  
116+122+129+3B139

礫群 2 接合

接合番号／長さ×幅×厚さ(cm)

7+8+9+33／8.6×6.9×2.4

12+14／11.0×4.8×1.9  
13+84／8.4×4.3×4.1

15+17+20+95／9.9×5.2×3.5  
18+32／8.7×4.7×3.0

22+23+25+28+49+50+53+55／12.5×5.3×3.6

29+82+83／5.3×4.1×2.5

39+41／7.7×5.7×3.3

54+167

58+80+150／7.5×5.0×4.8

62+63／5.5×4.2×2.8

65+157／5.6×3.4×3.4

67+98／7.5×4.5×2.7

77+78／7.6×6.3×5.0

105+106+158／5.0×4.5×2.5

108+148／9.0×5.7×2.4

118+120+121+144／10.1×5.3×3.8

152+153／5.5×4.7×2.3

## 礫群 I

番号	グリッド	北→南(cm)	西→東(cm)	標高 (m)	石質	重さ(g)	備考 <長さ×幅×厚さ(cm)>
1B- 1	F 3	790.0	943.0	14.80	チャート	60.78	赤化
1B- 2	F 3	797.0	936.0	14.79	チャート	4.68	
1B- 4	F 3	848.0	982.0	14.75	チャート	7.53	
1B- 5	F 3	892.0	814.0	14.79	チャート	8.38	
1B- 6	F 4	960.0	12.0	14.82	チャート	38.48	赤化
1B- 7	F 4	965.0	18.0	14.82	チャート	28.16	赤化
1B- 8	F 4	965.0	35.0	14.81	チャート	19.57	赤化
1B- 9	F 4	970.0	35.0	14.81	チャート	7.93	
1B-10	F 4	959.0	38.0	14.79	砂岩	4.67	赤化
1B-11	F 4	970.0	44.0	14.79	砂岩(細粒)	8.14	赤化
1B-12	G 4	46.0	20.0	14.86	チャート	53.16	
1B-13	G 4	70.0	16.0	14.86	チャート	4.80	
1B-14	G 4	74.0	19.0	14.85	チャート	52.24	赤化
1B-15	G 4	99.0	9.0	14.80	チャート	2.22	赤化
1B-16	G 4	94.0	46.0	14.84	チャート	12.26	赤化
1B-17	G 4	8.0	54.0	14.79	チャート	20.72	赤化
1B-18	G 4	8.0	57.0	14.80	チャート	28.72	赤化
1B-19	G 4	8.0	68.0	14.78	チャート	27.67	赤化
1B-20	G 4	16.0	70.0	14.80	チャート	17.12	赤化
1B-21	G 4	33.0	63.0	14.80	チャート	35.23	赤化
1B-22	G 3	32.0	972.0	14.80	チャート	21.21	赤化
1B-23	G 3	38.0	974.0	14.80	チャート	18.59	
1B-24	G 3	40.0	979.0	14.79	チャート	83.70	赤化
1B-25	G 3	64.0	988.0	14.80	チャート	20.39	赤化
1B-26	G 3	74.0	930.0	14.83	チャート	17.03	赤化
1B-27	G 3	100.0	988.0	14.80	チャート	3.88	
1B-28	G 3	101.0	987.0	14.79	チャート	3.18	赤化
1B-29	G 3	103.0	985.0	14.80	石英玢岩	23.87	赤化
1B-30	G 3	111.0	982.0	14.84	砂岩(ホルンフェルス化)	5.66	赤化
1B-32	G 3	152.0	986.0	14.80	チャート	14.23	赤化
1B-33	G 3	164.0	978.0	14.81	砂岩	40.34	炭
1B-34	G 3	166.0	938.0	14.77	チャート	31.54	赤化
1B-35	G 3	155.0	812.0	14.79	チャート	4.98	
1B-36	G 3	116.0	785.0	14.78	チャート	15.43	赤化
1B-37	G 3	90.0	792.0	14.76	チャート	80.61	赤化
1B-38	G 3	79.0	794.0	14.71	砂岩	251.16	赤化・炭
1B-39	G 3	112.0	862.0	14.78	チャート	19.02	赤化
1B-40	G 3	130.0	876.0	14.76	チャート	15.26	赤化
1B-41	F 3	984.0	862.0	14.78	チャート	32.92	
1B-42	F 3	983.0	858.0	14.77	チャート	14.64	赤化
1B-43	F 3	963.0	846.0	14.74	チャート	36.07	赤化
1B-44	F 3	974.0	830.0	14.74	チャート	21.57	赤化
1B-45	F 3	990.0	838.0	14.75	チャート	5.03	赤化
1B-46	F 3	987.0	872.0	14.75	砂岩	19.44	
1B-47	F 3	935.0	855.0	14.72	チャート	95.78	赤化
1B-48	F 3	964.0	920.0	14.73	細粒砂岩	19.77	赤化
1B-49	F 3	956.0	916.0	14.73	細粒砂岩	43.90	赤化
1B-50	F 3	860.0	908.0	14.72	チャート	5.82	赤化
1B-51	F 3	744.0	934.0	14.75	チャート	9.93	
1B-52	F 3	728.0	934.0	14.73	チャート	160.30	<6.8×4.65×3.45>

番号	グリッド	北→南(cm)	西→東(cm)	標高(m)	石質	重さ(g)	備考 <長さ×幅×厚さ(cm)>
1B-53	F 3	736.0	932.0	14.72	チャート	212.89	赤化
1B-54	F 3	738.0	942.0	14.75	チャート	163.71	赤化
1B-55	F 3	752.0	905.0	14.70	チャート	104.12	炭
1B-56	F 3	746.0	950.0	14.73	チャート	52.60	赤化
1B-57	F 3	787.0	871.0	14.73	チャート	46.91	赤化
1B-58	F 3	804.0	858.0	14.76	チャート	75.80	赤化
1B-59	F 3	846.0	834.0	14.74	チャート	5.55	赤化
1B-60	F 3	844.0	838.0	14.76	砂岩	38.71	<5.2×2.8×2.0>
1B-61	F 3	789.0	927.0	14.70	砂岩	140.90	赤化
1B-62	F 3	796.0	932.0	14.71	砂岩	216.82	赤化
1B-63	F 3	789.0	950.0	14.69	砂岩	62.60	赤化 <2.5×1.65×0.9>
1B-64	F 3	804.0	927.0	14.69	泥岩	39.97	赤化 <4.1×3.1×2.2>
1B-65	F 3	800.0	928.0	14.72	泥岩	165.32	炭 <6.5×4.6×3.7>
1B-66	F 3	800.0	932.0	14.72	泥岩	71.36	赤化
1B-67	F 3	790.0	909.0	14.73	泥岩	143.35	赤化
1B-68	F 3	792.0	915.0	14.70	泥岩	24.92	赤化
1B-69	F 3	814.0	906.0	14.71	泥岩	114.78	赤化
1B-70	F 3	796.0	894.0	14.73	安山岩	4.30	赤化
1B-71	F 3	900.0	966.0	14.73	チャート	18.06	赤化
1B-72	F 3	894.0	994.0	14.74	チャート	52.88	赤化
1B-73	F 3	998.0	993.0	14.77	チャート	11.98	赤化
1B-74	F 4	852.0	30.0	14.70	砂岩	23.66	赤化
1B-75	F 4	889.0	53.0	14.73	チャート	63.60	
1B-76	F 4	898.0	46.0	14.73	チャート	32.93	赤化
1B-77	F 4	972.0	60.0	14.74	チャート	15.17	
1B-78	F 4	963.0	37.0	14.80	砂岩	10.43	赤化
1B-79	F 4	975.0	22.0	14.75	チャート	43.03	赤化
1B-80	F 4	977.0	15.0	14.72	チャート	12.07	赤化
1B-81	F 4	968.0	10.0	14.74	チャート	33.75	
1B-82	F 4	957.0	8.0	14.74	チャート	32.32	
1B-83	F 4	972.0	7.0	14.72	チャート	12.84	赤化
1B-84	F 4	945.0	8.0	14.74	チャート	2.69	赤化
1B-85	F 4	930.0	93.0	14.76	チャート	4.94	赤化
1B-86	F 4	947.0	76.0	14.71	チャート	20.83	赤化
1B-87	F 4	958.0	120.0	14.76	チャート	4.78	
1B-88	F 4	962.0	116.0	14.76	チャート	26.23	赤化
1B-89	F 4	983.0	74.0	14.73	チャート	49.73	
1B-90	F 4	998.0	70.0	14.73	チャート	68.35	赤化
1B-91	F 4	998.0	98.0	14.77	チャート	17.60	赤化
1B-92	F 4	978.0	132.0	14.79	チャート	3.65	赤化
1B-93	F 4	984.0	140.0	14.83	砂岩	34.59	
1B-94	F 4	996.0	118.0	14.73	チャート	154.43	赤化
1B-95	G 4	0.0	72.0	14.75	チャート	81.77	赤化
1B-96	G 4	7.0	76.0	14.76	チャート	41.73	
1B-97	G 4	7.0	100.0	14.76	砂岩	13.38	赤化
1B-98	G 4	15.0	46.0	14.73	砂岩	57.11	赤化
1B-99	G 4	17.0	38.0	14.76	チャート	34.70	
1B-100	G 4	16.0	50.0	14.70	チャート	15.56	赤化
1B-101	G 4	175.0	15.0	14.81	チャート	49.49	
1B-102	G 4	118.0	2.0	14.75	チャート	16.68	
1B-103	G 4	108.0	20.0	14.76	チャート	6.75	

番号	グリッド	北→南(cm)	西→東(cm)	標高(m)	石質	重さ(g)	備考 <長さ×幅×厚さ(cm)>
1B-104	G 4	110.0	29.0	14.76	砂岩	9.12	赤化
1B-105	G 4	110.0	58.0	14.77	チャート	2.58	赤化
1B-106	G 4	158.0	66.0	14.75	チャート	14.28	
1B-107	G 4	119.0	92.0	14.77	チャート	20.05	
1B-108	G 4	45.5	151.5	14.70	チャート	253.53	赤化・風化
1B-109	G 4	83.0	133.0	14.68	チャート	48.26	赤化
1B-110	G 4	73.0	102.0	14.71	チャート	22.54	赤化
1B-111	G 4	163.0	112.0	14.69	安山岩	324.18	赤化 <10.6×5.0×4.2>
1B-112	G 4	250.0	93.0	14.69	チャート	307.53	赤化
1B-113	G 4	203.0	58.0	14.71	チャート	417.12	赤化
1B-114	G 4	200.0	37.0	14.70	泥岩	171.67	赤化
1B-115	G 4	94.0	50.0	14.76	チャート	3.67	赤化
1B-116	G 4	79.0	50.0	14.71	砂岩	13.51	
1B-117	G 4	70.0	51.0	14.72	チャート	39.10	赤化
1B-118	G 4	—	—	14.72	チャート	28.74	赤化
1B-119	G 4	56.5	73.5	14.79	チャート	25.49	赤化
1B-120	G 4	51.0	78.0	14.78	チャート	19.07	赤化
1B-121	G 4	43.0	86.0	14.74	チャート	61.49	赤化
1B-122	G 4	38.0	57.0	14.70	チャート	23.21	赤化
1B-123	G 4	71.0	10.0	14.71	石英脈	16.08	
1B-124	G 4	43.0	34.0	14.73	チャート	69.76	赤化
1B-125	G 4	151.0	29.5	14.64	石英片岩?	3.70	赤化
1B-126	G 4	39.0	21.5	14.70	チャート	27.20	赤化
1B-127	G 4	31.5	18.0	14.63	チャート	49.59	赤化
1B-128	G 4	13.5	43.5	14.66	砂岩	34.40	赤化 <4.3×3.2×1.6>
1B-129	F 4	990.0	21.5	14.65	チャート	1.25	
1B-130	F 4	986.5	21.5	14.66	チャート	8.28	赤化
1B-131	F 4	974.0	19.0	14.73	チャート	3.77	赤化
1B-132	F 4	976.5	25.0	14.72	チャート	16.91	赤化
1B-133	F 4	965.0	35.0	14.66	チャート	5.52	赤化
1B-134	F 4	940.0	46.0	14.62	チャート	10.15	赤化
1B-135	G 3	147.5	988.0	14.72	石英片岩?	26.22	赤化
1B-136	G 3	64.0	985.0	14.70	チャート	18.61	赤化
1B-137	G 3	64.5	977.5	14.71	砂岩	52.68	赤化
1B-138	G 3	61.5	975.0	14.72	チャート	50.75	赤化
1B-139	G 3	58.0	978.5	14.70	チャート	43.38	赤化
1B-140	G 3	53.5	969.0	14.66	チャート	55.62	赤化
1B-141	G 3	54.0	993.0	14.68	チャート	6.63	赤化
1B-142	G 3	45.0	988.5	14.71	チャート	108.44	赤化
1B-143	G 3	46.0	999.0	14.73	チャート	48.50	赤化
1B-144	G 3	39.0	999.5	14.73	チャート	12.24	赤化
1B-145	G 4	36.5	3.0	14.72	チャート	23.21	赤化
1B-146	G 3	42.5	924.5	14.69	チャート	94.51	赤化
1B-147	G 3	26.0	919.0	14.64	チャート	2.63	
1B-148	G 3	16.5	919.5	14.68	チャート	281.22	赤化
1B-149	G 3	14.0	924.0	14.65	チャート	65.55	赤化
1B-150	G 3	164.0	917.0	14.72	チャート	331.08	赤化
1B-151	G 3	142.5	906.0	14.73	チャート	45.76	赤化
1B-152	G 3	200.0	907.0	14.72	チャート	32.58	
1B-153	G 3	77.0	902.0	14.72	チャート	68.48	
1B-154	G 3	138.0	894.0	14.68	チャート	146.90	赤化

番号	グリッド	北→南(cm)	西→東(cm)	標高(m)	石質	重さ(g)	備考 <長さ×幅×厚さ(cm)>
1B-155	G 3	130.0	892.0	14.69	チャート	35.82	赤化
1B-156	G 3	97.0	897.0	14.71	チャート	32.17	赤化
1B-157	G 3	95.0	889.0	14.73	チャート	9.71	
1B-158	G 3	112.0	876.0	14.67	泥岩	6.29	
1B-159	G 3	121.0	840.0	14.72	チャート	30.85	
1B-160	G 3	55.0	939.5	14.62	チャート	4.19	
1B-161	G 3	69.0	862.5	14.63	泥岩	3.30	
1B-162	G 3	121.0	816.0	14.62	チャート	12.29	赤化
1B-163	G 3	133.0	784.0	14.72	チャート	46.08	
1B-164	G 3	121.0	804.0	14.72	砂岩	66.39	赤化
1B-165	G 3	107.0	812.0	14.70	チャート	58.26	
1B-166	G 3	103.0	810.0	14.70	チャート	38.60	赤化
1B-167	G 3	100.0	806.0	14.71	チャート	18.00	炭
1B-168	G 3	103.0	818.0	14.68	砂岩	66.35	赤化
1B-169	G 3	97.5	808.0	14.74	チャート	23.43	赤化
1B-170	G 3	93.5	815.5	14.72	チャート	18.52	赤化
1B-171	G 3	82.0	829.0	14.70	チャート	34.68	赤化
1B-172	G 3	76.0	825.0	14.70	チャート	24.52	赤化
1B-173	G 3	76.0	810.0	14.68	チャート	23.16	赤化
1B-174	G 3	68.0	809.0	14.68	チャート	303.06	赤化 <7.5×6.8×4.1>
1B-175	G 3	77.0	798.0	14.68	チャート	45.03	赤化
1B-176	G 3	2.0	864.0	14.63	チャート	16.45	赤化
1B-177	G 3	97.5	819.0	14.69	チャート	12.43	赤化
1B-178	F 3	926.5	826.5	14.67	砂岩	6.04	
1B-179	F 3	939.5	902.5	14.69	チャート	5.96	
1B-180	F 3	934.0	905.5	14.68	泥岩	0.61	
1B-181	F 3	948.0	914.0	14.76	チャート	1.83	
1B-182	F 3	959.0	907.0	14.69	砂岩	14.41	
1B-184	F 3	949.5	927.0	14.70	チャート	2.04	
1B-185	F 3	980.0	989.0	14.74	チャート	20.75	
1B-186	F 3	972.5	993.0	14.74	チャート	6.88	
1B-187	F 3	963.0	998.0	14.73	チャート	70.46	赤化
1B-188	F 3	953.0	999.5	14.59	チャート	15.58	
1B-189	F 3	948.0	998.0	14.66	チャート	14.69	赤化
1B-190	F 3	952.0	993.0	14.66	チャート	55.43	赤化
1B-191	F 3	956.0	994.0	14.66	チャート	2.86	
1B-192	F 3	957.5	988.0	14.66	チャート	63.48	赤化
1B-193	F 3	971.0	979.0	14.62	泥岩	86.46	赤化
1B-194	F 3	961.0	979.0	14.75	砂岩	6.25	
1B-195	F 3	957.5	977.0	14.73	チャート	10.31	炭
1B-196	F 3	962.5	966.0	14.70	チャート	86.83	赤化
1B-197	F 3	958.0	962.0	14.70	砂岩	70.24	赤化
1B-198	F 3	828.5	997.0	14.63	チャート	12.71	
1B-199	F 3	809.0	991.0	14.63	砂岩	68.72	赤化
1B-200	F 3	807.5	994.0	14.63	砂岩	45.37	赤化
1B-201	F 3	800.0	994.5	14.64	チャート	204.80	
1B-202	F 3	767.5	914.5	14.62	チャート	29.13	
1B-203	F 3	763.0	941.0	14.63	砂岩	10.40	炭
1B-205	F 3	954.5	766.0	14.69	チャート	303.38	
1B-206	G 4	209.0	58.0	14.68	チャート	243.84	赤化
1B-207	G 4	204.0	63.0	14.69	チャート	68.14	赤化

番号	グリッド	北→南(cm)	西→東(cm)	標高(m)	石質	重さ(g)	備考 <長さ×幅×厚さ(cm)>
1B-208	F 3	959.5	974.5	14.62	チャート	6.83	赤化
1B-209	F 3	751.5	959.0	14.66	砂岩	3.95	赤化

礫群2

番号	グリッド	北→南(cm)	西→東(cm)	標高(m)	石質	重さ(g)	備考 <長さ×幅×厚さ(cm)>
2B-1	H 3	664.0	145.0	14.66	チャート	37.92	
2B-2	H 3	637.5	183.0	14.64	泥岩	67.72	赤化
2B-3	H 3	589.0	199.5	14.61	砂岩	98.99	赤化
2B-4	H 3	573.0	197.0	14.61	砂岩	50.30	赤化
2B-5	H 3	574.0	164.0	14.61	砂岩	29.17	赤化
2B-6	H 3	565.0	160.0	14.64	砂岩(古生代)	43.37	赤化
2B-7	H 3	545.0	186.0	14.63	砂岩	101.91	赤化 <6.7×3.8×2.9>
2B-8	H 3	530.0	200.0	14.61	チャート	93.55	赤化 <6.2×4.2×2.5>
2B-9	H 3	522.0	185.0	14.61	チャート	65.23	赤化 <6.6×3.0×2.4>
2B-10	H 3	514.0	183.5	14.61	砂岩	65.54	赤化 <4.9×3.0×2.5>
2B-11	H 3	505.0	190.0	14.63	チャート	75.78	赤化
2B-12	H 3	508.0	172.0	14.62	砂岩	5.61	赤化
2B-13	H 3	520.0	168.0	14.61	砂岩	57.44	赤化
2B-14	H 3	512.0	159.0	14.60	安山岩	54.46	赤化
2B-15	H 3	507.0	205.0	14.67	チャート	9.50	赤化
2B-16	H 3	505.0	206.5	14.67	砂岩	31.39	赤化 <3.2×2.8×2.1>
2B-17	H 3	508.0	211.0	14.58	チャート	15.21	赤化
2B-18	H 3	507.0	213.0	14.67	安山岩	33.33	
2B-19	H 3	555.0	208.0	14.66	安山岩	23.61	赤化
2B-21	H 3	563.0	205.0	14.61	チャート	76.45	赤化 <6.5×3.8×2.6>
2B-22	H 3	606.0	253.0	14.59	泥質砂岩	23.71	赤化 <5.1×2.6×1.2>
2B-23	H 3	622.5	243.0	14.64	砂岩	53.44	
2B-24	H 3	642.0	273.0	14.64	チャート	29.36	
2B-25	H 3	587.0	271.0	14.59	砂岩	42.45	赤化
2B-26	H 3	547.0	298.0	14.58	砂岩	1.79	
2B-27	H 3	505.0	313.0	14.70	チャート	7.76	赤化
2B-28	H 3	561.0	304.0	14.68	泥質砂岩	5.28	赤化
2B-29	H 3	551.0	340.5	14.70	变成岩中の石英脈	57.93	赤化 <7.2×2.1×2.4>
2B-30	H 3	523.0	338.0	14.58	チャート	306.17	赤化・炭
2B-31	H 3	519.0	375.0	14.61	チャート	37.80	赤化 <4.3×3.1×2.1>
2B-32	H 3	546.0	375.0	14.67	砂岩	10.23	赤化
2B-33	H 3	578.0	380.0	14.62	石英脈	46.11	
2B-34	H 3	592.0	382.0	14.62	チャート	135.13	<5.2×4.6×3.5>
2B-35	H 3	568.0	360.0	14.65	チャート	23.59	<3.7×2.1×2.0>
2B-36	H 3	569.5	353.0	14.60	泥岩	44.27	
2B-37	H 3	577.0	350.0	14.62	砂岩のホルンフェルス	44.83	赤化 <4.7×3.2×2.5>
2B-38	H 3	575.0	345.0	14.61	チャート	11.24	赤化
2B-39	H 3	589.0	336.5	14.61	チャート	58.98	赤化 <4.7×3.7×2.3>
2B-40	H 3	599.5	330.0	14.61	チャート	48.02	赤化 <6.2×3.7×1.2>
2B-41	H 3	604.0	330.0	14.61	安山岩	118.43	赤化・炭 <7.1×4.2×3.4>
2B-42	H 3	656.0	332.0	14.61	砂岩	27.87	赤化・炭
2B-43	H 3	661.0	332.0	14.71	砂岩のホルンフェルス	28.42	赤化 <3.3×3.2×1.6>
2B-44	H 3	634.0	346.0	14.67	チャート	37.47	赤化
2B-45	H 3	632.0	351.0	14.67	チャート	36.56	赤化 <4.5×2.0×2.2>
2B-46	H 3	639.0	357.0	14.62	砂岩	61.68	赤化・炭 <5.2×3.9×2.6>
2B-47	H 3	646.0	378.0	14.61	砂岩	126.48	<5.9×4.3×3.1>

番号	グリッド	北→南(cm)	西→東(cm)	標高(m)	石質	重さ(g)	備考 <長さ×幅×厚さ(cm)>
2B-48	H 3	568.0	426.0	14.55	安山岩	26.33	炭 <3.8×2.2×2.1>
2B-49	H 3	501.0	439.0	14.62	チャート	40.48	赤化 <4.4×3.5×2.0>
2B-50	H 3	507.0	356.5	14.63	石英脈	44.21	<4.8×3.5×2.1>
2B-51	H 3	500.5	464.0	14.63	石英脈	18.21	
2B-52	H 3	500.5	469.0	14.63	石英安山岩	49.73	赤化 <4.9×3.4×2.6>
2B-53	H 3	507.0	473.5	14.63	砂岩	63.19	赤化・炭 <6.4×2.3×2.3>
2B-54	H 3	509.0	472.0	14.61	砂岩	158.12	赤化・炭 <5.9×5.6×3.0>
2B-55	H 3	527.0	463.0	14.56	チャート	55.74	<4.9×2.9×2.5>
2B-56	H 3	512.5	478.0	14.58	チャート	26.26	<3.7×2.5×1.3>
2B-57	H 3	503.0	481.5	14.61	チャート	45.89	赤化 <5.0×3.3×2.4>
2B-58	H 3	502.0	487.0	14.57	チャート	37.16	赤化
2B-59	H 3	518.0	516.0	14.59	石英玢岩	21.54	赤化
2B-60	H 3	522.0	500.0	14.60	石英斑岩	33.28	赤化 <4.3×2.4×1.7>
2B-61	H 3	539.0	483.0	14.58	石英脈	32.05	<3.8×3.3×2.0>
2B-62	H 3	555.0	538.0	14.63	チャート	3.23	
2B-63	H 3	556.0	537.0	14.61	チャート	5.77	
2B-64	H 3	565.0	534.5	14.60	チャート	88.26	赤化
2B-65	H 3	574.0	532.0	14.58	砂岩	40.75	
2B-66	H 3	591.0	534.5	14.61	チャート	1176.94	<13.2×9.9×6.1>
2B-67	H 3	593.0	520.0	14.63	チャート	11.60	赤化
2B-68	H 3	595.0	520.0	14.63	チャート	6.87	赤化
2B-69	H 3	593.0	517.0	14.62	チャート	175.99	赤化
2B-70	H 3	618.0	550.0	14.57	チャート	50.89	赤化
2B-71	H 3	641.0	554.0	14.63	砂岩	167.92	赤化
2B-72	H 3	664.0	613.0	14.62	チャート	36.60	赤化
2B-73	H 3	661.0	613.0	14.62	チャート	3.60	赤化
2B-74	H 3	621.0	611.0	14.64	チャート	87.30	赤化
2B-75	H 3	618.0	632.0	14.67	チャート	139.29	赤化
2B-76	H 3	577.0	547.0	14.67	砂岩	617.37	<10.8×7.6×6.0>
2B-77	H 3	495.0	133.0	14.69	火成岩	39.43	赤化・炭・風化
2B-78	H 3	488.0	138.0	14.68	泥岩	19.65	赤化・炭
2B-79	H 3	488.5	173.0	14.72	安山岩	45.53	赤化・炭 <4.2×3.2×2.4>
2B-80	H 3	494.0	181.5	14.72	チャート	43.02	赤化・炭
2B-81	H 3	489.0	262.0	14.62	石英玢岩	55.26	赤化
2B-82	H 3	435.0	253.0	14.63	砂岩	42.30	赤化
2B-83	H 3	353.0	262.0	14.62	チャート	58.42	赤化
2B-85	H 3	383.5	313.0	14.74	砂岩	7.22	
2B-86	H 3	310.0	349.0	14.58	泥岩のホルンフェルス	16.37	<3.1×2.5×1.7>
2B-87	H 3	211.0	334.0	14.53	チャート	25.68	赤化
2B-89	H 3	138.0	462.0	14.66	チャート	849.77	炭
2B-90	H 3	144.0	487.0	14.49	安山岩	25.91	<3.6×2.4×2.3>
2B-91	H 3	148.0	481.0	14.49	砂岩	33.52	<4.7×3.4×1.6>
2B-92	H 3	161.0	484.0	14.53	チャート	38.25	赤化 <4.3×3.2×2.0>
2B-93	H 3	164.0	468.0	14.58	チャート	35.20	赤化・炭 <3.8×2.6×1.6>
2B-94	H 3	186.0	482.0	14.48	石英斑岩	54.55	赤化 <5.7×2.8×2.1>
2B-95	H 3	189.0	472.0	14.56	砂岩	31.27	赤化・炭 <4.1×2.4×1.9>
2B-96	H 3	194.0	469.0	14.58	チャート	43.88	赤化・炭 <4.9×3.0×1.7>
2B-97	H 3	202.0	464.0	14.59	チャート	24.80	赤化・炭 <4.3×2.2×1.8>
2B-98	H 3	187.0	447.5	14.53	チャート	70.28	赤化・炭 <4.3×2.7×2.6>
2B-99	H 3	200.0	437.0	14.52	石英脈	20.79	
2B-101	H 3	211.0	415.0	14.56	石英脈	28.25	赤化・炭

番号	グリッド	北→南(cm)	西→東(cm)	標高(m)	石質	重き(g)	備考 <長さ×幅×厚さ(cm)>
2B-102	H 3	220.0	434.0	14.58	不明	57.02	赤化・炭 <6.8×2.7×1.9>
2B-104	H 3	211.0	489.0	14.51	複輝石安山岩	45.56	<4.8×3.0×2.7>
2B-105	H 3	236.0	492.0	14.60	泥岩のホルンフェルス	19.29	赤化
2B-106	H 3	256.0	505.0	14.62	チャート	4.02	
2B-107	H 3	292.0	485.0	14.53	砂岩	5.83	
2B-108	H 3	303.5	419.0	14.62	砂岩	31.37	<4.6×2.5×1.7>
2B-110	H 3	334.0	456.0	14.62	砂岩(古生代)	14.67	赤化
2B-111	H 3	341.0	461.0	14.61	安山岩	1.52	
2B-112	H 3	383.0	462.0	14.53	チャート	20.48	
2B-113	H 3	397.0	457.0	14.57	砂岩	60.22	赤化
2B-114	H 3	405.0	453.5	14.57	砂岩	81.29	赤化
2B-115	H 3	397.0	418.0	14.55	砂岩	40.93	赤化
2B-116	H 3	426.0	447.0	14.68	チャート	17.90	
2B-117	H 3	429.0	440.5	14.67	砂岩	63.58	赤化
2B-118	H 3	446.0	411.0	14.63	チャート	23.59	
2B-119	H 3	446.0	451.0	14.61	チャート	31.10	赤化
2B-120	H 3	458.0	447.0	14.62	チャート	35.70	赤化 <3.3×3.0×1.9>
2B-121	H 3	461.0	469.0	14.67	チャート	20.89	<3.5×2.0×1.7>
2B-122	H 3	446.0	490.0	14.68	チャート	17.10	
2B-123	H 3	452.5	489.0	14.62	砂岩	17.69	赤化・炭
2B-124	H 3	481.0	483.0	14.60	チャート	33.62	<4.8×3.0×1.9>
2B-125	H 3	479.0	468.0	14.54	チャート	35.62	<3.8×2.8×2.2>
2B-126	H 3	487.5	476.0	14.56	チャート	38.85	赤化 <3.8×3.3×2.3>
2B-127	H 3	493.5	474.0	14.60	砂岩	28.40	<3.5×2.6×2.0>
2B-128	H 3	489.0	461.0	14.70	チャート	41.14	赤化・炭 <3.9×3.2×2.2>
2B-129	H 3	487.0	459.0	14.69	チャート	19.79	
2B-130	H 3	486.0	450.0	14.62	チャート	31.52	赤化 <3.6×2.6×2.1>
2B-131	H 3	491.0	454.0	14.69	不明	34.86	赤化 <3.6×2.9×2.0>
2B-132	H 3	487.0	505.0	14.65	チャート	34.84	赤化・炭 <4.6×2.2×1.9>
2B-134	H 3	492.0	522.0	14.72	輝綠凝灰岩質チャート?	28.87	赤化・炭 <4.0×2.4×1.6>
2B-135	H 3	487.0	533.0	14.73	チャート	41.74	赤化
2B-136	H 3	446.0	514.0	14.57	泥岩	1.62	赤化
2B-137	H 3	432.0	518.0	14.68	チャート	2.88	
2B-138	H 3	416.5	550.0	14.62	砂岩	23.14	赤化 <4.9×2.5×1.2>
2B-140	H 3	394.0	520.0	14.67	砂岩	13.00	赤化
2B-142	H 3	388.0	569.0	14.62	安山岩	156.86	<6.3×5.1×3.3>
2B-143	H 3	348.0	584.0	14.64	砂岩	6.58	赤化・炭
2B-144	H 3	359.0	565.0	14.62	チャート	4.48	
2B-145	H 3	359.0	504.0	14.59	チャート	3.47	赤化
2B-146	H 3	336.0	523.0	14.56	砂岩	8.57	
2B-148	H 3	204.0	530.0	14.66	砂岩	2.92	赤化
2B-149	H 3	190.0	595.0	14.55	チャート	27.62	
2B-151	H 3	161.0	533.0	14.52	安山岩	109.84	炭 <6.8×4.2×2.8>
2B-152	H 3	149.0	526.0	14.53	チャート	28.73	赤化 <4.5×2.7×1.6>
2B-153	H 3	141.0	522.0	14.49	チャート	23.45	<4.2×2.5×1.4>
2B-154	H 3	116.0	500.0	14.56	チャート	38.64	赤化 <3.8×2.5×2.0>
2B-155	H 3	106.0	513.0	14.62	砂岩	36.42	<6.0×2.2×1.6>
2B-156	H 3	103.0	509.0	14.64	チャート	8.73	
2B-157	H 3	121.0	519.0	14.56	チャート	52.73	赤化 <4.9×3.5×2.3>
2B-158	H 3	132.0	552.0	14.55	砂岩	18.53	<4.7×3.4×0.9>
2B-159	H 3	79.0	484.0	14.60	チャート	11.41	赤化

番号	グリッド	北→南(cm)	西→東(cm)	標高(m)	石質	重さ(g)	備考 <長さ×幅×厚さ(cm)>
2B-161	H 3	57.0	518.0	14.52	安山岩	14.35	
2B-162	H 3	48.0	569.0	14.62	チャート	42.55	
2B-163	H 3	405.0	638.0	14.72	砂岩	5.62	
2B-164	H 3	338.0	192.0	14.54	チャート	3.86	
2B-165	H 3	550.0	52.0	14.65	砂岩	16.15	赤化
2B-167	H 3	516.0	87.5	14.55	チャート	77.08	赤化
2B-168	H 3	506.0	244.0	14.53	チャート	37.43	赤化 <3.8×3.0×2.0>
2B-169	H 3	557.0	363.0	14.54	泥岩	12.00	
2B-170	H 3	558.0	531.0	14.51	チャート	1.93	赤化
2B-171	H 3	378.0	93.0	14.62	チャート	6.11	赤化
2B-172	H 3	494.0	186.0	14.61	砂岩	32.03	
2B-173	H 3	423.0	440.0	14.62	チャート	74.48	赤化
2B-174	H 3	491.0	447.5	14.52	チャート	11.45	赤化
2B-175	H 3	482.5	447.5	14.54	チャート	17.55	<3.3×2.0×1.1>
2B-176	H 3	496.0	459.0	14.63	石英斑岩	70.13	赤化 <5.9×3.1×3.0>
2B-177	H 3	500.0	477.0	14.54	チャート	30.49	赤化
2B-178	H 3	143.0	481.0	14.53	チャート	49.31	<3.8×3.6×2.3>
2B-179	H 3	135.0	485.0	14.47	泥岩	1.69	<1.4×0.8×0.6>
2B-180	H 3	150.0	500.0	14.46	安山岩	39.75	赤化 <5.1×3.0×2.0>
2B-181	H 3	188.0	467.5	14.48	チャート	0.49	
2B-182	H 3	200.0	478.0	14.47	安山岩	33.29	<3.9×2.6×2.3>
2B-183	H 3	192.0	500.0	14.49	チャート	19.66	
2B-184	H 3	202.0	520.0	14.48	砂岩	44.92	炭 <4.3×4.1×2.0>
2B-185	H 3	211.0	558.5	14.50	チャート	22.88	赤化
2B-186	H 3	337.5	524.0	14.53	チャート	0.70	
2B-187	H 3	383.0	524.5	14.51	チャート	1.87	赤化
2B-188	H 3	280.0	542.0	14.51	チャート	0.08	
2B-189	H 3	500.0	460.0	14.58	砂質泥岩	26.47	赤化 <4.1×3.0×1.5>
2B-190	H 3	142.0	475.0	14.49	安山岩	33.96	<7.2×3.0×1.5>
2B-191	H 3	335.0	524.5	14.51	チャート	1.35	赤化
2B-192	H 3	135.0	473.0	14.45	チャート	13.90	赤化
2B-193	H 3	149.0	495.0	14.44	砂岩	91.90	赤化・炭 <6.2×3.4×2.9>
2B-194	H 3	776.0	800.0	14.76	チャート	41.76	赤化 <5.2×2.6×1.7>

### 礫群 3

番号	グリッド	北→南(cm)	西→東(cm)	標高(m)	石質	重さ(g)	備考 <長さ×幅×厚さ(cm)>
3B-2	H 2	723.0	886.0	14.64	安山岩	127.40	
3B-3	H 2	730.0	883.0	14.65	石英斑岩	102.30	赤化・炭
3B-4	H 2	738.0	877.0	14.63	砂岩	224.88	赤化・炭 <8.7×4.8×4.5>
3B-5	H 2	741.0	872.0	14.67	变成岩	62.16	赤化・炭 <7.7×3.9×1.1>
3B-6	H 2	739.0	867.0	14.63	チャート	545.93	赤化・炭 <13.4×6.0×4.9>
3B-7	H 2	727.0	868.0	14.76	チャート	15.47	
3B-8	H 2	729.0	873.0	14.62	チャート	80.23	
3B-9	H 2	724.5	878.0	14.63	チャート	57.77	
3B-10	H 2	716.0	881.0	14.63	チャート	59.45	
3B-11	H 2	706.0	880.0	14.63	砂岩	262.31	赤化
3B-12	H 2	700.0	885.5	14.62	チャート	3.88	赤化・炭
3B-13	H 2	704.0	874.0	14.62	硬砂岩	48.95	炭化
3B-14	H 2	700.0	868.0	14.62	チャート	166.46	赤化・炭 <11.0×4.8×1.9>
3B-15	H 2	709.0	873.0	14.64	チャート	61.13	赤化・炭
3B-16	H 2	714.0	870.0	14.61	チャート	63.99	赤化 <6.9×2.4×2.0>

番号	グリッド	北→南(cm)	西→東(cm)	標高(m)	石質	重さ(g)	備考 <長さ×幅×厚さ(cm)>
3B-17	H 2	715.0	873.0	14.62	チャート	133.38	赤化・炭
3B-18	H 2	716.0	863.0	14.61	砂岩	147.82	赤化・炭 <8.4×4.9×2.8>
3B-19	H 2	707.0	863.0	14.58	砂岩	85.51	炭 <5.5×4.4×2.7>
3B-20	H 2	706.5	854.0	14.58	チャート	26.48	赤化
3B-21	H 2	695.0	840.0	14.69	砂岩	259.54	赤化・炭 <7.3×6.2×4.1>
3B-22	H 2	697.0	817.0	14.65	砂岩	39.97	赤化
3B-23	H 2	700.0	804.0	14.63	砂岩	68.26	赤化・炭
3B-24	H 2	715.0	815.0	14.64	石英斑岩	86.23	赤化・炭
3B-25	H 2	710.0	812.0	14.62	砂岩	54.82	赤化
3B-27	H 2	732.5	809.5	14.62	チャート	142.79	炭 <5.2×5.8×3.5>
3B-28	H 2	734.0	815.0	14.68	砂岩	29.07	
3B-29	H 2	735.0	824.0	14.72	チャート	33.97	赤化・炭
3B-31	H 2	717.0	842.0	14.76	砂岩	12.83	赤化
3B-32	H 2	730.0	876.0	14.64	砂岩	28.59	赤化・炭
3B-33	H 2	724.5	873.0	14.61	チャート	25.10	
3B-34	H 2	723.0	865.5	14.63	石英玢岩	115.22	赤化・炭 <6.2×4.7×2.7>
3B-35	H 2	728.0	858.0	14.63	チャート	596.28	赤化・炭 <10.7×8.0×4.9>
3B-36	H 2	731.0	865.0	14.64	石英斑岩	165.33	赤化 <5.6×4.9×3.9>
3B-37	H 2	706.0	852.0	14.58	チャート	74.60	赤化 <5.0×3.6×2.5>
3B-38	H 2	714.0	850.0	14.61	チャート	29.06	
3B-39	H 2	716.0	846.0	14.63	チャート	137.52	赤化
3B-40	H 2	722.0	848.5	14.64	砂岩	66.08	赤化・炭
3B-41	H 2	728.0	852.0	14.65	チャート	21.99	赤化
3B-42	H 2	732.0	848.0	14.66	チャート	50.46	赤化 <4.6×3.6×2.2>
3B-43	H 2	729.0	843.0	14.64	チャート	177.65	<6.0×5.9×3.3>
3B-44	H 2	725.0	846.0	14.64	チャート	115.19	<6.1×4.8×2.8>
3B-45	H 2	724.5	838.0	14.63	チャート	172.35	赤化 <8.1×5.6×2.4>
3B-46	H 2	720.0	839.5	14.63	砂岩	107.63	赤化 <5.6×4.3×3.5>
3B-47	H 2	712.0	840.0	14.62	砂岩	48.34	赤化
3B-48	H 2	712.5	832.5	14.64	砂岩	8.98	赤化・炭
3B-49	H 2	696.5	819.0	14.62	砂岩	26.69	赤化
3B-50	H 2	720.0	836.0	14.59	砂岩	17.17	赤化
3B-51	H 2	725.0	833.0	14.64	チャート	143.00	赤化 <5.6×5.4×3.8>
3B-52	H 2	725.0	829.0	14.62	チャート	115.29	赤化・炭
3B-53	H 2	728.5	828.0	14.59	砂岩	13.15	赤化
3B-54	H 2	730.0	833.0	14.64	砂岩	140.78	赤化
3B-55	H 2	732.0	821.0	14.62	砂岩	44.39	赤化
3B-56	H 2	730.5	823.0	14.63	チャート	88.68	<4.6×4.4×3.7>
3B-57	H 2	736.0	827.5	14.62	チャート	322.43	赤化・炭 <7.1×7.1×5.0>
3B-58	H 2	740.0	832.0	14.65	チャート	112.69	炭
3B-59	H 2	736.0	836.0	14.65	砂岩	398.60	赤化・炭 <11.8×6.3×4.6>
3B-60	H 2	738.5	842.0	14.65	石英斑岩	99.12	<5.3×3.7×3.5>
3B-61	H 2	737.0	846.0	14.63	チャート	52.71	赤化 <4.7×3.0×2.7>
3B-62	H 2	739.0	848.0	14.65	砂岩	62.07	
3B-62	H 2	738.5	852.0	14.67	砂岩	13.24	炭
3B-64	H 2	738.5	853.0	14.66	チャート	23.67	赤化・炭
3B-65	H 2	742.0	852.5	14.65	砂岩	61.18	赤化
3B-66	H 2	745.5	847.0	14.65	チャート	72.86	赤化 <6.1×3.8×2.1>
3B-67	H 2	747.0	841.0	14.65	砂岩	80.96	赤化・炭
3B-68	H 2	750.0	863.0	14.65	チャート	244.03	<10.2×6.6×2.8>
3B-69	H 2	744.0	861.5	14.65	砂岩	68.58	炭 <5.8×5.6×1.5>

番号	グリッド	北→南(cm)	西→東(cm)	標高(m)	石質	重さ(g)	備考 <長さ×幅×厚さ(cm)>
3B-70	H 2	745.0	857.0	14.64	石英玢岩	140.19	赤化・炭 <7.0×4.8×2.7>
3B-71	H 2	752.0	858.0	14.64	砂岩	87.67	炭化 <6.2×3.4×2.8>
3B-72	H 2	750.0	855.0	14.65	チャート	186.80	赤化・炭 <6.4×5.3×3.9>
3B-73	H 2	751.0	850.5	14.66	砂岩	45.33	赤化・炭 <6.1×3.5×1.3>
3B-74	H 2	754.0	850.0	14.62	チャート	66.18	<5.3×3.5×1.9>
3B-75	H 2	752.0	848.0	14.65	砂岩	32.76	赤化
3B-76	H 2	750.5	843.0	14.64	砂岩	314.96	赤化 <9.5×5.3×4.9>
3B-77	H 2	755.0	839.5	14.64	石英斑岩	203.08	赤化
3B-78	H 2	754.0	942.5	14.64	石英斑岩	71.21	赤化
3B-79	H 2	748.0	837.0	14.66	砂岩	104.08	赤化
3B-80	H 2	747.0	828.0	14.64	チャート	141.73	炭
3B-81	H 2	758.0	826.0	14.66	泥岩	87.82	<9.0×4.1×1.5>
3B-82	H 2	759.5	840.0	14.64	チャート	26.94	赤化
3B-83	H 2	762.0	841.0	14.63	チャート	11.53	赤化
3B-84	H 2	766.0	845.0	14.61	硬砂岩	175.73	赤化
3B-85	H 2	773.0	821.0	14.60	複輝石安山岩	194.98	<8.3×5.1×3.3>
3B-86	H 2	780.0	800.0	14.62	砂岩	176.13	赤化 <7.4×6.1×2.7>
3B-87	H 2	815.5	844.5	14.62	チャート	143.33	赤化 <7.3×5.0×2.8>
3B-88	H 2	815.5	902.5	14.62	砂岩	21.84	赤化
3B-89	H 2	901.5	884.0	14.59	砂岩(礫質)	10.08	赤化
3B-90	H 2	766.0	785.0	14.63	チャート	11.97	
3B-91	H 2	767.5	782.5	14.61	泥岩	1.69	
3B-92	H 2	638.0	813.0	14.59	チャート	43.71	赤化 <4.8×3.3×2.2>
3B-93	H 2	638.0	808.0	14.61	チャート	38.76	
3B-95	H 2	643.0	776.0	14.60	チャート	4.69	赤化
3B-96	H 2	634.0	766.0	14.64	砂岩	18.66	赤化・炭
3B-97	H 2	657.5	758.0	14.63	石英脈	143.28	赤化・炭 <7.9×3.9×3.2>
3B-98	H 2	655.0	750.0	14.66	砂岩	54.58	赤化・炭
3B-99	H 2	664.0	751.0	14.64	チャート	43.25	<4.6×3.2×1.9>
3B-100	H 2	653.0	739.0	14.61	石英玢岩	90.46	炭 <7.2×4.3×2.2>
3B-101	H 2	663.0	738.0	14.62	チャート	210.55	赤化 <7.9×5.4×2.8>
3B-102	H 2	658.5	728.0	14.61	チャート	76.53	炭 <4.9×3.4×3.0>
3B-103	H 2	665.0	730.5	14.63	チャート	54.81	赤化
3B-105	H 2	662.5	721.0	14.62	砂岩	51.58	赤化
3B-106	H 2	670.0	719.0	14.63	砂岩	15.56	赤化・炭
3B-107	H 2	679.0	718.0	14.64	砂岩	321.86	赤化 <12.3×4.8×3.4>
3B-108	H 2	657.0	706.0	14.61	チャート	105.68	赤化
3B-109	H 2	665.0	692.0	14.60	チャート	51.59	赤化 <4.4×3.2×2.0>
3B-110	H 2	657.0	692.0	14.62	チャート	3.71	赤化
3B-111	H 2	652.0	702.0	14.62	チャート	129.39	<6.7×6.2×2.8>
3B-112	H 2	641.0	693.0	14.66	チャート	69.68	赤化 <5.9×4.7×1.7>
3B-113	H 2	656.0	685.0	14.63	チャート	55.06	赤化
3B-114	H 2	662.0	683.0	14.62	安山岩	104.95	<6.3×3.9×3.7>
3B-115	H 2	668.0	677.0	14.64	チャート	110.86	赤化・炭 <6.7×3.8×3.0>
3B-117	H 2	751.0	663.0	14.56	チャート	78.95	赤化・炭
3B-118	H 2	787.0	664.5	14.61	チャート	9.61	赤化
3B-119	H 2	817.0	663.0	14.60	チャート	1.47	赤化
3B-120	H 2	822.0	674.0	14.66	チャート	63.15	赤化
3B-121	H 2	828.0	680.0	14.63	チャート	205.11	赤化
3B-123	H 2	853.0	673.0	14.64	チャート	94.00	赤化・炭
3B-124	H 2	918.0	628.0	14.61	チャート	25.72	

番号	グリッド	北→南(cm)	西→東(cm)	標高(m)	石質	重さ(g)	備考 <長さ×幅×厚さ(cm)>
3B-125	H 2	950.5	493.0	14.60	チャート	104.78	
3B-126	H 2	756.0	450.5	14.62	石英斑岩	37.72	<4.0×2.4×2.3>
3B-127	H 2	636.0	623.0	14.65	砂岩	132.83	赤化 <8.2×4.4×2.4>
3B-128	H 2	642.5	628.0	14.63	チャート	186.14	赤化 <5.3×5.8×3.4>
3B-129	H 2	649.0	630.0	14.63	砂岩	159.04	赤化・炭 <5.9×4.9×4.3>
3B-130	H 2	659.0	633.0	14.63	砂岩	136.67	赤化・炭 <6.5×4.6×3.8>
3B-131	H 2	651.0	650.0	14.62	チャート	83.26	赤化 <3.7×3.5×2.8>
3B-132	H 2	649.0	644.0	14.63	チャート	214.55	<6.6×5.8×3.6>
3B-133	H 2	642.0	637.0	14.64	チャート	214.60	<6.9×5.0×4.5>
3B-134	H 2	632.0	638.0	14.62	砂岩	97.23	赤化
3B-135	H 2	631.0	661.0	14.62	チャート	113.06	炭 <5.3×4.2×3.3>
3B-137	H 2	633.0	653.0	14.63	チャート	80.30	赤化
3B-138	H 2	647.0	658.0	14.64	チャート	71.27	赤化・炭
3B-139	H 2	644.0	653.0	14.64	チャート	11.80	
3B-140	H 2	642.0	648.0	14.64	砂岩	144.41	赤化・炭 <6.7×4.7×3.7>
3B-141	H 2	643.0	643.0	14.64	砂岩	98.75	赤化 <5.6×3.6×3.0>
3B-142	H 2	637.0	642.0	14.64	砂岩	78.44	赤化 <6.2×4.9×1.8>
3B-143	H 2	551.0	756.0	14.77	チャート	20.71	赤化
3B-144	H 2	571.0	775.0	14.75	チャート	3.81	赤化
3B-145	H 2	583.0	786.5	14.73	チャート	10.66	
3B-147	H 2	585.0	918.0	14.64	礫岩	119.72	<5.4×4.6×3.6>
3B-148	H 2	658.5	713.5	14.60	チャート	29.68	赤化
3B-149	H 2	672.0	732.5	14.63	石英斑岩	122.30	炭
3B-150	H 2	785.0	895.0	14.62	チャート	5.06	赤化
3B-151	H 2	585.5	971.0	14.79	チャート	10.33	赤化
3B-152	H 2	738.0	862.0	14.60	石英脈	48.35	赤化
3B-153	H 2	748.0	851.0	14.62	石英脈	51.52	炭
3B-154	H 2	735.5	843.0	14.59	チャート	3.38	赤化
3B-155	H 2	730.0	838.0	14.60	チャート	81.78	赤化
3B-156	H 2	738.0	834.0	14.62	石英玢岩	34.63	赤化・炭 <3.2×2.9×2.6>
3B-157	H 2	742.0	826.0	14.58	砂岩	22.21	赤化・炭
3B-158	H 2	673.0	719.0	14.59	砂岩	19.35	赤化
3B-160	H 2	734.0	841.0	14.59	チャート	6.78	赤化
3B-161	H 2	623.5	889.0	14.59	チャート	40.89	赤化
3B-162	H 2	622.0	820.5	14.59	チャート	11.24	
3B-163	H 2	624.5	809.0	14.66	チャート	2.72	赤化
3B-164	H 2	626.0	798.5	14.63	チャート	28.07	赤化 <3.9×3.3×1.2>
3B-165	H 2	621.0	800.0	14.65	チャート	26.56	赤化
3B-166	H 2	603.5	804.0	14.68	安山岩	20.98	赤化
3B-167	H 2	600.0	798.0	14.65	砂岩	48.49	
3B-168	H 2	597.5	783.0	14.66	チャート	36.97	<4.7×3.0×1.6>
3B-169	H 2	621.0	776.0	14.68	礫岩	103.74	炭 <4.8×4.2×3.4>
3B-170	H 2	618.0	757.0	14.66	チャート	52.76	赤化
3B-171	H 2	608.0	750.5	14.66	チャート	83.74	赤化 <6.1×3.9×2.2>
3B-172	H 2	619.5	665.5	14.75	チャート	3.32	
3B-173	H 2	609.0	790.5	14.57	チャート	18.95	赤化 <3.7×2.4×1.7>
3B-174	I 2	155.0	809.0	14.62	チャート	11.44	赤化
3B-175	I 2	367.0	540.0	14.60	チャート	158.67	赤化
3B-176	H 2	—	—	14.69	チャート	24.91	赤化
3B-177	H 2	—	—	14.67	チャート	25.96	赤化

## 2. 縄文時代

### (1) 住居跡

#### 第1号住居跡（第18図・第19図）

C-6、D-6 グリッドに位置する。住居跡のほとんどが、調査区域外となっている。

規模は、最長部が5.60m、深さは遺構確認面から0.19mであった。全体の形状は不明である。床面からは炭化物が検出され、床面直上の覆土には多量の焼土ブロックや、焼土粒子が検出された。

柱穴は10本が検出され、住居跡の壁に沿って巡っていた。それぞれ深さは、P1=43cm、P2=30cm、P3=13cm、P4=44cm、P5=31cm、P6=53cm、P7=48cm、P8=55cm、P9=47cm、P10=34cmである。

住居跡から出土した遺物は、2時期が混在していた。そのほとんどが遺構の確認面や、確認面よりも上から出土していた。そのため、別な遺構が重複していた可能性も考えられる。

出土した土器は、中期後葉である4、5以外は、1～3、6～16の後期前葉の時期と、17～32の後期中葉の時期に分けることができる。住居跡に伴なうものは、床面にめりこんで出土した2と、P6内から検出された3であると考えられる。また6、7も床面近くで検出されている。以上のことから、住居跡の時期は後期前葉と考えられる。

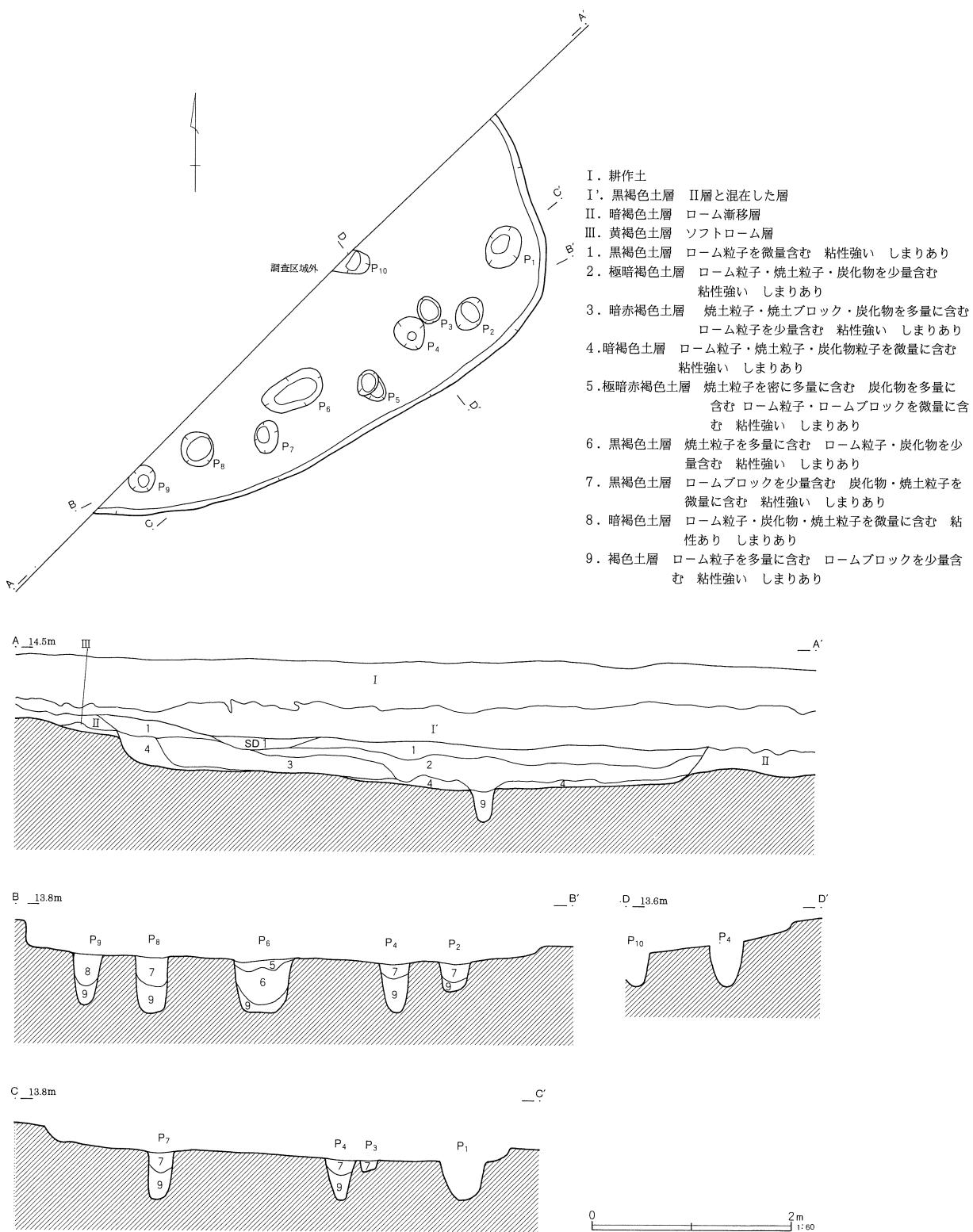
4、5は中期後葉の加曾利E式期の土器で、4の地文は複節LRL、5は単節LRLを施文している。

後期前葉では、1は深鉢の底部で、残存している胴部分に、文様は残されていなかった。表面を削って整形している痕跡が、観察された。2は小形の椀で、底部を含めて外面は、横方向に磨きがかけられている。内面の一部に磨きが観察された。3は台付き土器の台部分に、形状が似ているものである。口縁部を欠損するため、全体の形状は不明であった。文様は平行する2本の沈線によって描かれ、2本の沈線のうち、口縁部側の沈線は、頸部や底部を外周させる沈線と交わる部分に、円孔を施文している。図面の正面側でW字状に

施文した沈線は、そのまま弧を描いて裏側に周り、V字状に結んで正面と同様に、底部に沿って巡る沈線で止めている。頸部や底部の区画内や、沈線間には細かい原体で、単節LRLの縄文が形に沿って、横～斜め～縦方向に施文されている。施文する幅からはみだした縄文はそのまで、磨り消しなどは行われていない。6は深鉢の把手部分で、横方向に橋状となる大きな円孔を通した把手に、粘土紐や沈線などを施文したものである。7は突起部分で、頂部には十字方向の4つの円孔を持っている。8～16は深鉢の口縁部から胴部の破片である。8は胴部の破片で、横方向に隆帯が施文され、隆帯上には刻みを施している。1cmほど下方に、上と平行させている隆帯が剥がれた痕跡がある。9は単節LRLの縄文が、斜めや横方向に施文される、胴部の破片である。10～12は条線文が粗い格子目状に施文される口縁部や胴部の破片で、11、12は同一個体と考えられる。11の内面口縁部直下は、横方向のなでによつてやや凹んでおり、他と比べるとやや新しいと考えられる。13、14は沈線文が残る胴部の破片で、14は底部に近いものである。15は底部に近い胴部の破片で、無文である。器面は波状にうねったようになっている。堀之内2式が主体である。

後期中葉の出土土器は16～23で内外面が丁寧に磨かれるものである。16～18、22、23は鉢形、または浅鉢形土器で、16は突起部分である。17は沈線の区画内に、単節RLの縄文を横方向に施文するものである。18は縄文施文後に、沈線を平行に施文している。21は隆帯上に刻みを施している。22は口縁部を沈線で帯状に区切り、中に縄文を施している。23は口縁部に刻みと沈線を施す、波状口縁の深鉢である。19、20は深鉢の胴部で、平行沈線と区切り文が施されている。沈線間には、縄文が施されている。24は波状口縁の、波頂部の破片である。25～30は器面に磨きなどを施さない、単純な深鉢形土器の口縁部、胴部の破片である。

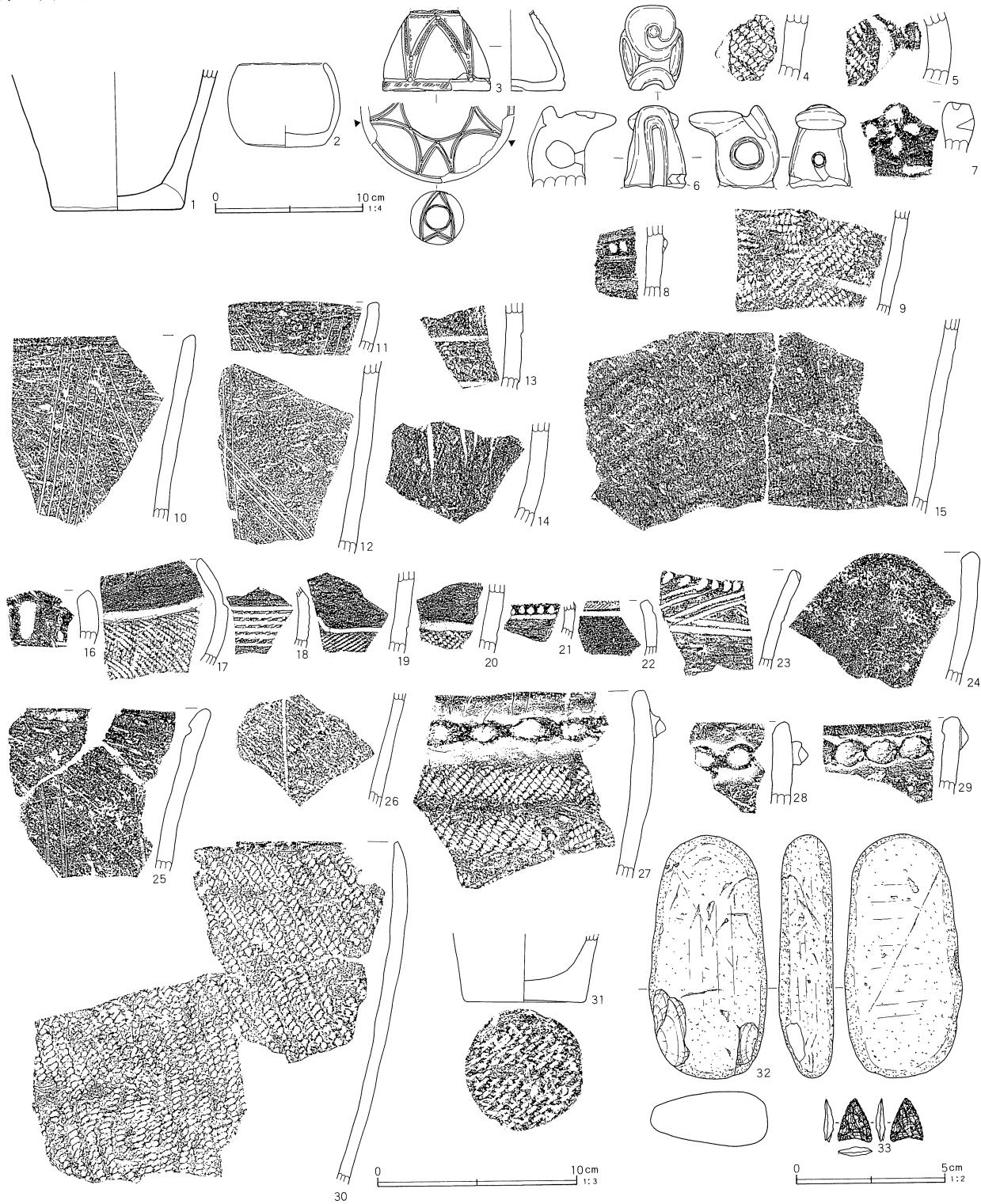
第18図 第Ⅰ号住居跡



25、26は条線文を施す土器で、25は極浅い条線が縦方向に施文されている。27~29は紐線文土器で、縄文を施文する。27、28は同一個体で、単節L Rの縄文を施文する。29は無節Lの縄文を施文する。また紐線上の

凹みには、それぞれの縄文原本を押し付けた痕跡が残る。30は縄文のみを施文する。31は底部の破片で、底面には網代痕が残されている。また内面には、煤が付着していた。加曾利B 2式が主体である。

第19図 第1号住居跡出土遺物



32、33は出土した石器である。32は磨石で、偏平な素材で、両面及び右側面を磨面として使用している。左側縁には敲打の痕跡があり、側縁付近の剝離はそれによって生じた可能性がある。長さ11.9cm、幅5.6cm、厚さ2.5cm、重さ305.73gである。石材は砂岩である。

33は石鎌である。細かい調整剝離を施す、丁寧な作りのものである。側縁はやや丸みを帯びて外反し、基部は無茎で浅い抉りが入っている。計測値は、長さ1.45cm、幅1.15cm、厚さ0.30cm、重さ0.44gである。石材はチャートである。

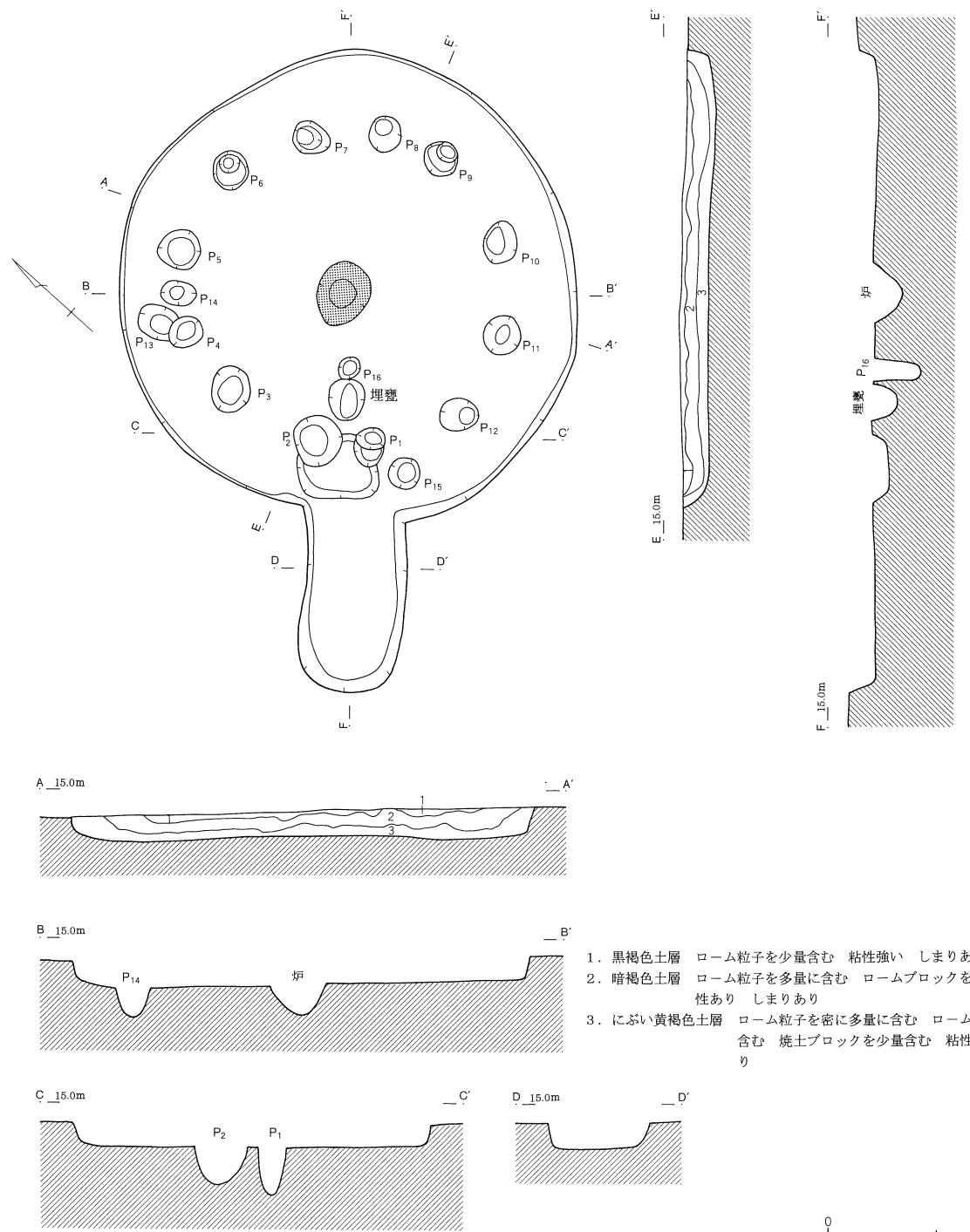
## 第2号住居跡（第20図～第25図）

H-2、H-3グリッドに位置する。張り出し部を持つ柄鏡形の形態をしており、主体部は円形である。

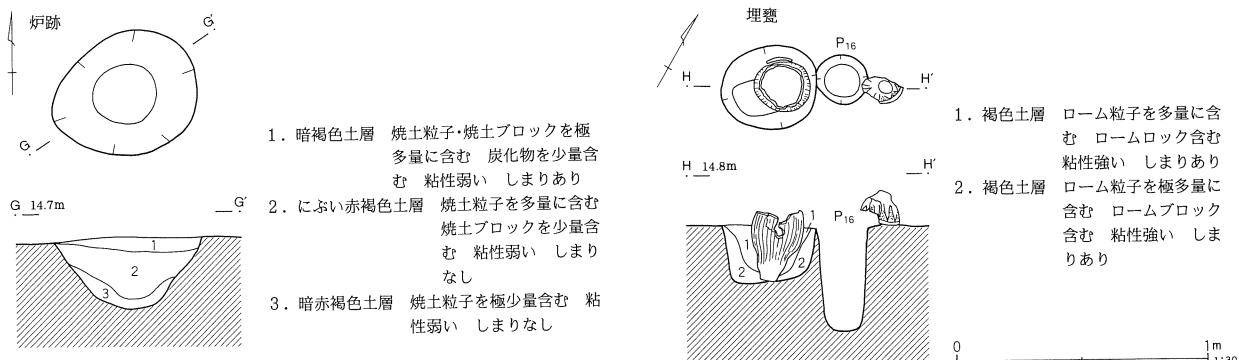
住居跡の規模は、張り出し部を含め全長5.78mで、主体部は径4.13m、深さ0.18mである。主軸方向はN-48°-Eである。

主体部より柱穴は16本が検出された。床面からの深さは、P1=41cm、P2=33cm、P3=56cm、P4=64cm、P5=72cm、P6=66cm、P7=65cm、P8=51cm、P9=56cm、P10=70cm、P11=70cm、P12=56cm、P13=18cm、P14=25cm、P15=34cm、P16=42cmである。P3～P12はほぼ等間隔に並び、深さも

第20図 第2号住居跡



第21図 第2号住居跡炉跡・埋甕



51~72cmと掘り込みのしっかりしたものであった。またP1、P2は入り口部の対ピットと考えられ、間に深さ24cmの浅い掘り込みがあった。

張り出し部は長さ1.74m、幅0.9m、深さ0.25mで、細長く作り出されている。張り出し内部に、埋甕や柱穴などは検出されなかった。

炉跡は主体部の、ほぼ中央に位置して検出された。掘り方の形態は楕円形で、長径0.58m、短径0.47m、深さ0.28mである。

炉跡と対ピットの間には、埋甕が検出された。長径0.36m、短径0.32m、深さ0.23mで、第24図2の深鉢形土器が検出された。

また炉跡と埋甕の中間には、第24図3の鉢形土器が床面に伏せた状態で、検出された。

住居跡の時期は、後期初頭と考えられる。

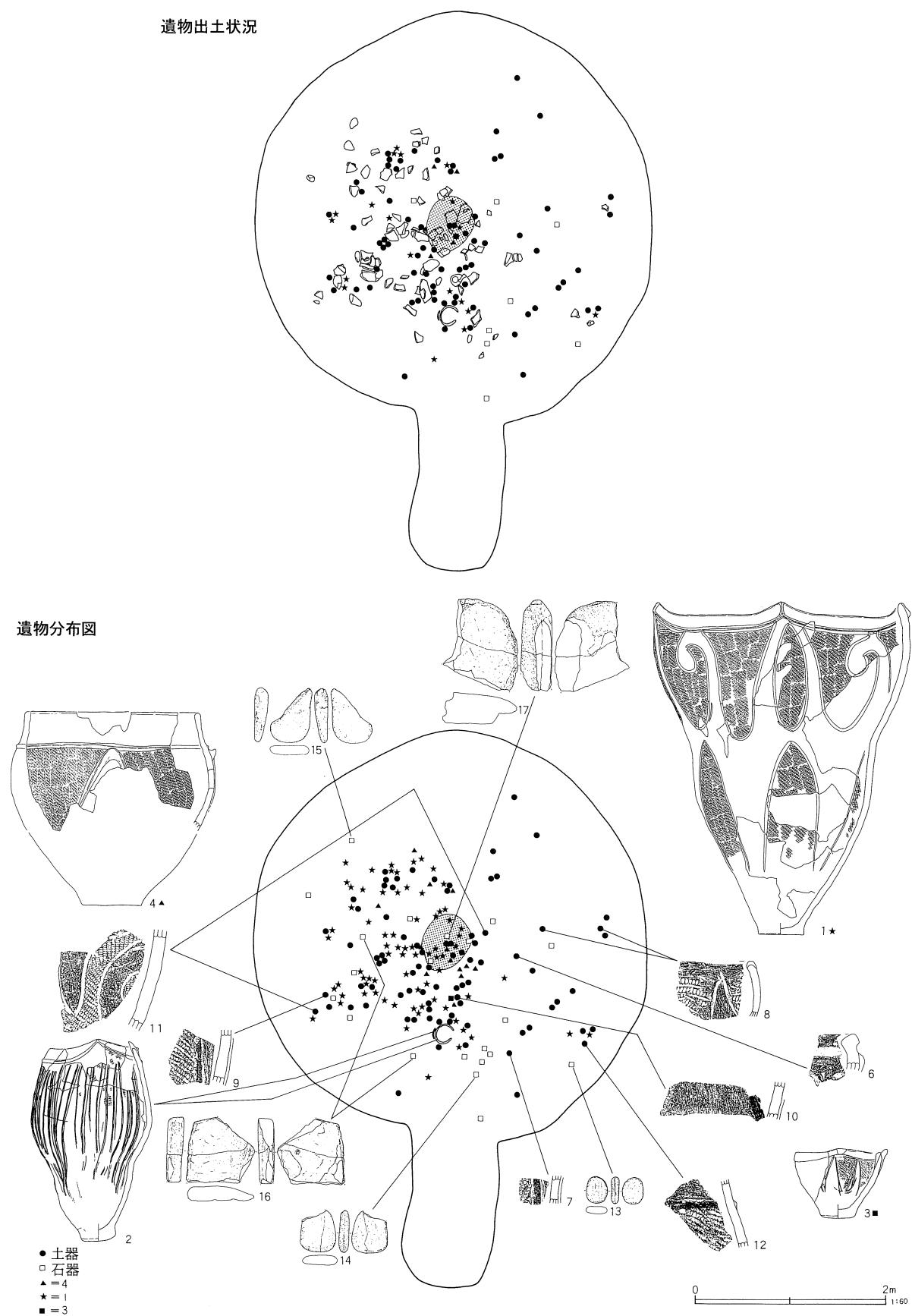
遺物はおもに主体部から検出された(第22図)。遺物量は全体的に少ない。検出された土器片の多くは、1の深鉢形土器に復元されている。

1~12は出土した土器である。5は胎土に多量の纖維を含む前期中葉の土器である。6、7は中期後葉の加曾利EII式土器で、6は口縁部の破片で、7は隆帯が懸垂する胴部の破片である。

1、2、8、11は深鉢形土器である。1は破片が面的に広がって出土した土器(第22図)で、完形に近く復元された。器形は、口縁からやや丸みを持ってすぼまり、胴部中央よりやや上で括れ、やや丸みを持ったち底部に至っている。4単位の波状口縁で、波頂部

間は隆帯で4つに区画され、口縁部無文帯を作り出している。隆帯は細く尖らせるように両側からなぞりが入り、断面が三角形状となっている。胴部の文様は括れ部で上下2段に分かれ、上段は沈線によって、渦巻き状の文様と内部に楕円区画を持つ文様が、交互に4単位ずつ施文されているように見える。しかし、縄文が施文されている部分に目を転じると、沈線によって閉じられて区画化されており、J字状区画と、三角形状区画と、楕円形状区画が4単位ずつ描かれている。渦巻き文に見える沈線は、渦巻きの頂部で繋がらず、くの字状に反対側に曲がり区画文を作りだし、連続する区画文によって渦巻き文などが描出される効果を出している。下段には、内部に縄文を施す逆V字沈線文が鋸歯状に8単位施文されている。地文は単節L Rの縄文が、施文箇所の形に沿って横、斜め、縦方向に施文されている。2は埋甕に使用された土器で、括れが胴部下方にあり、口縁は内側にすぼまる。2単位の波状口縁を持ち、口縁部は1と同様に隆帯によって無文部を区画している。隆帯はなぞりによって、断面が三角形状に尖っている。また胴部には楕円状の細かい複数の条線を、縦方向に施文している。条線は底部付近で交差するものが多く見られ、1、3などの胴部に見られる、鋸歯状の施文を意識していると考えられる。条線施文前の器面には縦方向のナデが施され胴上部の一部に、ナデ残された単節L Rの縄文が認められた。それがナデの前段階に地文として全体的に施文されていたかは不明である。8は口縁部の破片で、波状口縁

第22図 第2号住居跡遺物出土状況・遺物分布図



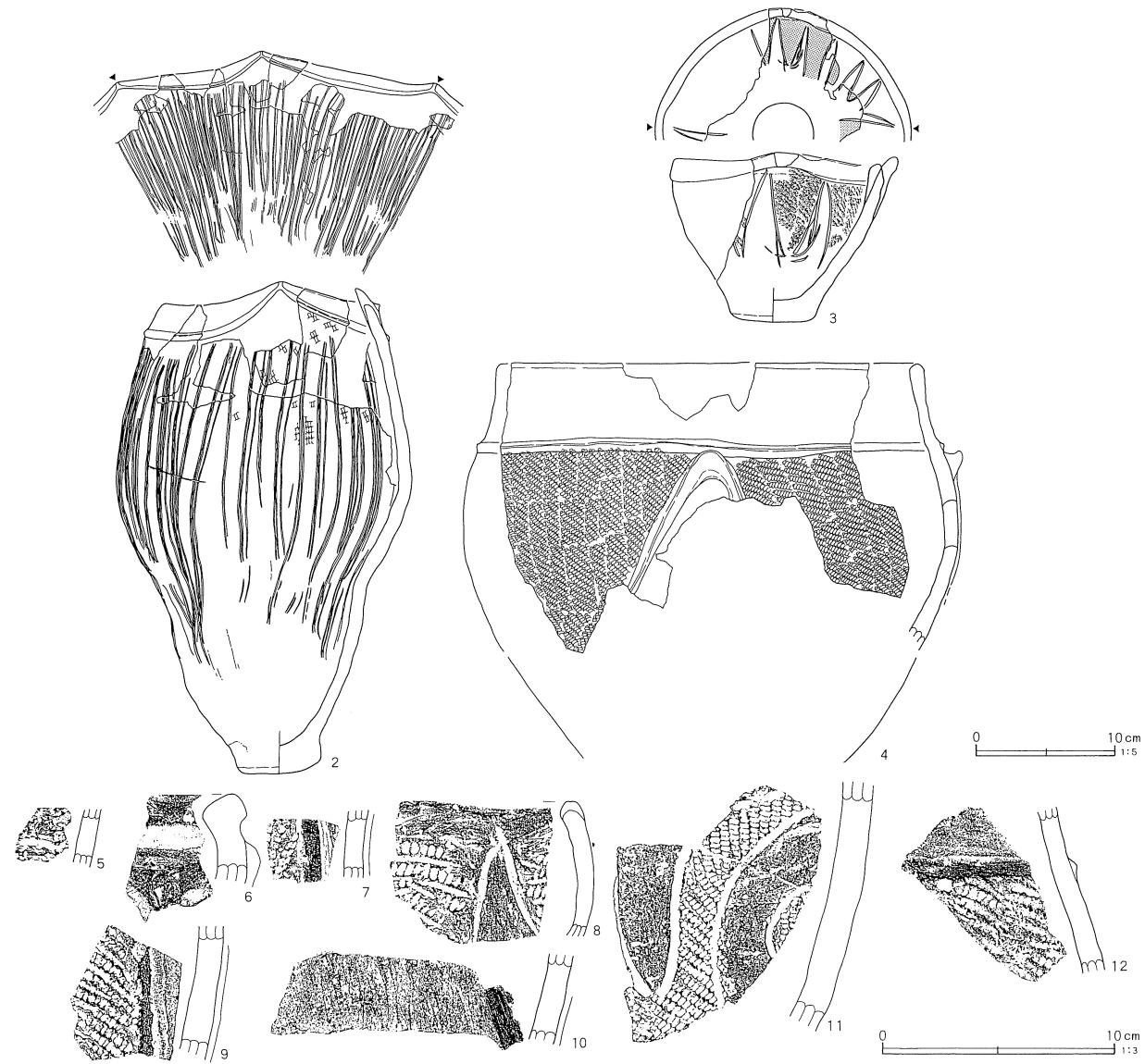
を持ち、逆V字に沈線を施文する。地文は、単節Rと無節Lを合わせた附加条の縄文を横方向に施文している。9は胴部の破片で、断面三角形状の微隆帯を垂下させる。地文は複節L R Lの縄文である。11は胴部の破片で、平行する沈線で渦巻き文を施文し、地文は、単節R Lの縄文を渦巻きの形に沿った方向で施文して

いる。3は小形の浅鉢形土器で、2と同様に2単位の波状口縁を持っている。口縁部には粘土紐を面を持たせて貼り付け、無文帯を作り出している。波頂部は、口縁部を手前に引き出しながら持ち上げて波状にしている。胴部は沈線によって、逆V字の文様が鋸歯状に施文されている。逆V字は連結するものと、単独のも

第23図 第2号住居跡出土遺物(I)



第24図 第2号住居跡出土遺物(2)

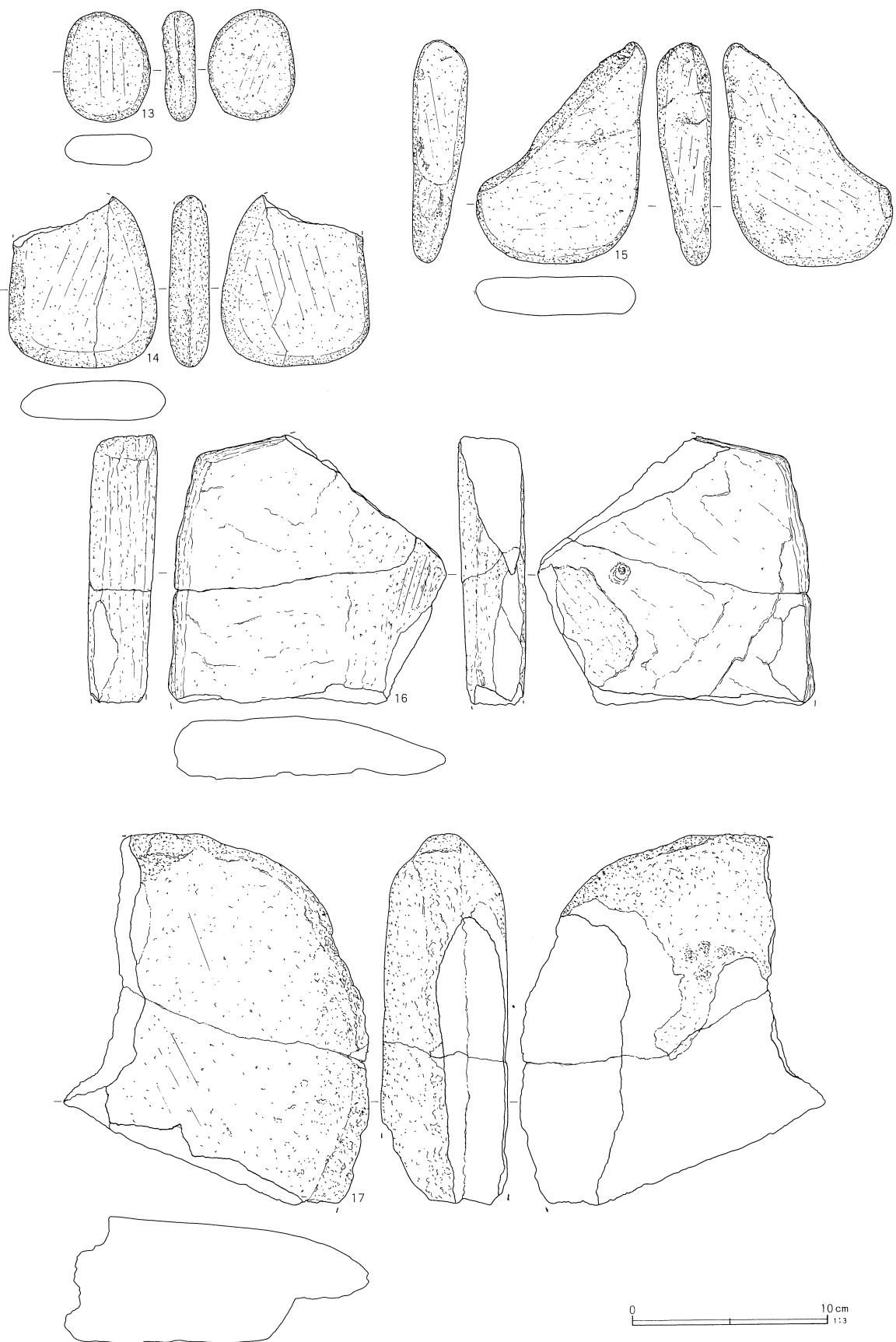


のがあった。地文は逆V字の外側に、単節Lの縄文を形に合わせて斜めや縦方向に施文している。4、10、12は両耳壺の破片で、4と10は同一個体で、胴部に逆V字状の隆帯を貼り付ける。地文は単節RLの縄文を、縦方向に規則正しく施文している。12は横方向に単節RLの縄文を施文する。

13~17は出土した石器である。13~15は磨石で、偏平な素材を利用している。13は表裏面を磨面に使用しているもので、長さ5.4cm、幅4.1cm、厚さ1.4cm、重さ57.58gである。石材は石英玢岩である。片側表面が被熱のため赤化している。14は表裏面を磨面に使用し、側縁には敲打の痕跡がある。残存する長さ8.4cm、幅

7.3cm、厚さ1.9cm、重さ210.56g、石材は砂岩である。片側表面は赤化している。15は表裏面と右側縁の他、割れ口部分も磨面として使用している。長さ11.3cm、幅7.9cm、厚さ2.5cm、重さ283.80gである。16、17は石皿の破片である。16は中央部分が擦り減っている。裏面には凹部が残されている。側縁部分は面取りされている。残存する長さ13.3cm、幅13.6cm、高さ3.1cm、重さ919.12gで、石材は絹雲母片岩である。17は使用により、表面が非常に滑らかになっている。全体的に被熱のため赤化している。残存する長さ17.1cm、幅15.5cm、厚さ6.2cm、重さ2124.80gである。石材は砂岩である。

第25図 第2号住居跡出土遺物(3)



### 第3号住居跡（第26図・第27図）

H-3、I-3グリッドに位置する。南半部は調査区域外で、検出できなかった。

住居跡の平面形態は、残存部から方形に近いと考えられる。住居跡の規模は、主軸方向で3.24mが残存し、直行する短辺は2.57mで、深さ0.18mである。主軸方向はN-29°-Wである。

柱穴は8本が検出された。床面からの深さは、P1=55cm、P2=53cm、P3=52cm、P4=24cm、P5=14cm、P6=42cm、P7=29cm、P8=27cmである。

炉跡は、ほぼ中央と考えられる位置から検出された。

地床炉と考えられ、焼土粒子は炉跡の底面近くから少量が検出されたのみであった。炉跡の平面形は橢円形で、規模は、長径0.59m、短径0.49m、深さ0.33mであった。

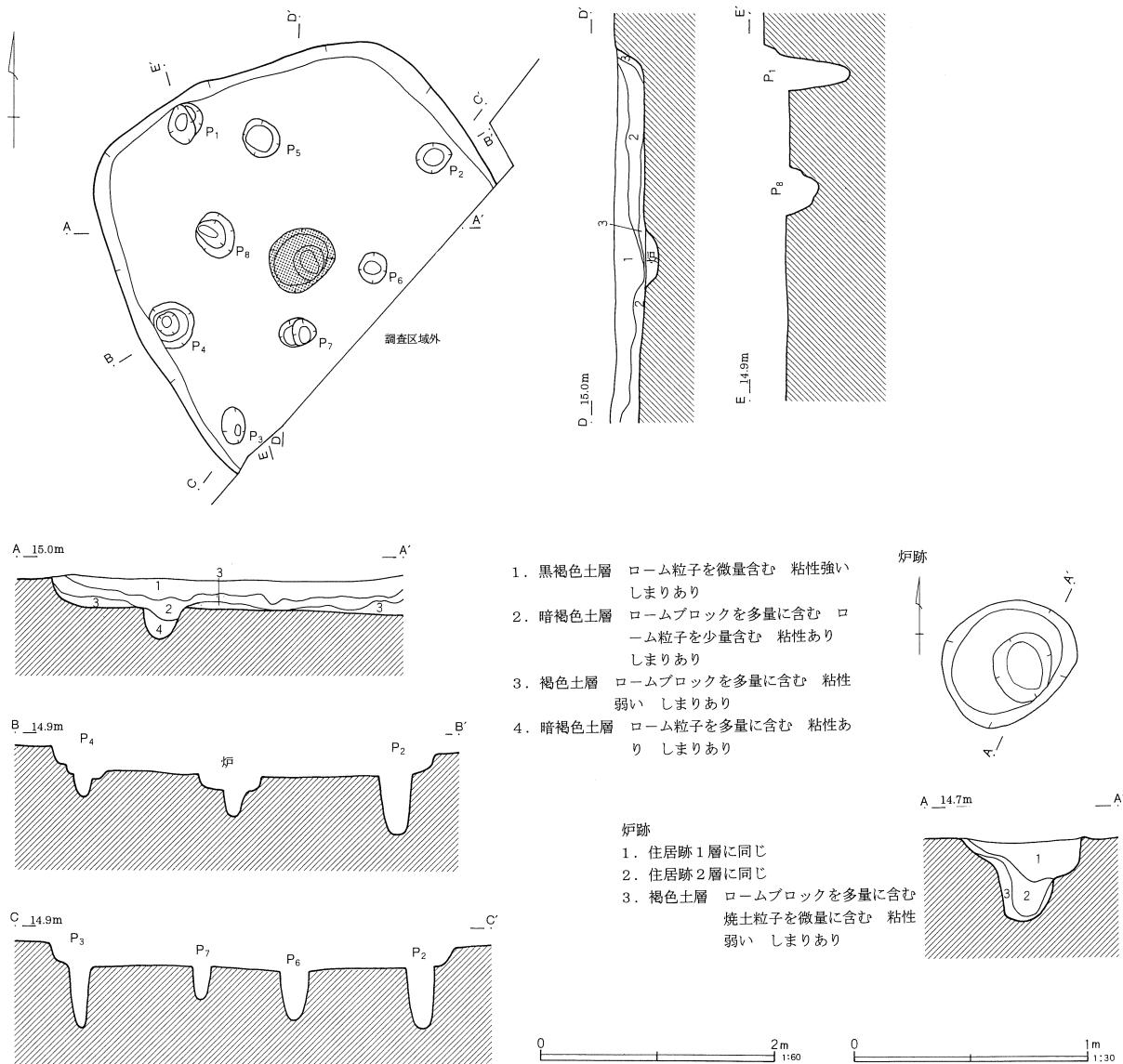
住居跡の時期は出土している遺物から、前期中葉と考えられる。

遺物の出土量は少なく、床面直上から出土したものにはなかった。

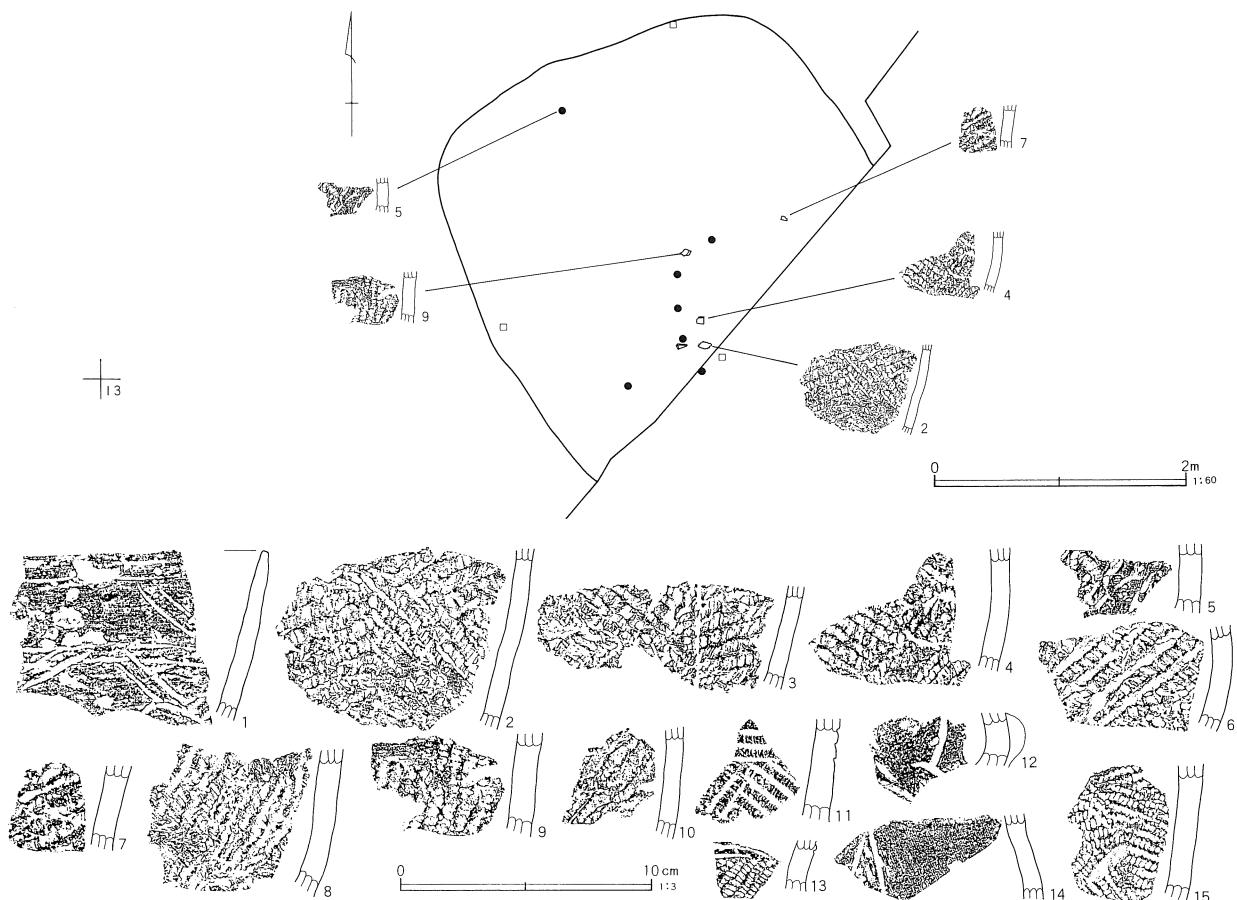
1~10は住居跡の主体となる、黒浜式期の土器である。いずれも繊維土器である。

1は口縁部の破片で、平行沈線文が施文されている。

第26図 第3号住居跡



第27図 第3号住居跡遺物分布図・出土遺物



2～10は胴部の破片で、縄文を施文するものである。地文は、9以外はいずれも無節の縄文を施文している。2～5は無節Rを方向を変えて、羽状に施文するものである。6は太い原体と細い原体を合わせた異条縄文を、方向を変えて羽状に施文している。7は無節R、8、10は無節Lを施文している。9は単節RLを施文している。

11は前期後葉の土器で、爪形文を施文している。12は中期中葉の勝坂系の土器である。口縁部に近いもので、隆帯と沈線によって文様が施文されている。また13と15は中期後半の土器で、地文は単節RLを施文している。14は後期初頭の深鉢の胴部の破片で、逆V字状に施文された沈線内に、縄文が施文されているものである。

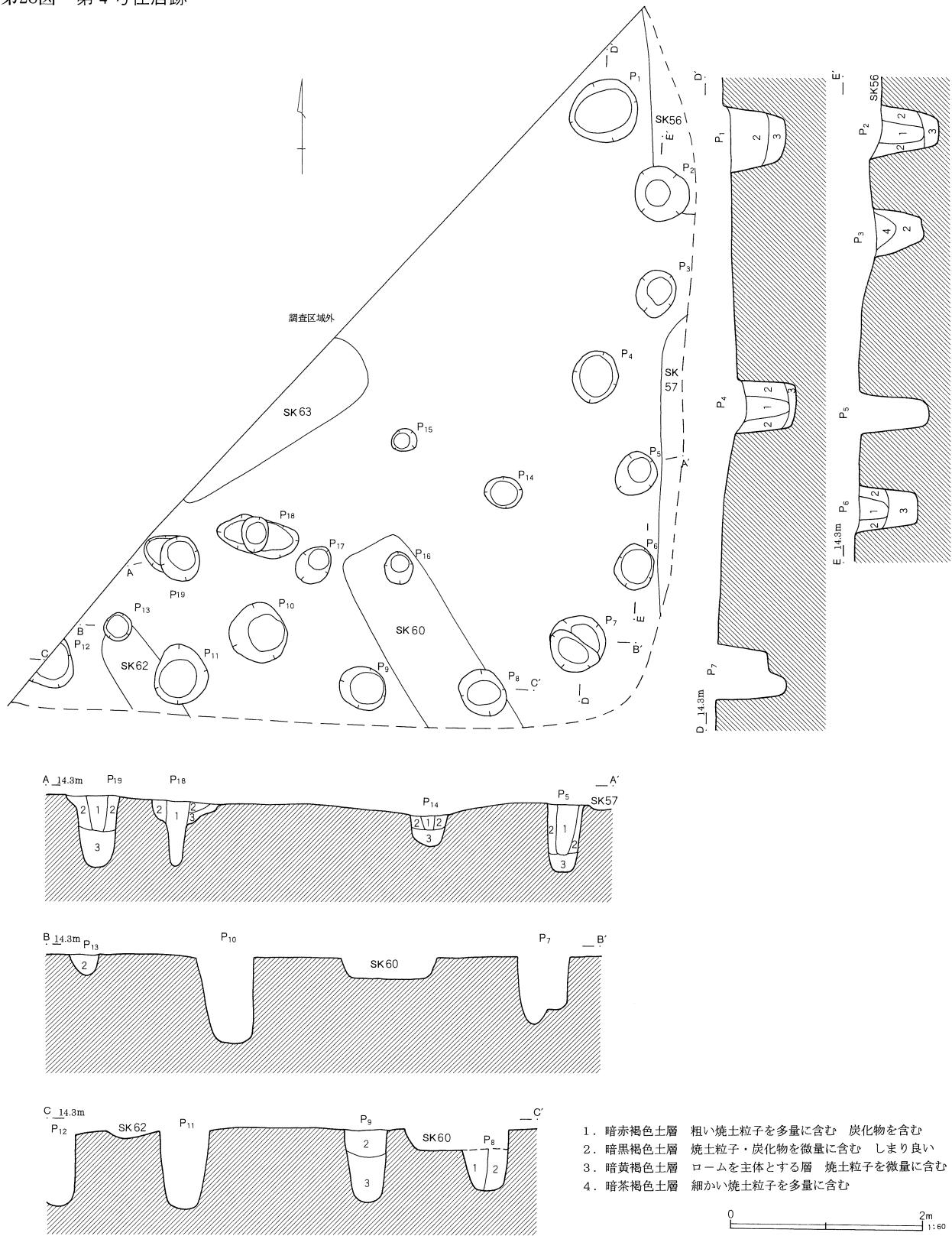
#### 第4号住居跡 (第28図・第29図)

台地から谷部に下がるB区の、D-5、E-5グリッドに位置している。遺構確認面で掘り込みは検出できず、柱穴のみが残存していた。住居跡の左斜め半分は、調査区域外のため検出できなかった。第56号土壙、第57号土壙、第60号土壙、第62号土壙、第63号土壙と重複している。

柱穴の配置から、住居跡の平面形態は方形に近いと考えられる。検出された部分の住居跡の規模は、長辺7.28m、短辺6.40mである。長軸方向はほぼ南北の線上にのっている。

柱穴は19本検出された。床面からの深さは、P1=64cm、P2=74cm、P3=55cm、P4=63cm、P5=71cm、P6=66cm、P7=73cm、P8=64cm、P9=79cm、P10=89cm、P11=82cm、P12=74cm、P13=20cm、P14=

第28図 第4号住居跡

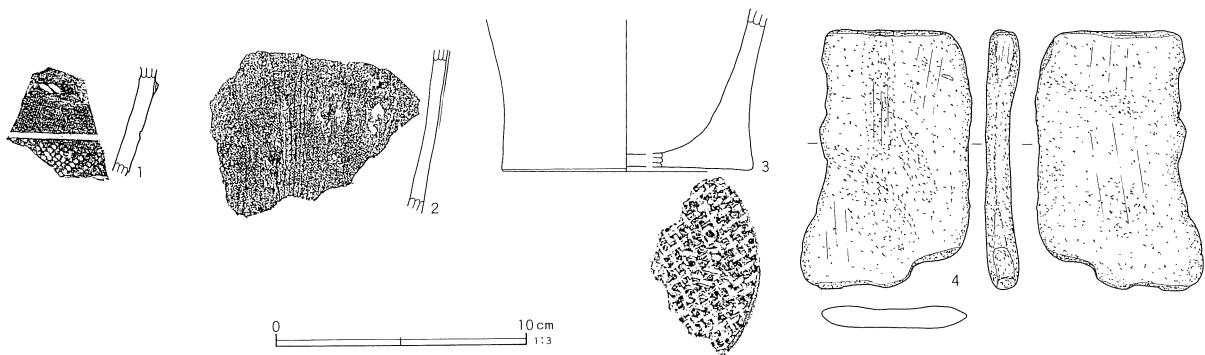


36cm、P15=33cm、P16=66cm、P17=57cm、P18=67cm、P19=76cmである。P1～P12までは、住居跡の壁に沿って巡っていたと考えられる。

炉跡は検出されなかった。

住居跡の時期は形態や出土土器より、後期前葉と考えられる。

第29図 第4号住居跡出土遺物



遺物は覆土が失われているため、柱穴内から少量が出土しているのみである。

1～3は堀之内2式期の深鉢形土器である。

1と3はP10から出土した土器である。1は口縁部に近い深鉢形土器の破片で、隆帯を巡らし2本の沈線間にには、縄文を充填している。内面には沈線を一条巡らしている。3は深鉢の底部付近の破片で、底部には網代痕が残されている。2はP19から出土した無文の胴部の破片である。器面の表面は、縦方向に粗い磨きがなされている。

4はP11から出土した石器で、砥石と考えられるものである。偏平な素材を利用しており、上と下は面取りされている。表面には、使用のために凹みができる。計測値は、長さ10.3cm、幅6.3cm、厚さ1.1cm、重さ91.57gである。石材は砂岩である。

#### 第5号住居跡（第30図・第31図）

G-3・4、H-4グリッドに位置する。掘り込みは検出されなかったが、柱穴の配置と埋甕から住居跡とした。東側部分は調査区域外のため、検出されなかった。

住居跡は、遺構が密集している位置にあり、他の遺構との重複も多く、推定される住居跡範囲では、第8号土壙、第28号土壙、第29号土壙、第30号土壙、第31号土壙、第9号溝跡と重複している。

また、埋甕に使用された土器が、確認面より浮いた状況で検出されていることから、床面の位置は確認面より上部にあったと考えられる。

平面形態は張り出し部の存在も考えられるが、床面

より低い位置まで削られており、その存在の有無は不明である。

残存部分の形態は、柱穴の配置から円形と考えられる。規模は径6m前後と考えられる。

第5号住居跡に伴うと考えられる柱穴は、8本検出された。確認面からの深さは、P1=54cm、P2=35cm、P3=60cm、P4=36cm、P5=37cm、P6=22cm、P7=21cm、P8は不明である。

埋甕からは、第31図1の深鉢形土器が検出されている。口縁部側は失われており、削平されたと考えられる。埋甕の形状は橢円形で、規模は、それぞれ長径0.62m、短径0.43m、深さ0.51mである。

また、P6とP7は埋甕の南側に横に並んで検出されており、入り口部の対ピットと考えられる。

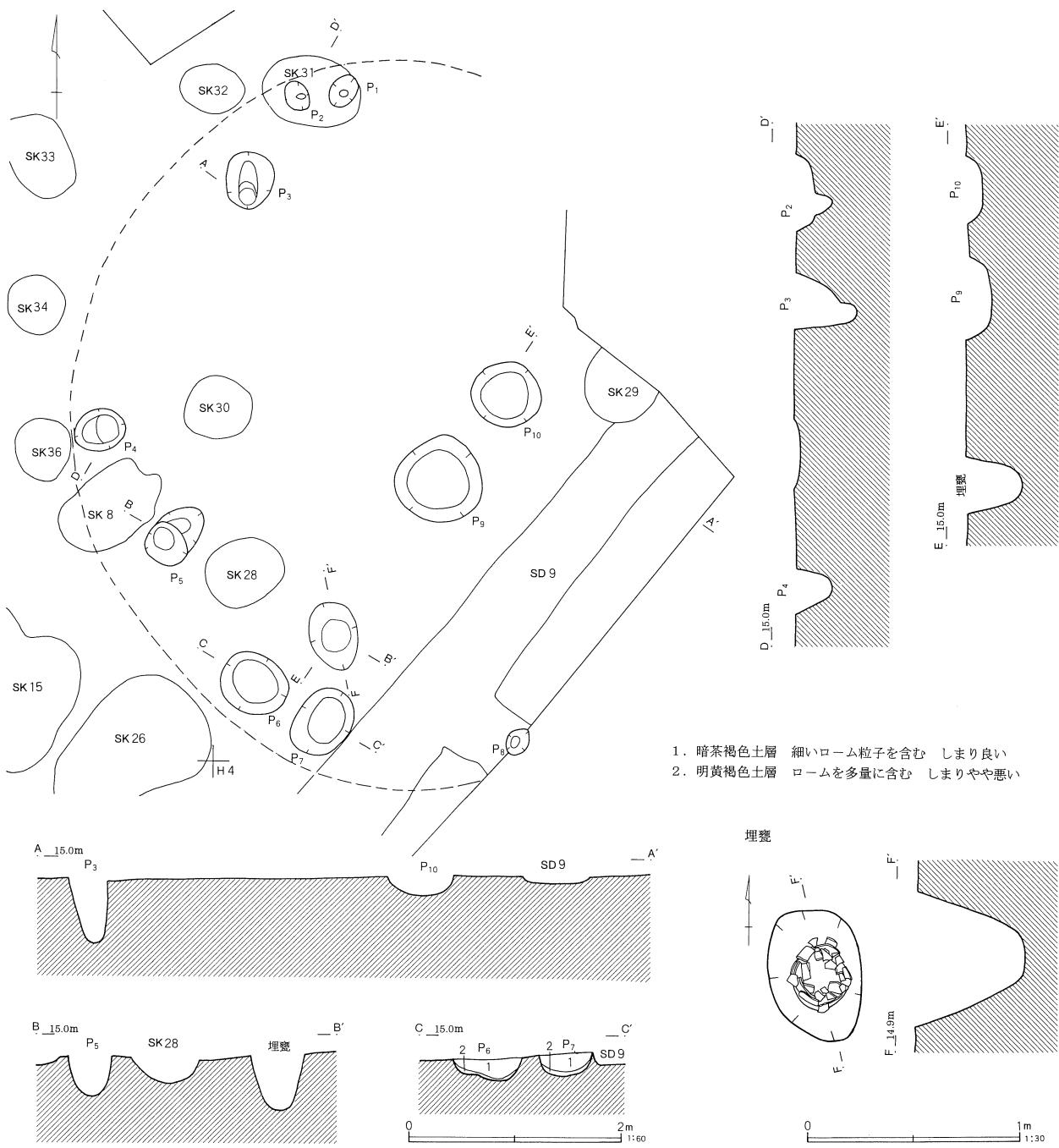
時期は後期初頭と考えられる。

遺物の出土量は少なく、1以外は土器の破片が数点検出されたのみである。

1は埋甕に使用された深鉢形土器で、胴下半から底部が残存しており、口縁部側は失われている。文様は地文のみで、無節Rが横方向に施文され、下方では一部縦方向に施文されている。底部に近い胴下半部は、地文の施文はなく器面は調整されておらず、粗くなっている。底部の径は小さく、底部と胴部の接合部分には括れを付けている。2は深鉢の口縁部の破片で、波状口縁と考えられる。口縁部は沈線で区画し狭い無文部を作り出している。地文は複節LRLである。

3～7は縄文のみが施文される、深鉢の胴部から底部の破片で、単節RLの縄文を斜めから横方向に施文

第30図 第5号住居跡

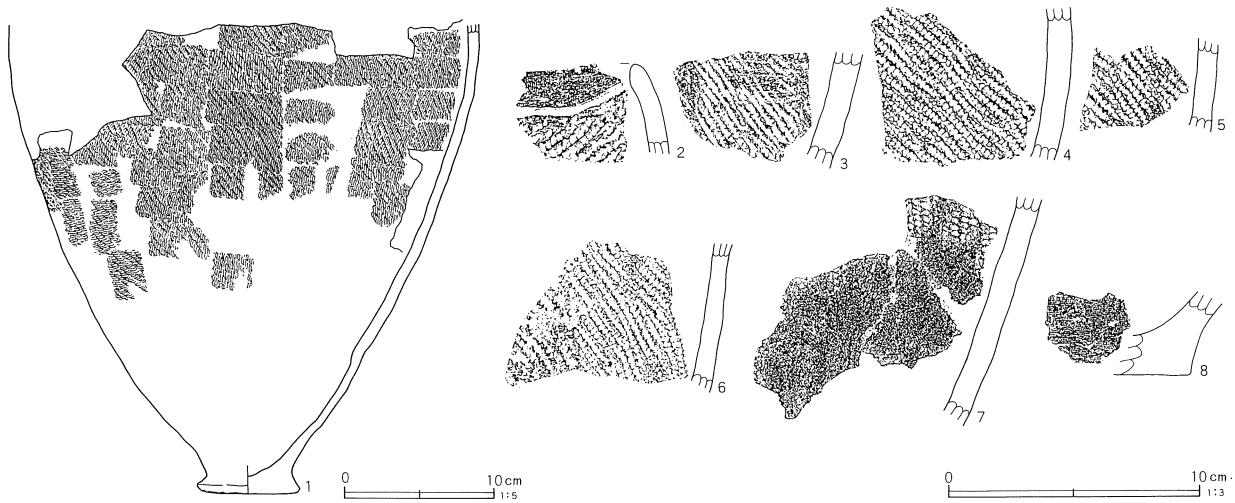


している。4～7は同一個体と考えられる。いずれの土器も内面は丁寧に磨かれている。また7は底部付近の胴部の破片で、地文は底部を上にした状態で施文されたと考えられ、4～6の施文と上下がさかさまに

なっている。

8は底部の破片だが、胎土や器面調整から、4～7と同一個体である可能性がある。

第31図 第5号住居跡出土遺物



## (2) 土壙

検出された土壙のうち、覆土や出土遺物などから47基を縄文時代としたもので、番号は新たに振り直した。個々の平面形態や計測値、旧番号との対照は、土壙一覧表に一括してある。ここでは遺物を出土した土壙について、個別に記載していく。

### 第1号土壙（第32図）

B-8グリッドに位置している。B区の谷に落ちる部分である。前期中葉の纖維土器や、中期の土器の破片など3点が出土しているが、小破片のため図示しなかった。遺物は土壙に流れ込んだものとも考えられ、明確な時期は不明である。

### 第4号土壙（第32図・第36図）

B区のB-7・8グリッドに位置している。第1号、2号、3号土壙と近接している。遺物は1の底部の破片が出土した。胴部との接合部分には、指頭痕が残されている。時期は後期初頭と考えられる。

### 第5号土壙（第32図・第36図）

C-7グリッドに位置する。第6号土壙と隣接して検出された。遺物は表裏ともに丁寧に磨かれた、後期中葉の土器片が出土している。

### 第6号土壙（第32図・第35図・第36図）

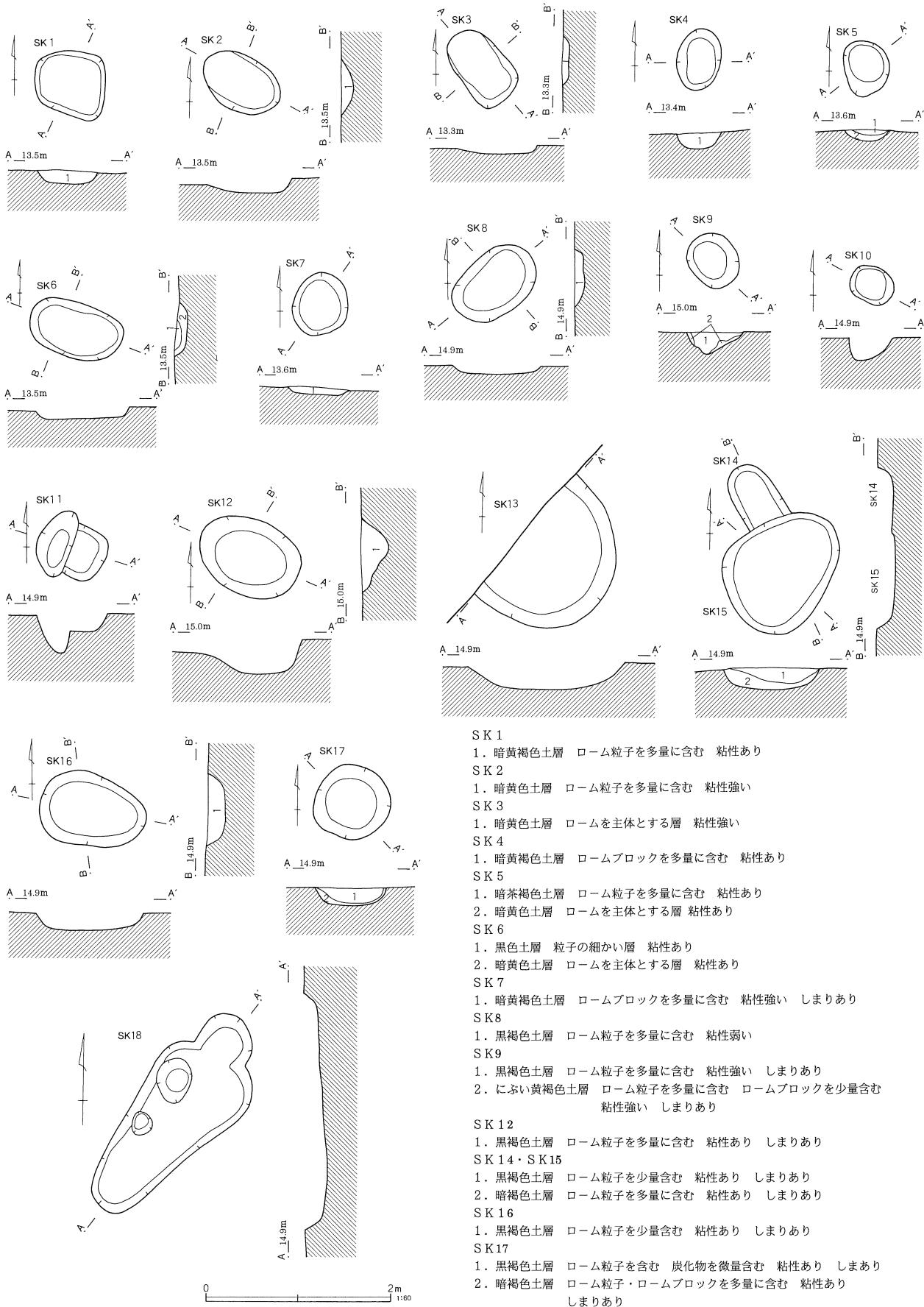
C-7グリッドに位置する。第5号土壙と隣接して検出された。遺物は後期中葉の土器片が出土している。1は鉢形土器の口縁部の破片である。並行沈線文を施文し、口縁部には沈線間に刻みを施し、他は縄文を充填している。2は浅鉢形土器の口縁部の破片で、弧線文を施文している。口縁部には縄文帯を施している。3は深鉢形の口縁部に近い破片で、内面には沈線文を巡らしている。4～6は深鉢形土器の破片で、4、5は格子目状に沈線を施文するもので、4は口縁部で内面には沈線を1条巡らしている。6の文様は器面の剥落のため明確ではない。

### 第13号土壙（第32図・第35図・第36図）

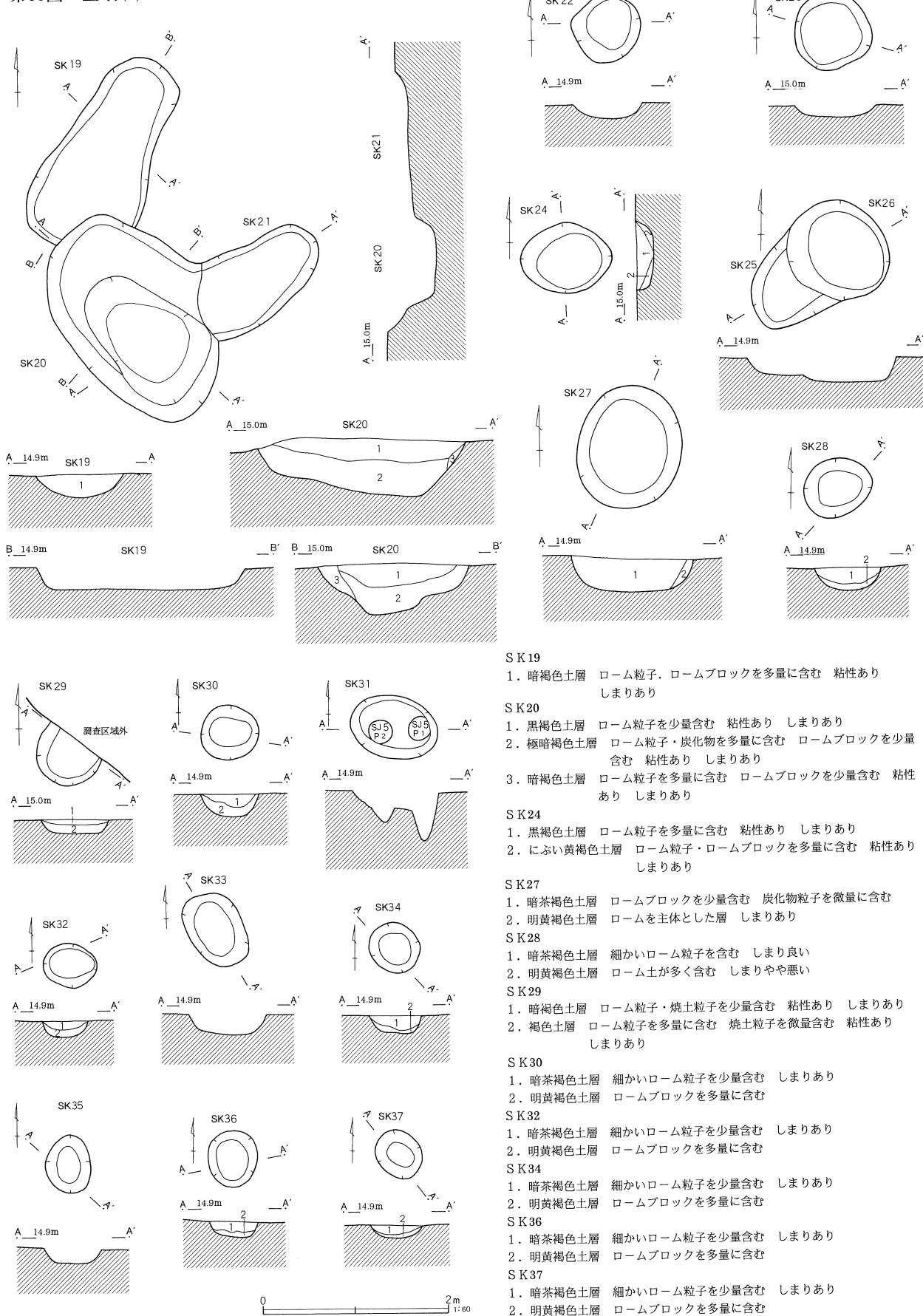
G-3グリッドに位置する。円形の比較的大きな土壙だが、西側半分が調査区域外となっている。

遺物は主に後期初頭の土器片が出土している。いずれも深鉢形土器である。1は、中期後葉の口縁部から頸部の破片で、頸部には沈線が巡らしてある。地文は単節RLの縄文を縦方向に施文する。2は胴下半で、沈線で逆U字状に施文している。地文は単節RLの縄文を縦方向に施文している。3は単節LRの縄文を横方向に施文している。4は無文の底部の破片である。

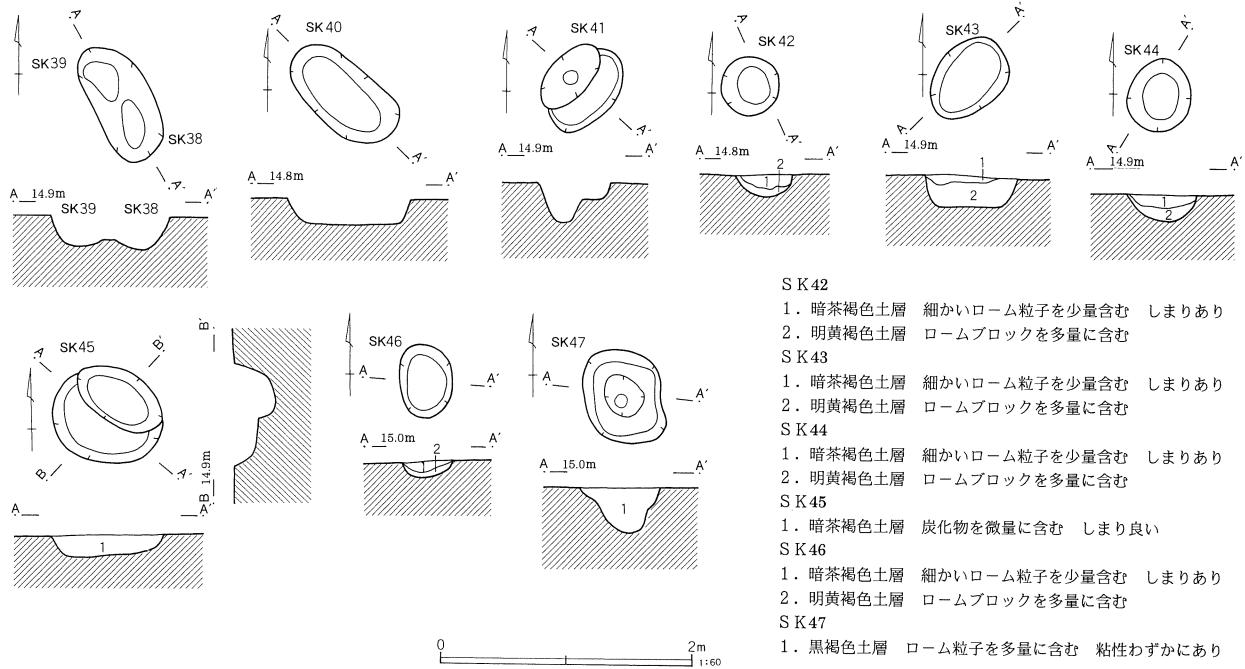
第32図 土壌(I)



第33図 土壤(2)



第34図 土壙(3)



第16号土壙 (第32図・第36図)

H-3グリッドに位置する。周辺には土壙が密集している。遺物は土器片が出土した。1、2とも胴部の破片で、1は竹管などで2本1組の蛇行沈線文を施文し、地文は単節R Lの縄文を縦方向に施文している。2は無節Rの縄文を横方向に施文している。

時期は、1は中期後葉で、2は後期と考えられるが、第19号土壙と覆土が同じであることなどから、中期後葉と考えられる。

第17号土壙 (第32図・第36図)

G-3、H-3グリッドに位置する。後期前葉の注口土器片が出土している。注口部の上には、粘土紐を橋状に貼り付けている。

第18号土壙 (第32図・第36図)

G-3、H-3グリッドに位置する。第19号土壙と隣接している。遺物は黒曜石製の剝片が出土している。厚手のもので、打面には自然面が残されている。長さ2.30cm、幅2.90cm、厚さ0.95cm、重さ3.69gである。縄文時代の所産と考えられる。

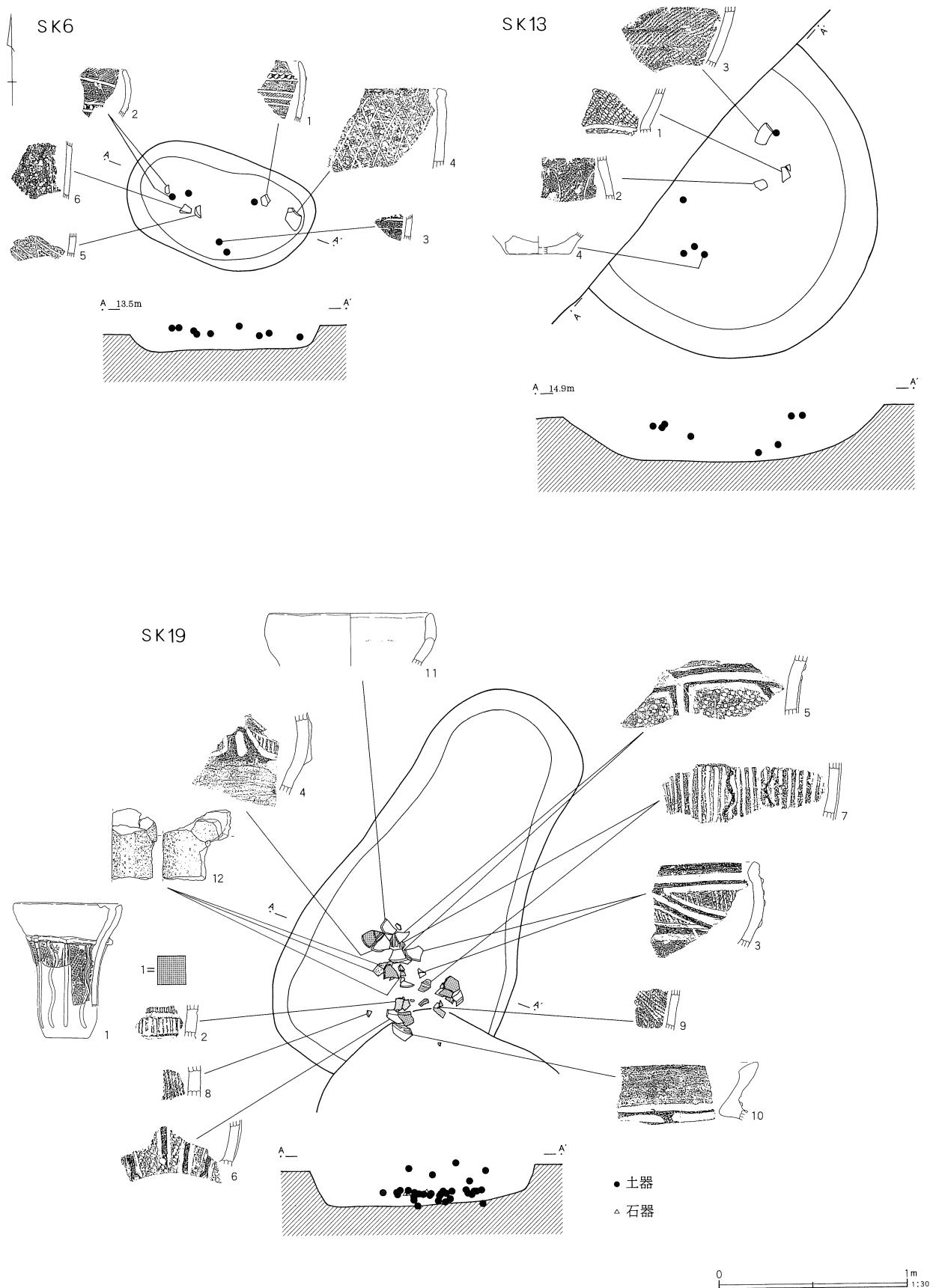
第19号土壙 (第33図・第35図・第36図)

H-3グリッドに位置する。第20号土壙とは、重複して検出された。新旧関係は出土遺物から、第20号土壙が新しい。遺物は、中期後葉の土器を主体にまとまって検出された。

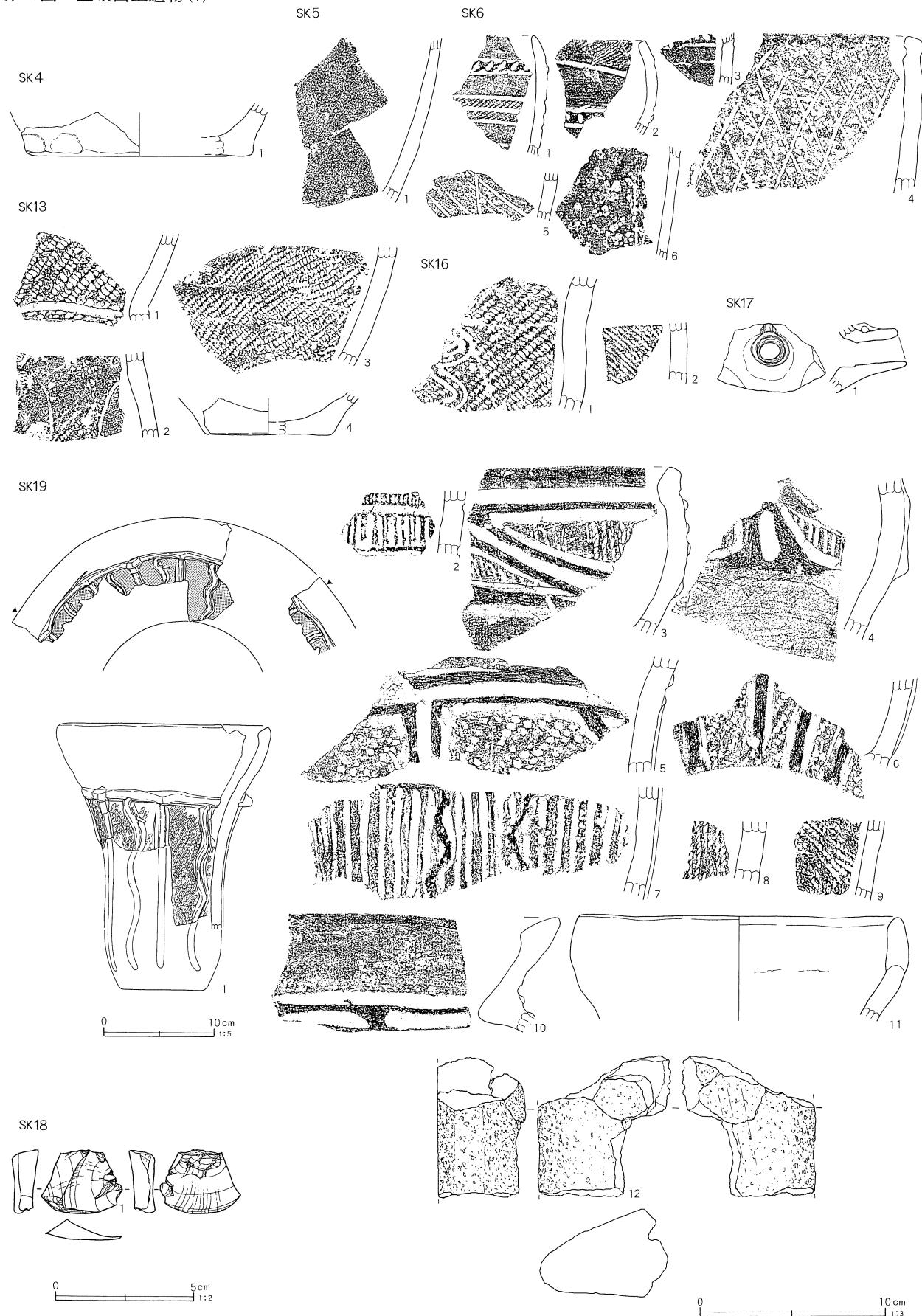
2は中期中葉の深鉢形土器で、刻みをもつ隆帯による楕円区画内に、縦方向の沈線を施している。

1、3~11は中期後葉の土器である。1、3~9、11は深鉢形土器である。3~5は頸部無文帯を持つ、加曾利式のキャリパー形深鉢の口縁部から頸部にかけての破片である。3は地文にLの撲糸文を施文している。5は頸部を巡る隆帯と胴部懸垂文が繋がり、胴部の文様がコの字状となるもので、コの字の中に蛇行懸垂文を垂下させている。地文は撲りの緩い単節R Lの縄文を施文している。1、11は口縁部が無文となる曾利系の土器で、1は底部を欠損するもので、口縁は無文で、胴部のみに施文されている。口縁部と胴部の区画には1本の隆帯を巡らし、そこから懸垂文を垂下させ、直線と蛇行を交互に施文している。また口縁部区画の隆帯は、直線の懸垂文との交差部分を、手前につまんで盛り上げている。地文は複節R L Rの縄文を、

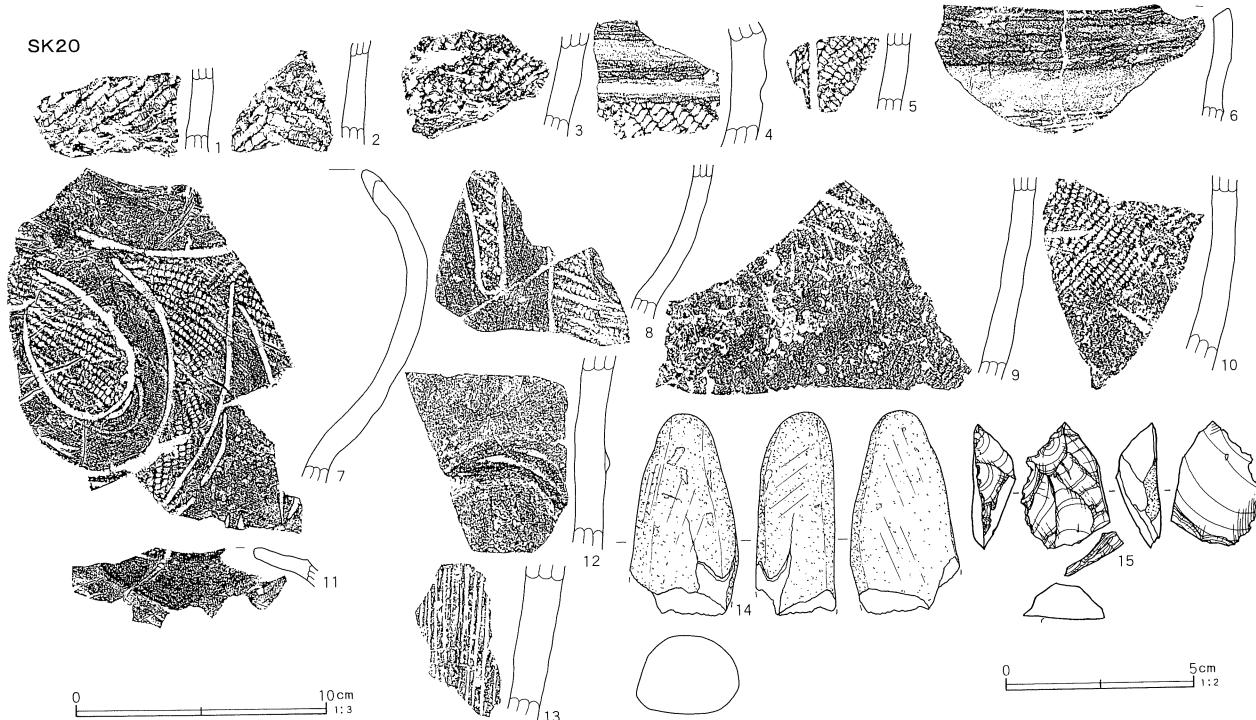
第35図 土壤出土遺物分布図



第36図 土壌出土遺物(I)



第37図 土壤出土遺物(2)



縦方向に施文している。11は無文の口縁部の破片である。6～9は胴部の破片である。6は胴部に1本隆帯を複数垂下せるものである。地文は単節RLの縄文を、縦方向に施文する。7の地文は条線で、隆帯の蛇行懸垂文を垂下させている。8、9は地文のみが残るもので、8はLの撚糸文、9は複節LRLを施文する。10は浅鉢形土器の口縁部である。

12は磨石の一部である。磨面は両面と残存する側面である。平らな面を持つ裏面は良く使用されており、光沢を持っている。被熱のため赤化し、風化も激しく石自体は脆くなっている。残存部の長さ7.3cm、幅6.5cm、高さ4.5cmで、重さ270.59gである。石材は凝灰岩である。

#### 第20号土壤 (第33図・第36図・第37図)

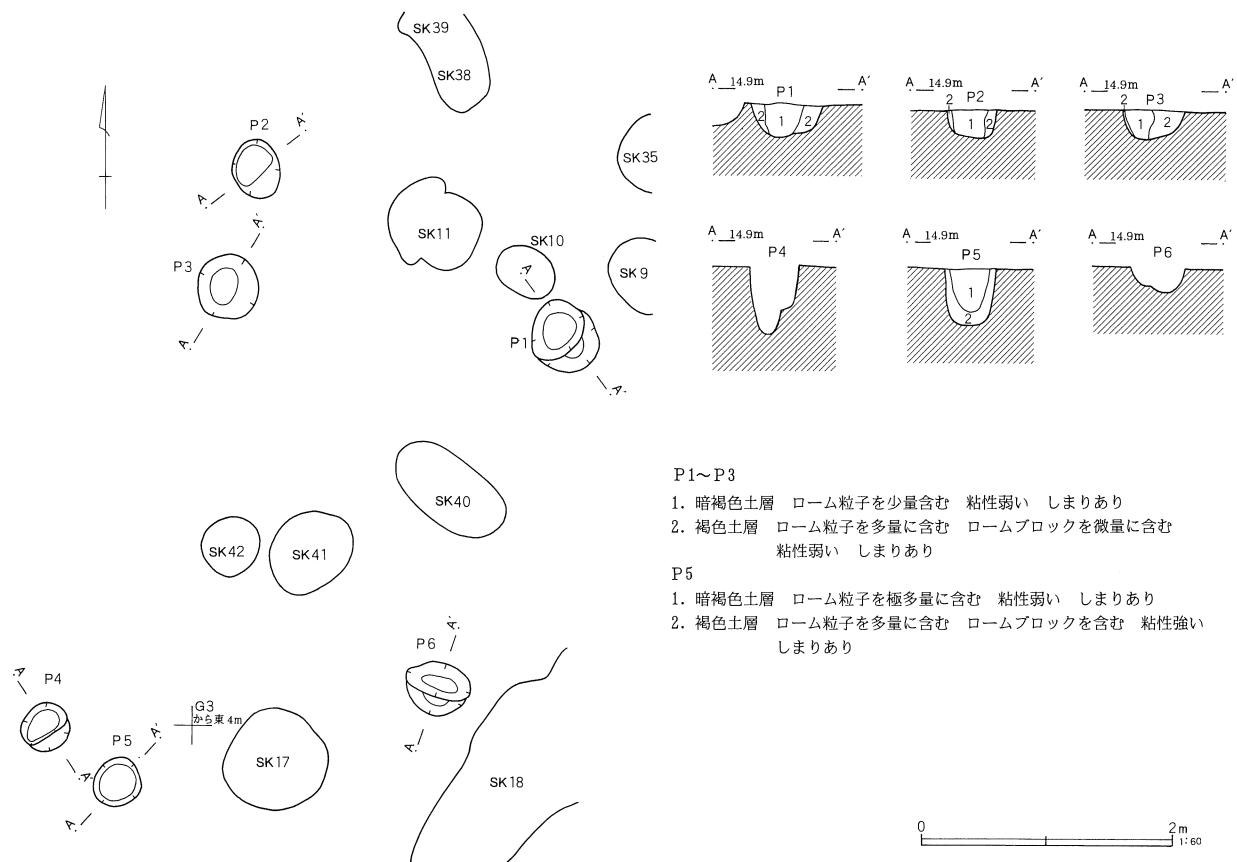
H-3グリッドに位置し、第19号土壤と重複して検出された。出土遺物から、第20号土壤が新しい。

遺物は後期初頭の土器を主体として検出された。1～3は前期中葉の深鉢形土器の破片で、纖維を含んでいる。4、5は中期後葉の深鉢形土器で、4は口縁部、

5は胴部の破片である。地文はいずれも単節RLの縄文である。6～10は後期初頭の深鉢形土器の破片である。6は口縁部で、幅広のなぞりが入っている。7、8は胴部中央付近で大きく括れる器形の土器で、7は口縁部が波状となるもので、沈線によって口縁に狭い無文部を作り出している。胴部には、深い沈線を渦巻きや逆V字状に施文している。地文は細かい単節LRの縄文を、形に合わせて施文している。8は胴上部の破片で、沈線はごく浅く施文される。地文は附加条の縄文を施文している。9、10は胴下半部の破片で、地文は単節LRLの縄文を横方向に施文している。11は壺形土器、12は両耳壺、13は鉢形土器の破片である。11には赤彩が部分的だが残っていた。

14、15は出土した石器である。14は磨石で、半分を欠損している。両面と側面を磨面として使用している。残存する長さ7.7cm、幅3.9cm、厚さ2.9cm、重さ142.65gで、石材は砂岩である。15は肉厚の剝片で、左側縁部は細かい剝離によって、鋸歯状に作り出される。右側縁には自然面が残る。長さ3.25cm、幅2.35cm、厚さ1.05cm、重さ6.42gで、石材は黒曜石である。

第38図 ピット



### (3) ピット (第38図)

G-3、H-3グリッドから、6本が検出された。まとまってはいるが、住居跡などの遺構とは確定ができなかったため、単独のピットとして扱った。遺物は出土していないが、形状や覆土などから、縄文

時代とした。

確認面からの深さは、P1が27cm、P2が0.23cm、P3が0.24cm、P4が0.52cm、P5が0.46cm、P6が0.26cmである。

### (4) グリッド出土遺物

#### グリッド出土土器 (第39図)

縄文時代の土器は、密度の差はあるが調査区全体から出土している。しかしながら、出土した土器はほとんどが小破片で図示できるものは少なかった。

土器は大きく3つに分類した。

#### 第I群土器 (第39図1、2)

前期の土器を一括する。前期中葉の黒浜式土器である。深鉢形土器の破片で、胎土に纖維を含んでいる。

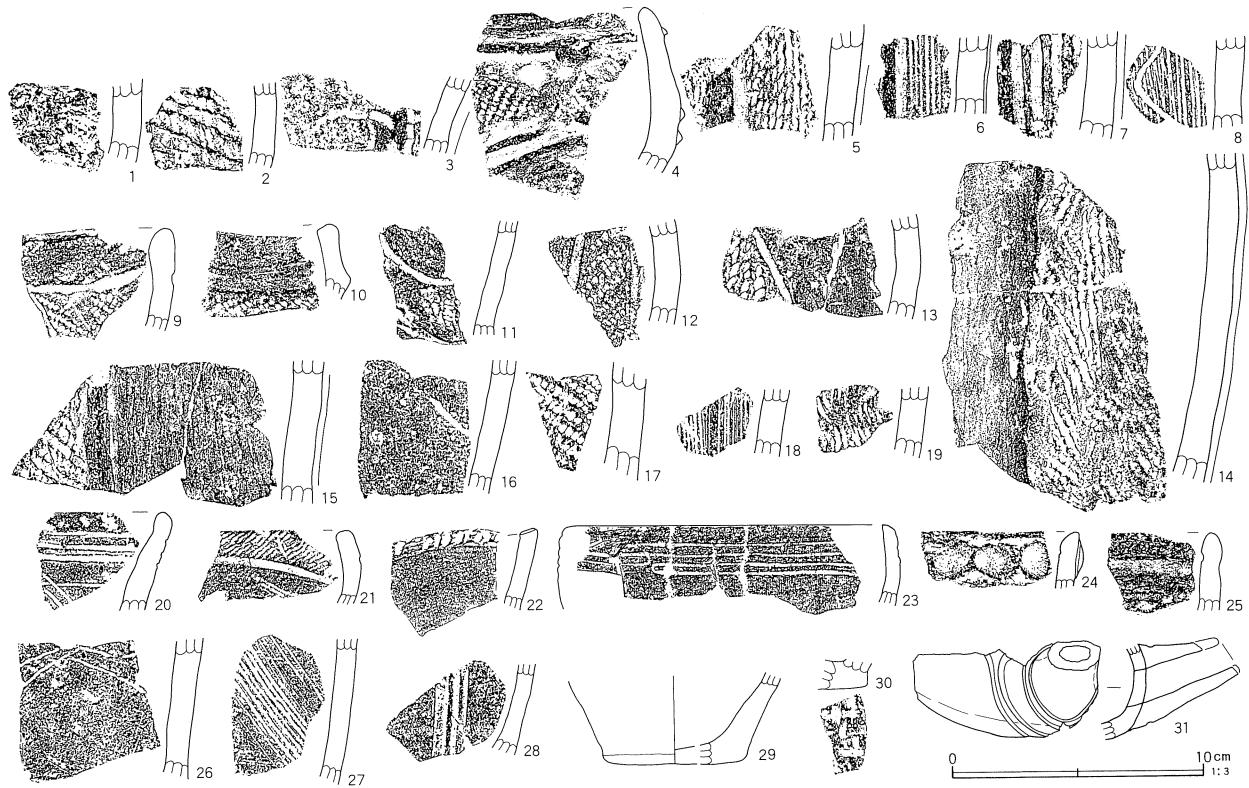
#### 第II群土器 (第39図3～19)

中期～後期初頭の土器を一括する。3は中期中葉の阿玉台系の土器で、深鉢形土器の胴部の破片である。

4～8は中期後葉の加曾利E系の深鉢形土器である。4は口縁部の破片で、地文は単節L Rの縄文を横方向に施している。5～8は胴部の破片で、5～7は隆帯によって懸垂文を垂下させている。地文は、5はLの燃糸文、6、7は条線である。8は蛇行沈線文が垂下するもので、地文は細かい条線である。

9～15は後期初頭の土器で、いずれも深鉢形土器で

第39図 グリッド出土遺物(1)



ある。9、10は波状口縁の破片で、隆帯や沈線によって狭い口縁部無文帯を作りだしている。11～13は胴部の括れで、沈線による文様が上下に分かれて施文される、深鉢形土器の破片である。11は胴上部の破片で、渦巻状の文様が施文されると考えられる。12、13は胴下半部の破片で、逆V字状に文様が施文されている。14、15はバケツ状の器形となる、深鉢形土器の胴部の破片である。胴部には、両側をなでて断面三角形状になる隆帯を施文しており、隆帯間の無文部の間隔は大きく取られている。14の地文は単節L Rの縄文を、縦や横に粗雑に施文している。15は太さの違う縄を撲り合わせたL Rの縄文を施文する。16～19は地文のみの施文や無文のもので、18は浅鉢形土器の破片である。

### 第III群土器（第39図20～31）

後期前葉～中葉の土器を一括する。

20は堀之内2式の深鉢形土器の口縁部で、沈線によって文様が施文されている。

21～25は加曾利B式土器で、21～23は浅鉢または鉢

形土器で、24、25は深鉢形土器である。21は口縁部が内湾するもので、弧線文を施文している。22は口唇部に刻みを施している。23は小形の鉢形土器で、横方向に施文した沈線間には縄文を施文し、区切り文を施している。24、25は口縁部の破片で、内面に沈線が巡らされている。

26～28は条線文が施文されている、深鉢形土器の胴部の破片である。

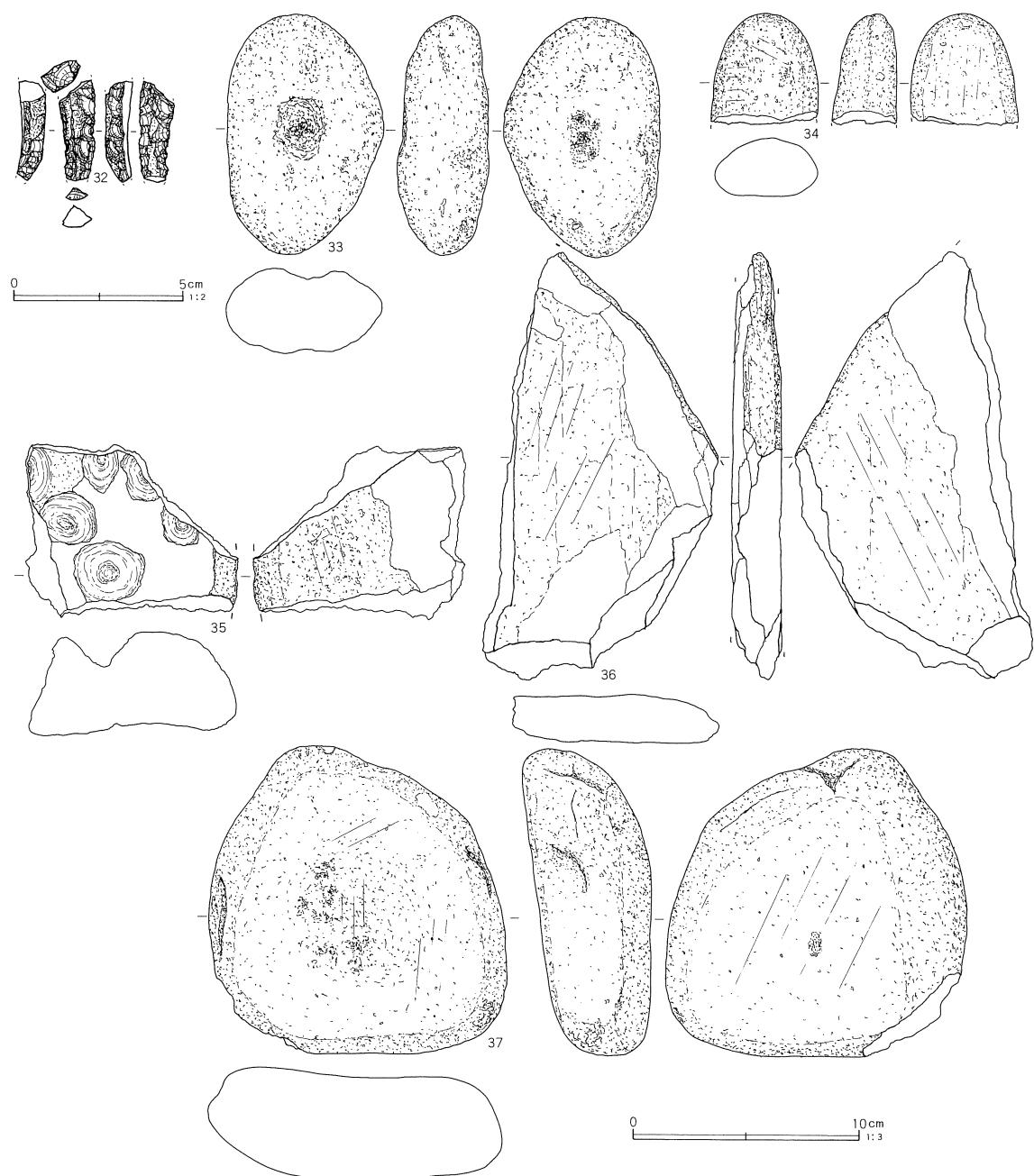
29、30は底部の破片で、30の底面には網代痕が認められた。

31は注口土器の注口部で、注口の周囲には2本1組単位で沈線が巡らされている。

### グリッド出土石器（第40図32～37）

グリッドから6点が出土した。32は石錐と考えられるもので、断面は三角形状で一部に自然面を残している。両端は欠損している。残存する長さ2.95cm、幅1.05cm、厚さ0.85cm、重さ2.21gである。石材は黒曜石である。33、35は凹石である。33は中央部に凹部を持ち

第40図 グリッド出土遺物(2)



風化が著しいものである。長さ10.2cm、幅6.6cm、高さ3.6cm、重さ207.02gである。石材は軽石である。35は一部が残存していたもので、複数の凹部を持っている。石皿としても利用されていたと考えられる。残存部の長さ7.4cm、幅9.1cm、厚さ4.2cm、重さ318.66gである。石材は安山岩で、被熱のため全体に赤化している。34は磨石で、半分を欠損する。磨面は両面を使用している。残存する長さ4.6cm、幅4.4cm、厚さ2.5cm、重さ86.47gである。石材は安山岩である。36、37は石皿である。

ある。36は一部分のみが残存していたもので、全体の形状は不明である。残存部の長さ18.0cm、幅9.1cm、厚さ2.0cm、重さ579.09gである。石材は点紋緑泥片岩である。37は小形であるが、置いて使用したと考えられるため、石皿とした。表面は使用のため全体的にやや窪み、敲打の痕跡もあった。裏面も使用されており、中央付近に凹部が見られた。計測値は長さ13.3cm、幅12.9cm、厚さ4.8cm、重さ1443.32gで、石材は砂岩である。

### 3. 中・近世

#### (1) 土壙 (第41図～第43図)

中世以降の土壙を一括した。土壙はB区を中心に、25基検出された。番号は新たに振り直したもので、個々の平面形態や計測値、旧番号との対照は、土壙一覧表に一括してある。

検出された土壙は、覆土からそのほとんどが短時間のうちに埋め戻されたことを示していた。

また、遺物は埋め戻された土層中から縄文土器が混入して検出されたのみで、明確に土壙に伴うものは出土しなかった。

そのため土壙の正確な年代は不明であるが、土壙の形態は長方形または楕円形で、規模もいくつかを除き、よく似通っており、土壙にそれほど時期差はないと考えられる。

土壙の分布は、3基以外はB区の中央付近にまとまって検出された。

土壙は、長軸を主軸方向とすると、I類～III類の3つのグループに分類することができた。

##### I類 主軸方向がほぼ北を向くもの

ここには第55号土壙、第56号土壙、第57号土壙、第58号土壙の4基が、含まれる。4基はまとまって検出されている。また、第56号土壙、第57号土壙、第58号土

壙は南北に並んで検出されている。

II類 主軸方向が北から東へ45°±20°前後傾くもの  
ここには、第48号土壙、第52号土壙、第63号土壙、第65号土壙、第66号土壙、第68号土壙、A区の第71号土壙の7基が、含まれる。第71号土壙以外は、B区中央にまとまって検出された。

##### III類 主軸方向が北から西へ45°±20°前後傾くもの

ここには、第49号土壙、第50号土壙、第51号土壙、第53号土壙、第54号土壙、第59号土壙、第60号土壙、第61号土壙、第62号土壙、第64号土壙、第67号土壙、第69号土壙、第72号土壙、A区第70号土壙の14基が含まれる。第70号土壙、第72号土壙以外は、B区中央にまとまって検出された。3つの分類の内、数の上では最も多く検出された。

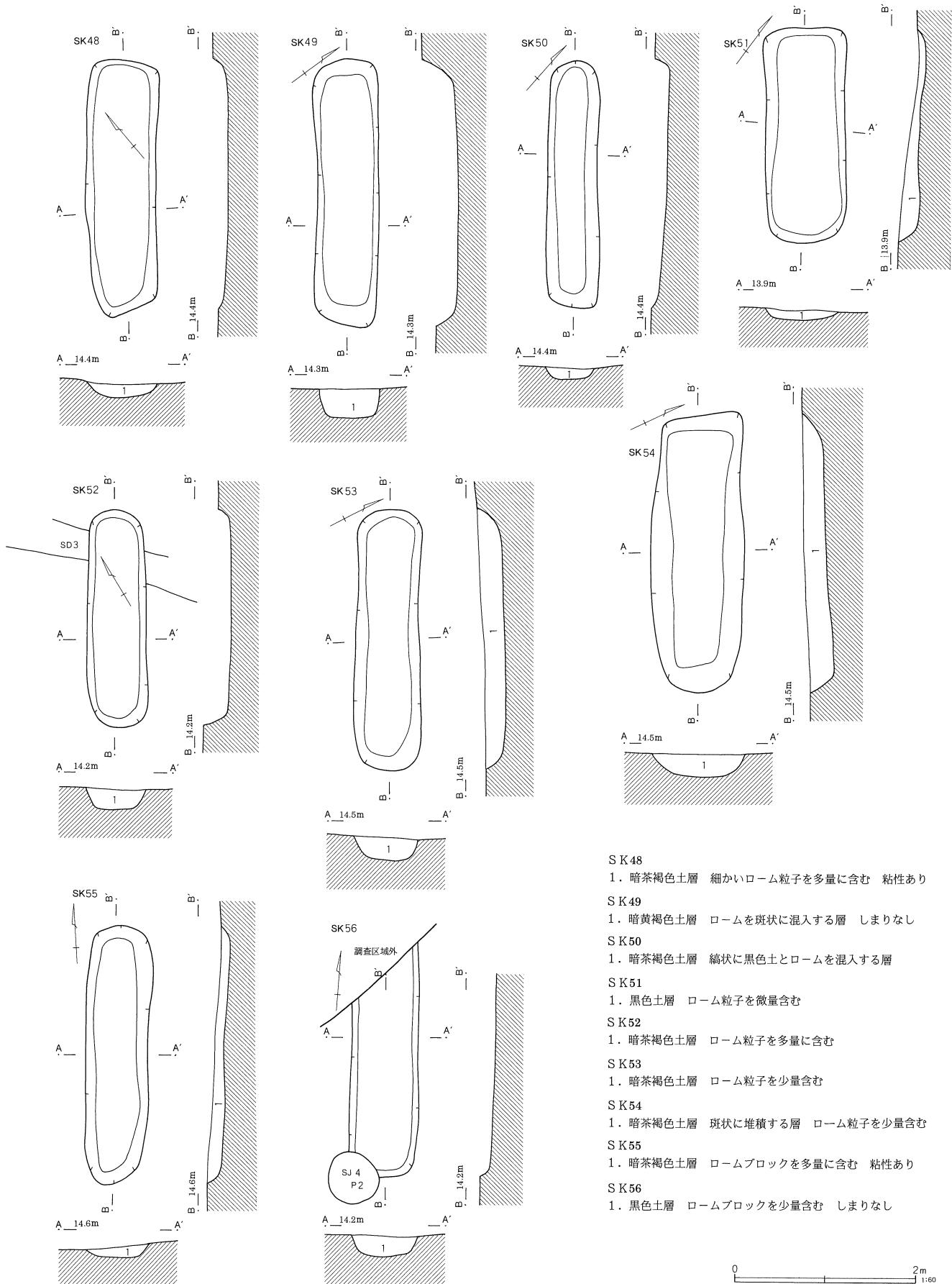
土壙は、II類の第66号土壙とIII類の第67号土壙とが、重複して検出されたほかは、隣接はするものの、重複関係はなかった。

また、第66号土壙と第67号土壙については、土層断面の観察から、第66号土壙は第67号土壙より、新しく作られたものであった。

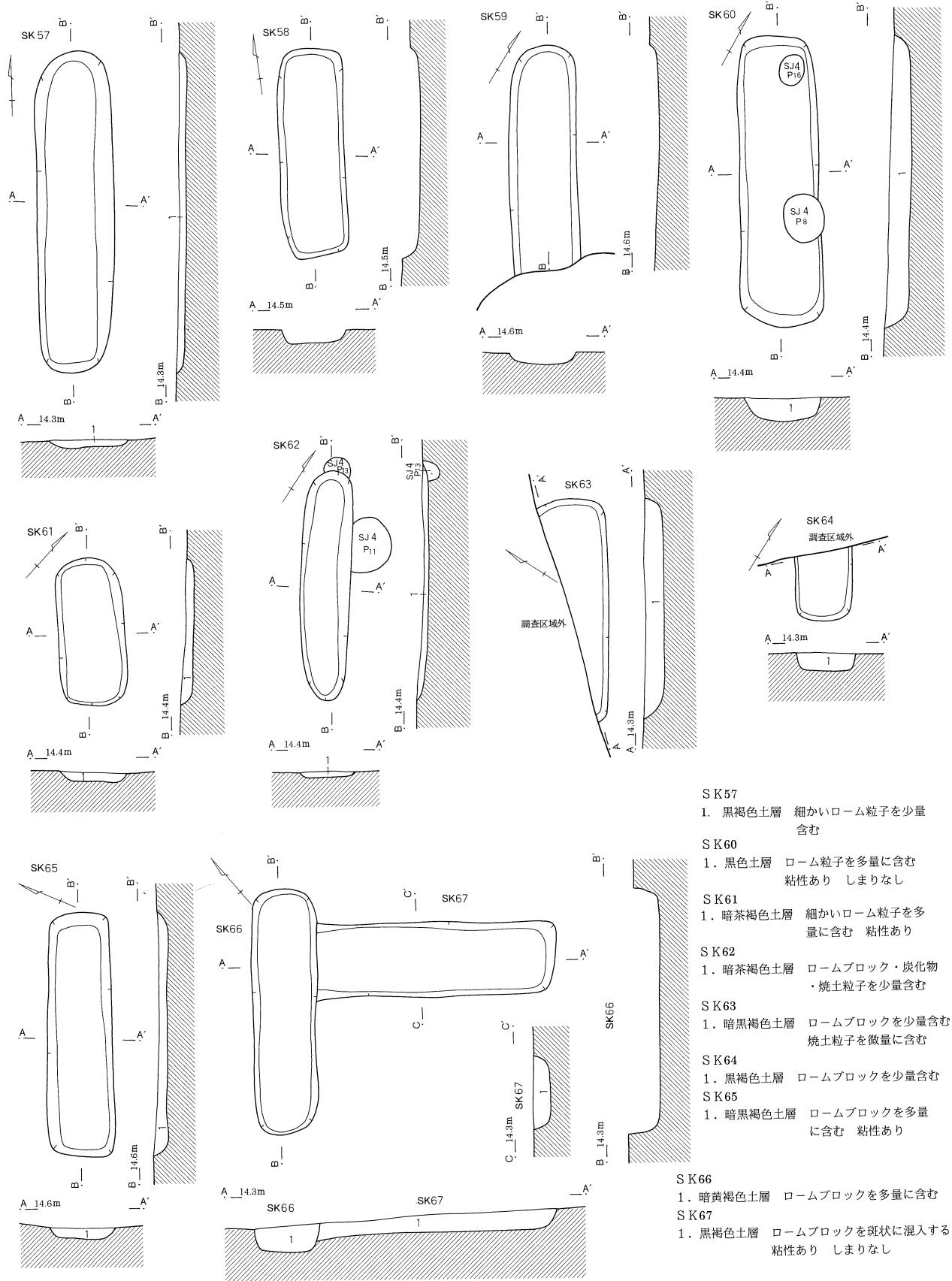
土壙主軸方向一覧表

番号	位置	主軸方向	番号	位置	主軸方向
48	D-6・7. E-6	N-40°-E	61	E-5	N-47°-W
49	D-6	N-52°-W	62	E-5	N-32°-W
50	E-6	N-41°-W	63	D-5. E-5	N-56°-E
51	D-6	N-38°-W	64	D-5	N-32°-W
52	D-6	N-31°-E	65	E-6	N-66°-E
53	E-6	N-63°-W	66	D-6	N-41°-E
54	E-6	N-65°-W	67	D-6・7	N-49°-W
55	E-6	N-4°-E	68	D-6	N-43°-E
56	D-5. E-5	N-4°-W	69	D-6	N-51°-W
57	D-5. E-5	N-2°-E	70	G-3・H-3	N-44°-W
58	E-5	N-5°-E	71	H-3	N-48°-E
59	E-5	N-33°-W	72	F-4・5	N-40°-W
60	E-5	N-30°-W			

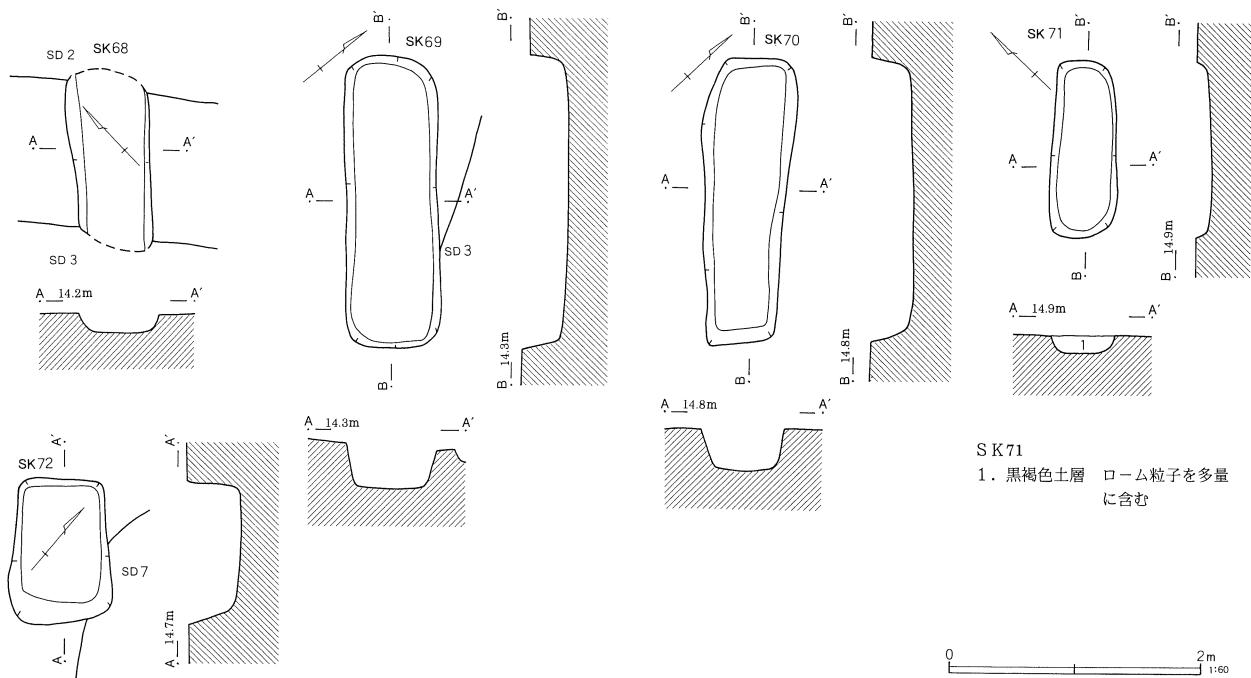
第41図 土壌(1)



第42図 土壌(2)



第43図 土壌(3)



## (2) 溝跡 (第44図～第47図)

B区を中心に10条が検出された。第9号溝跡以外は、同じ方向で掘削されている。掘り込みは極浅く、構築当時の掘削面はかなり上部であったと考えられる。そのため遺物はほとんど出土しなかった。十五世紀後半の遺物が出土していることから、溝跡の時期は中世以降と考えられるが、遺物は小破片数点で流れ込みとも考えられ、確定はできなかった。

中世以降とした土壌と、同様の遺構の分布状況であるが、掘り込みがほとんどないため、重複している土壌から明確な新旧関係は不明であった。

### 第1号溝跡 (第44図)

D-6、D-7グリッドに位置している。溝の底面近くが残存しているのみである。調査区を横断するものと考えられるが、両端で途切れている。溝跡の延長線上には、第1号住居跡が検出されているが、調査区外との境界部分に設定された土層断面に溝跡の掘り込みが観察されている。

溝が走る方向はN-54°-Wで、残存する長さ6.52

m、幅1.18m、深さ0.16mである。

### 第2号溝跡 (第44図)

D-6グリッドに位置している。溝の底面近くが残存しているのみである。調査区を横断するものと考えられるが、溝跡は片側途中で途切れている。第68号土壌と重複している。

溝が走る方向はN-39°-Wで、残存する長さ9.72m、幅0.63m、深さ0.13mであった。

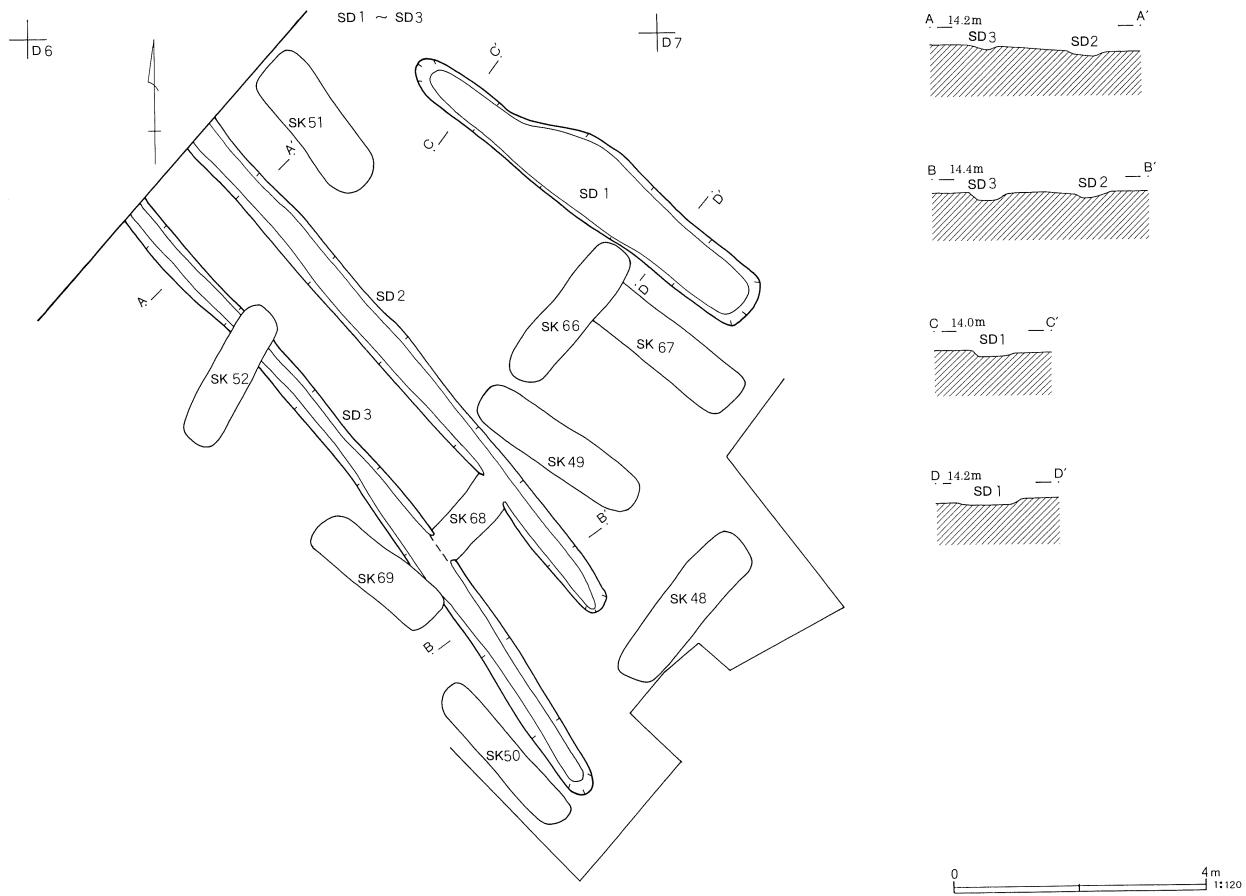
### 第3号溝跡 (第44図)

D-6、E-6グリッドに位置している。溝の底面近くが残存しているのみである。片側が途切れているが、本来は調査区を横断すると考えられる。第52号土壌、第68号土壌、第69号土壌と重複している。

溝が走る方向はN-38°-Wで、残存する長さ11.55m、幅0.58m、深さ0.15mであった。

遺物は小破片のため図示しなかったが、15世紀後半の擂鉢が出土している。

第44図 溝跡(I)



#### 第4号溝跡（第45図）

E-5、F-5グリッドに位置している。溝の底面近くが残存しているのみである。調査区を横断して検出されている。溝が走る方向はN-42°-Wで、残存する長さ11.26m、幅1.44m、深さ0.16mであった。

#### 第5号溝跡（第45図）

E-4・5、F-5グリッドに位置している。溝の底面近くが残存しているのみである。片側が途切れているが、本来は調査区を横断すると考えられる。

溝が走る方向はN-44°-Wで、残存する長さ5.49m、幅1.68m、深さ0.12mであった。

#### 第6号溝跡（第45図・第46図）

E-4、F-4・5グリッドに位置している。溝の底面近くが残存しているのみである。片側が途切れて

いるが、本来は調査区を横断すると考えられる。

溝が走る方向はN-44°-Wで、残存する長さ10.00m、幅1.79m、深さ0.14mであった。

寛永通宝と、小破片のため図示しなかった15世紀後半の縁紹小皿が出土したが、流れ込みと考えられる。

#### 第7号溝跡（第45図）

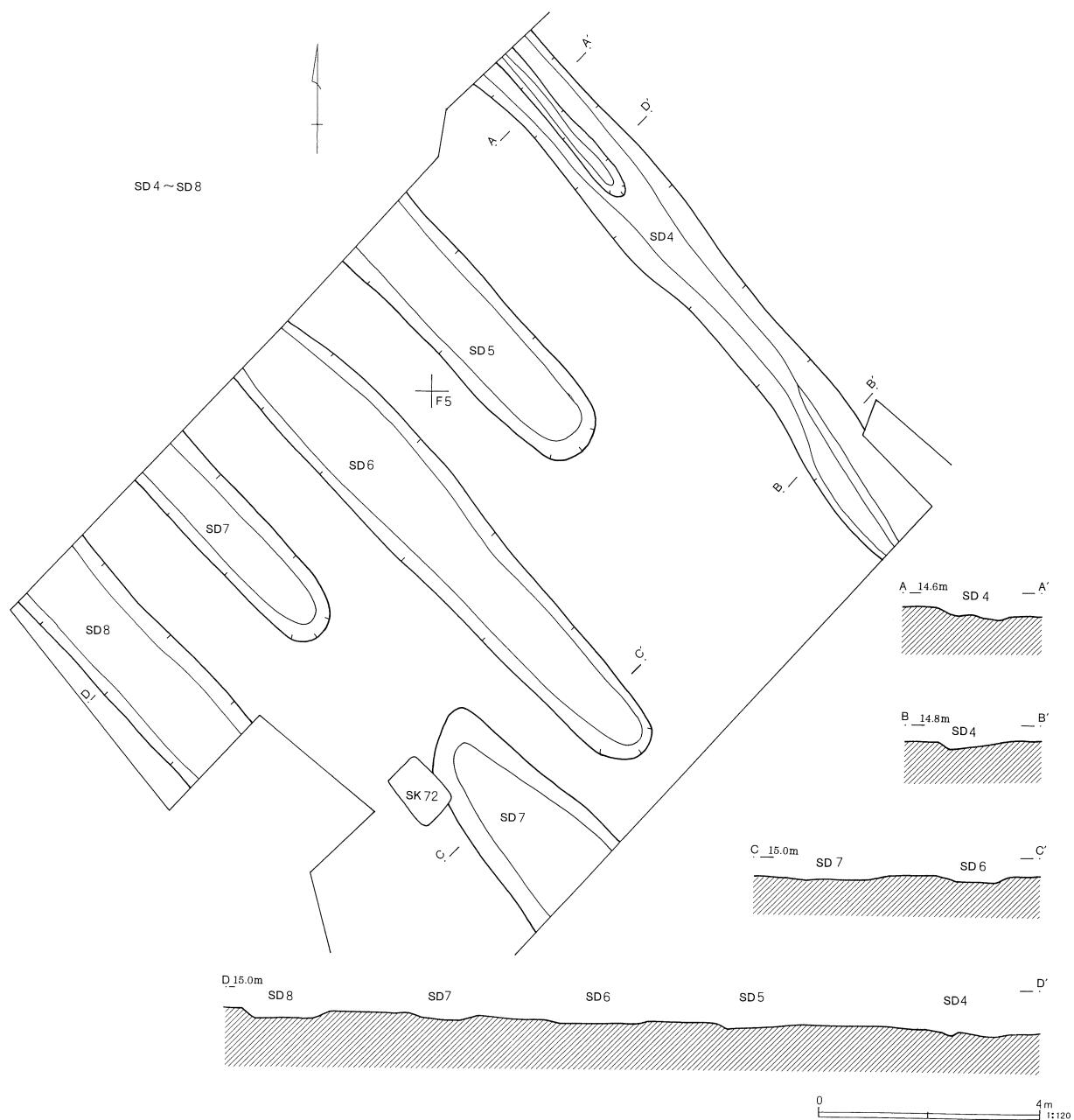
F-4・5グリッドに位置している。溝の底面近くが残存しているのみである。そのため調査区を横断する溝が、中間で途切れて検出されている。

溝が走る方向はN-43°-Wで、残存する長さは合わせて8.10m、幅2.15m、深さ0.07mであった。

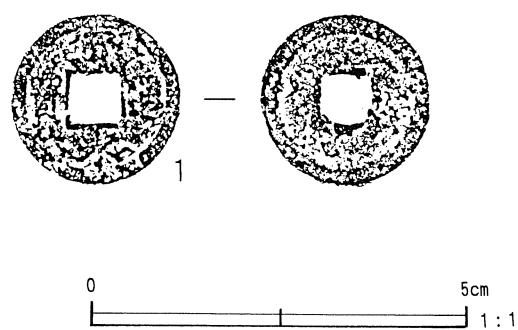
#### 第8号溝跡（第45図）

F-4グリッドに位置している。溝の底面近くが残存しているのみである。片側が途切れているが、本来

第45図 溝跡 (2)



第46図 溝跡出土遺物



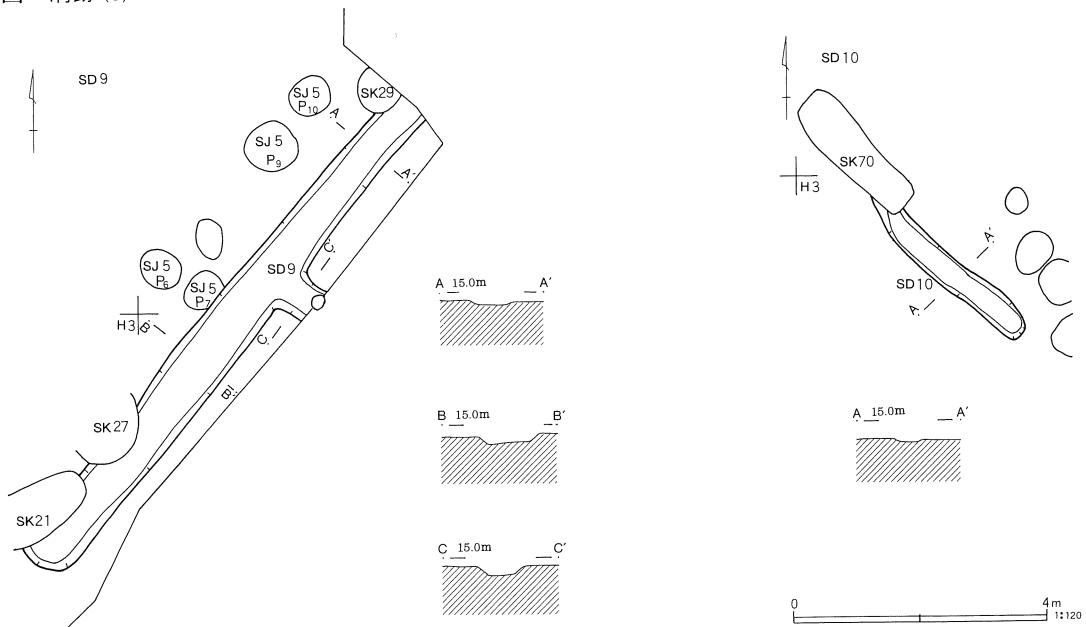
は調査区を横断すると考えられる。

溝が走る方向はN-42°-Wで、残存する長さ4.57m、幅1.66m、深さ0.17mであった。

#### 第9号溝跡 (第47図)

第9・10号溝跡はA区で検出されている。G-4、H-3・4グリッドに位置している。溝の底面近くが残存しているのみである。第9号溝跡のみ主軸方向が他の溝跡と約90°違っている。また検出部分の中間に

第47図 溝跡(3)



は、第9号溝跡と直行する溝跡の一部が検出されたが、一括して扱った。第5号住居跡、第21号土壙、第27号土壙、第29号土壙と重複して検出された。

溝が走る方向はN-40°-Eで、残存する長さ9.40m、幅0.87m、深さ0.17mであった。

第10号溝跡(第47図)

H-3グリッドに位置している。溝の一部分が検出されたのみであった。第70号土壙と重複していた。

溝が走る方向はN-46°-Wで、残存する長さ3.21m、幅0.45m、深さ0.05mであった。

土壙一覧表(1)

土壙番号	土壙旧番号	位置	形状	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)
1	1	B-8	長方形	0.75	0.64	0.14
2	2	B-8	楕円形	0.91	0.59	0.15
3	3	B-8	楕円形	0.86	0.51	0.10
4	4	B-7・8	楕円形	0.65	0.48	0.17
5	6	C-7	楕円形	0.58	0.49	0.13
6	5	C-7	楕円形	0.99	0.57	0.13
7	7	C-7	楕円形	0.65	0.61	0.07
8	10	G-3	楕円形	0.98	0.64	0.09
9	12	G-3	楕円形	0.61	0.51	0.23
10	13	G-3	楕円形	0.47	0.37	0.24
11	14	G-3	楕円形	0.74	0.70	0.40
12	15	G-3	楕円形	1.11	0.80	0.32
13	16	G-3	円形	1.69	(1.10)	0.28
14	69	G-3	楕円形	(0.67)	0.46	0.18
15	17	G-3, H-3	楕円形	1.37	1.12	0.21
16	18	H-3	楕円形	1.13	0.76	0.18
17	21	G-3, H-3	円形	0.80	0.77	0.19
18	20	G-3, H-3	楕円形	2.52	1.11	0.23
19	19	H-3	楕円形	2.24	1.18	0.25
20	24	H-3	楕円形	2.28	1.56	0.57
21	51	H-3	長方形	(1.55)	0.88	0.15
22	22	H-3	円形	0.74	0.72	0.16

土壤一覧表 (2)

土壤番号	土壤旧番号	位 置	形 状	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)
23	25	H-3	円形	0.84	0.84	0.12
24	26	H-2・3	楕円形	0.96	0.76	0.18
25	52	G-3. H-3	楕円形	(0.57)	0.87	0.18
26	53	G-3. H-3	楕円形	1.10	1.04	0.26
27	50	H-3	円形	1.31	1.10	0.34
28	55	G-3・4	楕円形	0.73	0.61	0.23
29	59	G-4	楕円形	(0.50)	0.64	0.15
30	60	G-3・4	楕円形	0.61	0.58	0.26
31	61	G-4	楕円形	0.94	0.67	0.24
32	62	G-3・4	楕円形	0.60	0.47	0.20
33	64	G-3	楕円形	0.83	0.57	0.21
34	65	G-3	円形	0.56	0.51	0.20
35	66	G-3	楕円形	0.61	0.50	0.17
36	67	G-3	楕円形	0.59	0.52	0.18
37	68	G-3	楕円形	0.53	0.47	0.20
38	71	G-3	楕円形	—	0.46	0.26
39	72	G-3	楕円形	—	0.45	0.23
40	70	G-3	楕円形	0.96	0.53	0.22
41	73	G-3	楕円形	0.74	0.57	0.31
42	74	G-3	円形	0.47	0.46	0.19
43	75	H-3	楕円形	0.72	0.52	0.25
44	76	H-3	楕円形	0.56	0.52	0.20
45	77	H-3	楕円形	0.87	0.78	0.34
46	78	I-2	楕円形	0.58	0.41	0.13
47	79	I-2・3	長方形	0.72	0.61	0.35
48	27	D-6・7. E-6	長方形	2.73	0.77	0.14
49	28	D-6	長方形	2.92	0.70	0.36
50	29	E-6	長方形	2.70	0.54	0.17
51	31	D-6	長方形	2.35	0.88	0.20
52	32	D-6	長方形	2.36	0.65	0.26
53	33	E-6	長方形	2.86	0.73	0.27
54	34	E-6	長方形	3.03	1.04	0.27
55	35	E-6	長方形	2.81	0.72	0.15
56	36	D-5	長方形	(2.23)	0.73	0.22
57	37	D-5. E-5	長方形	3.35	0.83	0.08
58	38	E-5	長方形	2.18	0.67	0.15
59	39	E-5	長方形	(2.37)	0.69	0.13
60	40	E-5	長方形	3.06	0.90	0.24
61	41	E-5	長方形	1.55	0.71	0.10
62	42	E-5	楕円形	(2.27)	0.55	0.07
63	43	D-5. E-5	長方形	2.32	(0.66)	0.20
64	44	D-5	長方形	(0.71)	0.61	0.19
65	46	E-6	長方形	2.56	0.71	0.13
66	49	D-6	長方形	2.58	0.68	0.30
67	47	D-6・7	長方形	(2.49)	0.77	0.19
68	48	D-6	長方形	(1.85)	0.63	0.15
69	80	D-6	長方形	2.30	0.73	0.34
70	82	G-3・H-3	長方形	2.24	0.74	0.33
71	23	H-3	長方形	1.40	0.52	0.12
72	81	F-4・5	長方形	1.13	0.79	0.43

# V 結 語

## 第2号住居跡出土土器について

第2号住居跡からは、いわゆる“加曾利EIV式土器”が出土している。この“加曾利EIV式土器”は、中期終末から後期初頭の土器の問題として、近年事業団の中にあっても、加曾利EIII式土器とともに再検討がなされてきている（橋本1994、細田1994、谷井・細田1995など）。

特に谷井・細田両氏による「関東の大木式・東北の加曾利E式土器」においては“加曾利EIV式土器”は時間軸として不在するとされ、その後の論文である「水窪遺跡の研究—加曾利E式土器の編年と曾利式の関係からみた地域性—」（谷井・細田1997）内においても“加曾利EIV式土器”を時間軸として否定し、中期と後期に振り分けて考える、とされている。

そこでそれらに照らし合わせ、第2号住居跡の編年的位置づけについて、考えていきたい。

### （1）第2号住居跡出土土器の位置づけ

第2号住居跡は柄鏡形住居跡で、第23図・第24図の土器が出土している。第23図1の土器は波状口縁部に無文帯を持ち、無文帯は微隆帯によって4つの方形に区画されている。また胴部は上下に分かれて、沈線が施されている。上部の文様は、楕円文や逆J字文に区画し中に縄文を充填するもので、下部の文様は逆V字内に縄文を充填する。ほかに出土した第24図2、3の土器にも鋸歯状に、逆V字に沈線を施している。また両耳壺である第24図4には、隆帯によって逆V字に施文している。隆帯はいすれも、断面が三角形状に両脇がなでられているものである。

これらの土器は、“加曾利EIV式土器”が中期と後期とに振り分けられるとすれば、前述の「水窪遺跡の研究」などからすると、加曾利EIII式期に含まれる“加曾利EIV式土器”ということになる。

この加曾利EIII式期は、吉井城山類や梶山類が成立した段階で、それらの土器が中期の終末の土器群と理

解されている。吉井城山類は波状沈線と磨消懸垂文が組み合ったものであるが、口縁部側の波状沈線文は第2号住居跡第23図1のように、口縁部と接して区画文化はしない。また懸垂文も逆U字状で、逆V状とはなっていない。第2号住居跡出土土器は、加曾利EIII式土器としは新しい様相を持っていると言える。

また、加曾利EIII式の直後の段階として、前原遺跡4号住（第48図39～45）の加曾利E系の土器群が相当するとされている。しかしながら宿北V遺跡第2号住居跡出土土器は、前原第4号住よりも古い様相を持っている。

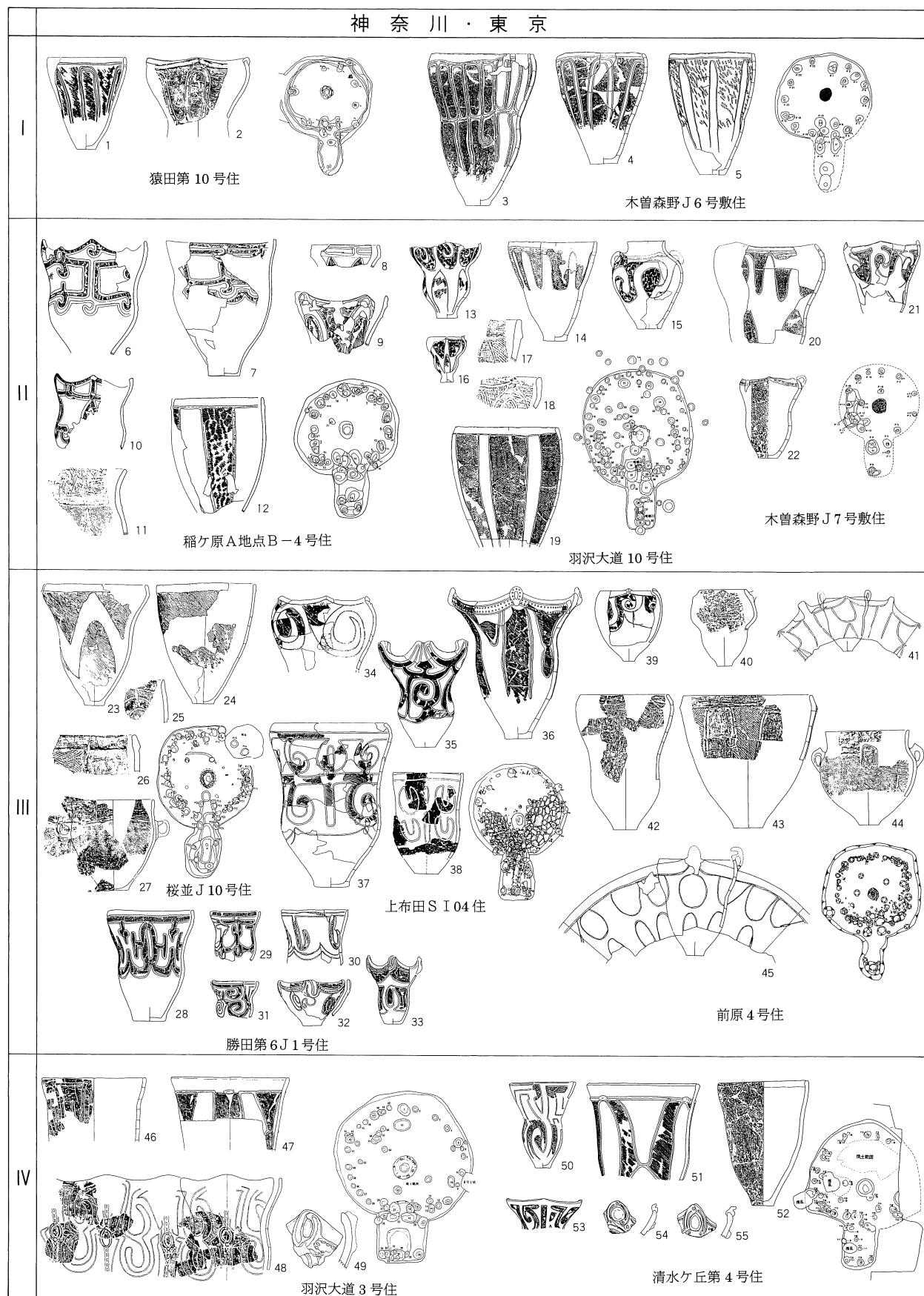
以上から、第2号住居跡出土土器は、中期終末とも後期初頭とも確定できない様相をもっており、単純に加曾利EIII式土器と一括できるのかは、検討の必要があると考えられる。

つまり、この第2号住居跡出土土器の位置づけについては、加曾利EIII式土器（吉井城山類・梶山類）と、後続する後期初頭の称名寺式土器との関連の中でのみ、解明されると考えられるのである。

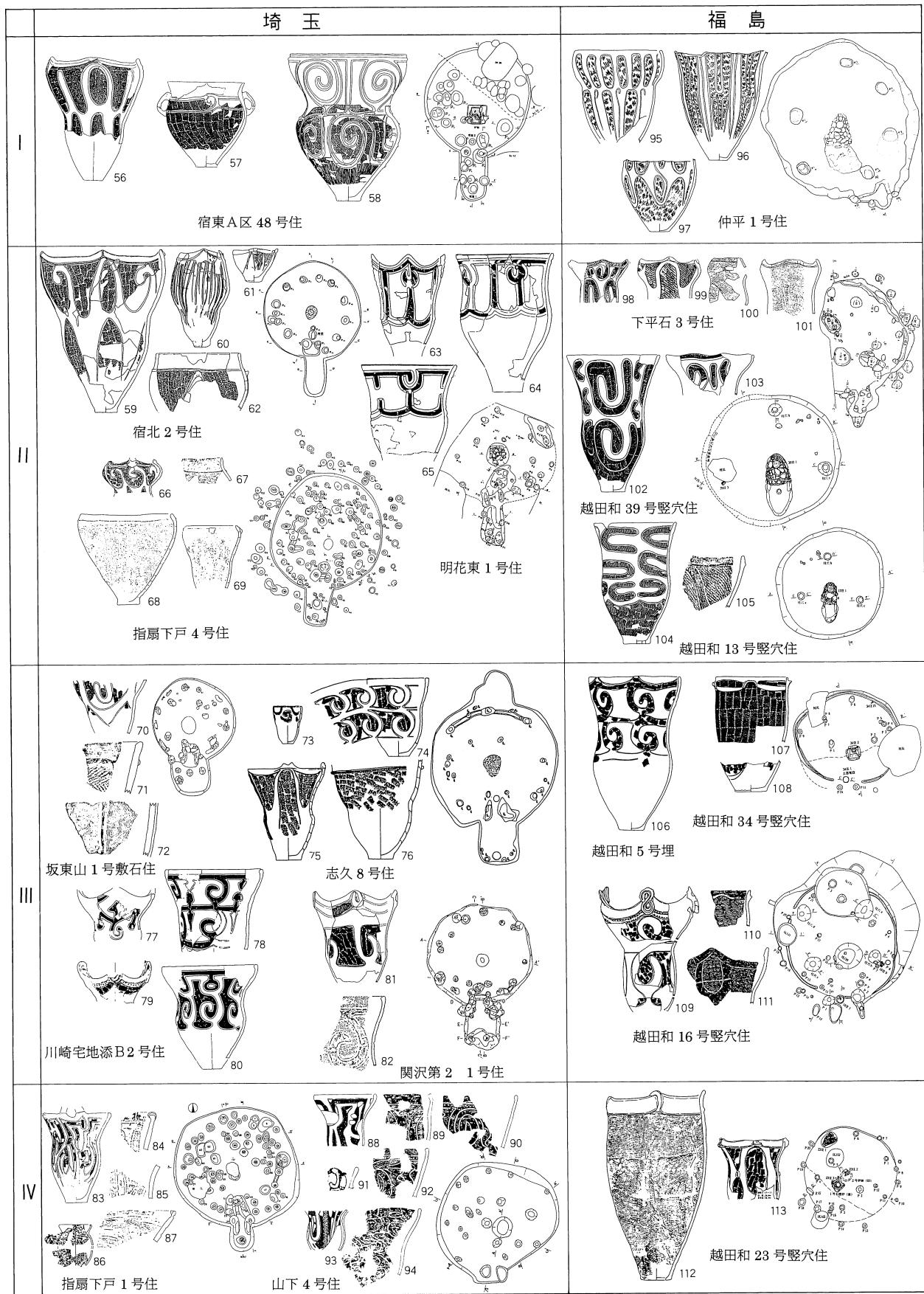
後期初頭の称名寺式土器については、今村啓爾氏の「称名寺式土器の研究」（今村 1978年）が最も知られている。それによると、第2号住居跡第23図1などの“加曾利EIV式土器”が、称名寺I式b類へと変遷したとされている。しかしながら、変遷後の称名寺I式b類の一般的な印象である、同じ大きさのJ字を2段持つ称名寺式土器は、鈴木徳雄氏の7段階細分によれば（鈴木1990）、2、3段階に相当し称名寺式土器の最古段階とはされていない。

では、埼玉における称名寺式土器の1段階に相当する土器群だが、現在のところ住居跡では称名寺I式a類土器が出土した、浦和市明花東遺跡1号住が確実な例として知られるのみで、ほとんど出土例がない。この空白部分に対し、編年的位置づけが確定できない第

第48図 土器変遷図 (1)



第49図 土器変遷図（2）



2号住居跡出土土器を、称名寺最古の土器（称名寺I式a類の最古、または1段階）と並行すると仮定することによって、中期終末から後期初頭の土器の変遷について検討し、この想定の整合性について考えていくこととする。

#### （2）各地域の中期終末から後期初頭の土器の変遷

##### （第48図・第49図）

各地域の様相と並行して土器の変遷を追ってみた。称名寺式土器の中心地域である、神奈川県横浜市周辺、埼玉県とつなぐ意味で東京都多摩地方、また中期終末の土器として、大木式土器との関連も重要な要素であることから、福島県の土器の変遷についても、触れておくこととした。しかし各段階については、細かい分類は避けた。

#### 第Ⅰ期

吉井城山類や梶山類が成立する段階である。関東においては、神奈川県の猿田遺跡第10号住（第48図1、2）で知られるように、柄鏡形住居跡の初現期にあたる。この猿田遺跡と同様に柄鏡形住居跡を持つ中期終末期の住居跡は、埼玉県では日高市の宿東遺跡A区48号住があげられる（第49図56～58）。2と56は玉抱き文を持つ吉井城山類にあたり、類似する土器である。東京都では町田市の木曾森野遺跡J6号敷住が第Ⅰ期にあたる（第48図3～5）。4は1と同様に2本を1対として、逆U字文を施文している。

福島県のこの時期に相当する事例として、三春町の仲平遺跡1号住を挙げた（第49図95～97）。この住居跡には新旧があるとされ、95～97は新住居跡に伴うもので、関東の様相とほぼ同じである。また旧住居跡からは、内側に縄文を充填する大柄の逆U字文やワラビ手文を施文する土器が出土しており、ほとんど時期差がないとされている。大木9b式の末葉の土器群と考えられる。

#### 第Ⅱ期

称名寺式土器の、最古段階と並行すると考えられる段階である。住居跡の形態は、関東では柄鏡形で柄鏡部分がやや幅広となっている。宿北V遺跡第2号住居

跡の段階とした。今村氏のいう称名寺I式a類の最古段階、または鈴木氏の1段階にあたる。

称名寺式系の土器が出土する遺跡では、埼玉県では浦和市の明花東遺跡1号住出土の土器が、ほぼ唯一の事例となっている（第49図63～65図）。この明花東遺跡とほぼ同様の時期にあたるのが、神奈川県横浜市の稻ヶ原遺跡A地点B-4号住が挙げられる（第48図6～12）。9、11、12の加曾利E式系土器が共伴して出土している。8、11には沈線によって胴部に鋸歯状に逆V字が施文されている。

いわゆる“加曾利EIV式土器”である加曾利E式系土器が出土する遺跡は、埼玉県では宿北V遺跡の他に、大宮市の指扇下戸遺跡を挙げた（第49図66～69）。66は59と同様の土器と考えられるが、口縁部には縄文帯が巡り、その直下には狭い無文帯を巡らせている。胴部の文様は59とほぼ同じである。神奈川県では、横浜市の羽沢大道遺跡10号住が挙げられ（第48図13～19）、宿北V遺跡第2号住59と同様の土器13が出土している。口縁部は欠損しているが、18の口縁部の破片からすると、沈線によって区画されていると考えられる。13、16、17は鋸歯状に逆V字を施文している。17は61と同様の土器と考えられる。東京都では、町田市木曾森野遺跡J7号敷住が挙げられる（20～22）。21の土器は59と同じ構成と考えられるが、J字の区画文が胴上部に連続して施文されている。第Ⅱ期とした土器群の加曾利E式系土器に共通する要素は、鋸歯状の施文と、区画文である。この鋸歯状の施文は、稻ヶ原A地点B-4号住で、称名寺I式a類と伴出する。また木曾森野遺跡J7号敷住は、第Ⅰ期としたJ6号敷住と同時期とは考えにくく、報告書においてもJ7号住居跡の土器は、後期初頭に並行するとされている（前田他1997）。また66の口縁部の縄文帯は、6、7、8の称名寺I式a類と共通している。

福島県では、いわき市下平石3号住を挙げた（第49図98～101）。99は加曾利E系土器の岩坪類である。98はびわ首沢類の、胴部上下に文様が施文されるもので、口縁部には縄文帯が巡り波長部には、の字状突起

の下にJ字文が施文されている（中山他1989）。100は注口土器である。三春町の越田和遺跡は、大木10式の変遷をたどれる遺跡で、第II期では39号竪穴住（102、103）、13号竪穴住（104、105）を挙げた。103は98と同様びわ首沢類で、口縁部に縄文帯が施されている。105は加曾利E式系の土器である。これらの土器群は、98の口縁部の縄文帯とJ字文は6の称名寺I式a類の、口縁部の縄文帯とそこから垂下するJ字文と共通している。また、102、104の器形は64、65の器形に共通している。また関東の21や59などの区画文化する現象は、アルファベット文に代表される大木10式土器と通じるものがある。これらのことから、関東の第II期と並行しているといえる。第II期は大木10a式に相当する段階である。

### 第III期

称名寺式土器では、2段のJ字文が盛行する段階である。今村氏の称名寺I式b類の大半と、鈴木氏の2、3段階に相当する。この時期の関東の住居跡は柄鏡形で、柄鏡部が幅広で短くなる傾向にある。

この段階の加曾利E式系土器は、埼玉の入間市坂東山遺跡1号敷石住（第49図70～72）、東京の小金井市前原遺跡4号住（第48図39～45）、神奈川の横浜市桜並遺跡J10号住（第48図23～27）などの様相を持っている。第II期における鋸歯状の施文は、逆V字が大きく開く文様となっている（39、41、70など）。また27、44などの両耳壺、26、43などの土器類は第II期から大きな変化はたどっていない。

称名寺式系の土器を出土する住居跡は、埼玉の伊奈町志久遺跡8号住（第49図73～76）、上福岡市川崎宅地添遺跡B2号住（第49図77～80）、東京の調布市上布田遺跡S104住（第48図34～38）、横浜市勝田第6遺跡J1号住（第48図28～33）などが挙げられる。それらに伴う加曾利E式系土器は、36、75などの岩坪類などがある。

これらの加曾利E式系土器と称名寺式系土器が、同じ段階であることは、出土した土器によって説明される。23は微隆帯によって施文される土器で、開く鋸

歯状文は41や70の様相を持ち、隆帯や文様は岩坪類の様相を持つ土器である。また34は4単位に区画される波状口縁と、そこから大柄のJ字文が垂下して施文されるもので、39、42、70と共に通する要素を持つ加曾利E式系土器である。以上のことから同じ段階に並行することが、考えられるのである。またこの段階の類型としては、関沢第2遺跡1号住出土の土器が挙げられる（第49図81）。これは関沢類型と呼ばれる土器で、33、79がその類型にあたる。胴部の文様は、74などの縄文充填部分の文様と共に、また第II期の21、59などの胴上部のJ字の区画文にも系譜がたどれる。これら関沢類型の土器は、この第III期以降に出現すると考えられる。

福島においては、第II期に続き三春町越田和遺跡の34号竪穴住（第49図107、108）、16号竪穴住（109～111）が挙げられる。住居跡の炉跡は石囲炉となっている。107は牛蛭式土器に当たる。越田和5号埋甕（第49図106）は、称名寺I式b類の土器で、この段階の土器が越和田遺跡に存在することを示している。109は関沢類型の土器で、口縁部の貼り付け文と列点文は、上布田遺跡の36と似通っている。しかしながら関沢類型の土器については、今後下がる可能性がある。この時期は大木10b式に相当する。

### 第IV期

第IV期は今村氏の称名寺I式C類、鈴木氏の称名寺4、5段階にあたる。住居跡の形態の柄鏡形で、柄鏡部は方形が進み、短くなる傾向となる。この段階では、宿北V遺跡2号住59の系統の沈線文の“加曾利EIV式土器”は姿を見せなくなる。加曾利E式系土器では47や51の隆帯文を施文する土器が残存している。またこの時期は54や91など突起部分の粘土紐上に盲孔を持つものが見られる。それらは綱取式土器との関連を考えられている土器群である。

福島の三春町越田和遺跡では、23号竪穴住居跡がこの段階にあたる（第49図112、113）。113は47、51と共に通する様相を持つ土器である。この時期は綱取I式に相当すると考えられる。

### (3)まとめ

宿北V遺跡第2号住居跡出土土器が、称名寺式最古段階と並行する土器と仮定して、前項では加曾利E III式期から称名寺I式に相当する、中期末葉から後期初頭の土器の変遷について考えてみた。周辺地域との対応関係などの検討の結果、第2号住居跡出土土器が称名寺式土器最古段階並行とすれば、周辺の土器変遷とも合わせ、無理のない土器の変遷がたどれることがわかった。

以上のことから、宿北V遺跡第2号住居跡出土土器に類する、時間軸として否定されていた“加曾利E IV式土器”は、称名寺I式土器の最古段階に並行して存在すると考えられる。前段階の加曾利E III式期は宿東

遺跡A区48号住や猿田遺跡10号住などの土器群をもって終了するのである。

中期と後期の境界であるが、大木10式段階は中期末葉とされている。あるいは沈線文系の“加曾利E IV式土器”が収束する第IV期をもって後期とすれば、綱取I式との関係から関東と東北での、整合性を持てるとも言える。しかしここでは、学史的な経緯からも称名寺式土器をもって後期としたい。したがって第I期が中期終末、第II期以降を後期とする。

また、第49図59に類する加曾利E IV式土器は、群馬、新潟、長野などでも出土している。さらに広域的な視点での、中期終末から後期初頭の土器の様相については、今後の課題としたい。

### 参考文献

- 会田 明 他 1977 「関沢遺跡第2地点」富士見市文化財報告31  
赤城高志 他 1992 「調布市上布田遺跡－第2地点の調査－」調布市埋蔵文化財調査報告 23  
青木善脩 他 1995 「明花東遺跡」浦和市遺跡調査会報告書 第181集  
上尾市教育委員会 1992 「上尾市史 第1巻 資料編1 原始・古代」上尾市  
赤石光資 他 1979 「殿山古墳・殿山遺跡」上尾市文化財調査報告 第6集  
赤石光資 他 1986 「雨沼I遺跡」上尾市文化財調査報告 第27集  
赤石光資 他 1993 「在家遺跡－第1次調査－」上尾市遺跡調査会調査報告書 第4集  
荒井幹夫 他 1991 「殿山遺跡－第2次調査－」上尾市文化財調査報告 第36集  
伊藤富治夫 1976 「前原遺跡」国際基督教大学考古学研究センター  
今井康博 1990 「勝田第6遺跡のJ1号住居跡出土遺物」『調査研究集録』横浜市埋蔵文化財センター  
今村啓爾他 1977 「称名寺式土器の研究」(上下)『考古学雑誌』第63巻第1・2号  
笹森健一 他 1976 「志久遺跡」埼玉県遺跡調査会報告書 第31集  
笹森健一 1985 「埋蔵文化財の調査(VII) 川崎遺跡(宅地添地区第4次)の調査」上福岡市教育委員会  
坂上克弘 1995 「桜並遺跡」横浜市ふるさと歴史財団  
鈴木徳夫 他 1990 「調査研究集録 第7冊 特集 称名寺式土器に関する交流研究会の記録」横浜市埋蔵文化財センター  
石器研究会 1982 「殿山遺跡 石器研究会編」上尾市文化財調査報告 第11集  
谷井 彪 他 1973 「坂東山」埼玉県遺跡発掘調査報告書 第2集  
谷井 彪・細田 勝 1995 「関東の大木式・東北の加曾利E式土器」『日本考古学』日本考古学協会  
谷井 彪・細田 勝 1997 「水窪遺跡の研究－加曾利E式土器の編年と曾利式の関係からみた地域性－」『研究紀要 第13号』埼玉県埋蔵文化財調査事業団  
仲田茂司 1992 「西方前遺跡III」三春町文化財調査報告書第16集 三春ダム関連遺跡発掘調査報告書V  
中野康雄・山岸英夫 1989 「三春ダム関連遺跡発掘調査報告1 仲平遺跡 柴原館遺跡」福島県文化財調査報告書 第216集  
中野良一 他 1985 「清水が丘遺跡」府中市遺跡調査会  
中山雅弘 他 1989 「下平石遺跡」いわき市埋蔵文化財調査報告 第22冊  
中山 良 他 1993 「羽沢大道遺跡発掘調査報告書」県営羽沢団地内遺跡発掘調査団  
橋本 勉 1992 「東谷遺跡」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第115集  
橋本 勉 1994 「原山坊ノ在家遺跡」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第144集  
橋本 勉 1994 「中妻三丁目遺跡」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第159集  
橋本昌幸 他 1992 「稻ヶ原遺跡A地点発掘調査報告書」横浜市ふるさと歴史財団  
福島雅儀 他 1996 「三春ダム関連遺跡発掘調査報告8 越田和遺跡」福島県文化財調査報告書 第322集  
藤波啓容 他 1984 「天沼遺跡－第1～3次調査－」上尾市文化財調査報告 第21集  
細田 勝 他 1991 「在家遺跡」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第107集  
細田 勝 1994 「樋ノ下遺跡」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第135集  
細田 勝・渡辺清志 1998 「宿東遺跡」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第197集  
前田秀則 1997 「木曾森野遺跡IV 旧石器・縄文時代編2」町田木曾森野地区遺跡調査会  
山口康行 1992 「指扇下戸遺跡」大宮市遺跡調査会報告 第39集  
山崎広幸 1988 「石神遺跡 山下遺跡－第1・2次調査－」上尾市文化財調査報告 第31集  
山本暉久 1993 「横浜市洋光台猿田遺跡発見の柄鏡形住居址とその出土遺物」『縄文時代 第4号』縄文時代文化研究会

# 写 真 図 版



航空写真（荒川右岸から）



航空写真（南西から）



航空写真（南西から）



航空写真（北西から）



調査区 A 区全景



調査区 B 区全景



礫群 1



礫群 2



礫群 3



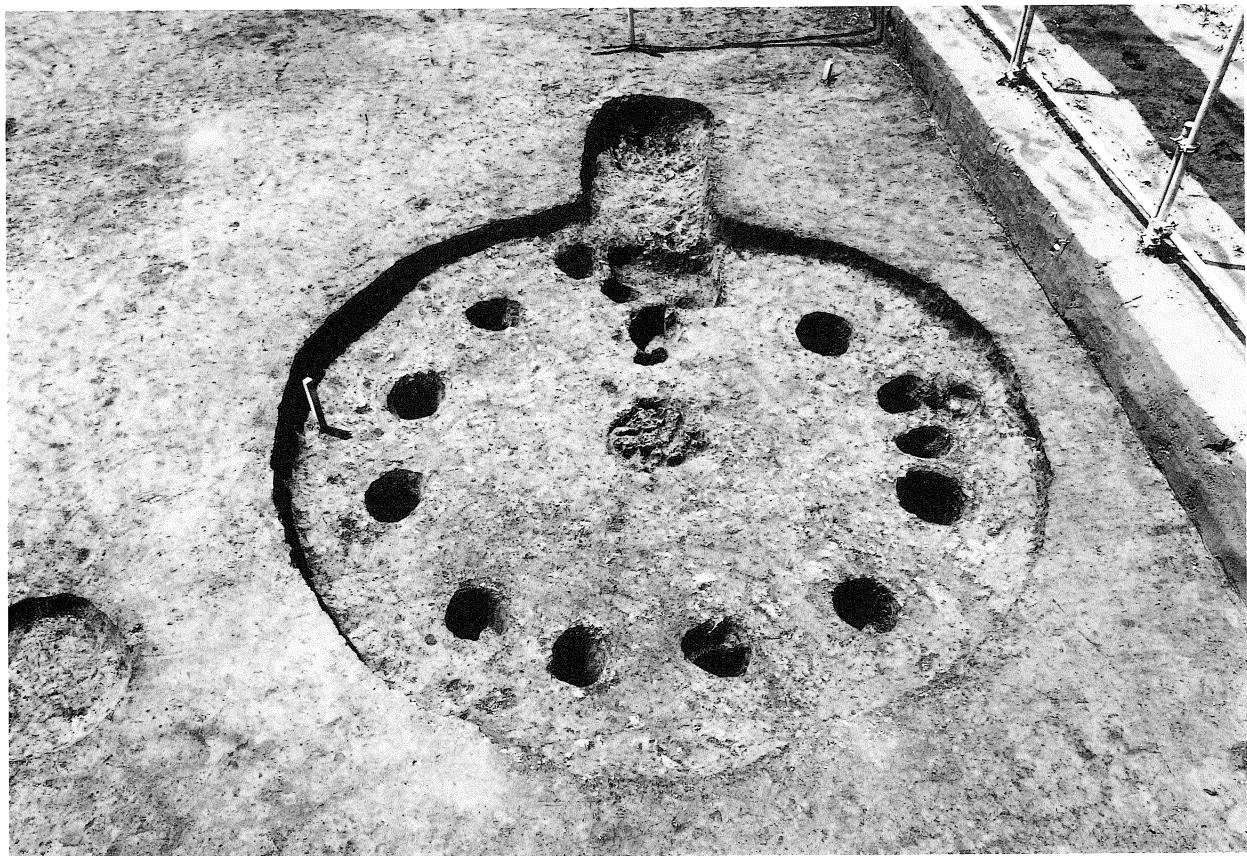
礫群 3 出土状況



第1号住居跡



第1号住居跡遺物出土状況



第2号住居跡



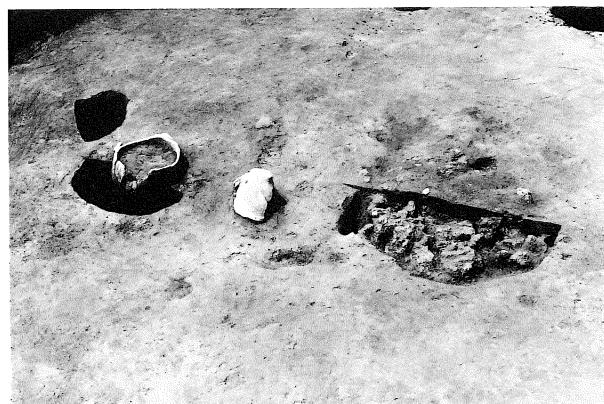
第2号住居跡遺物出土状況



第2号住居跡炉跡



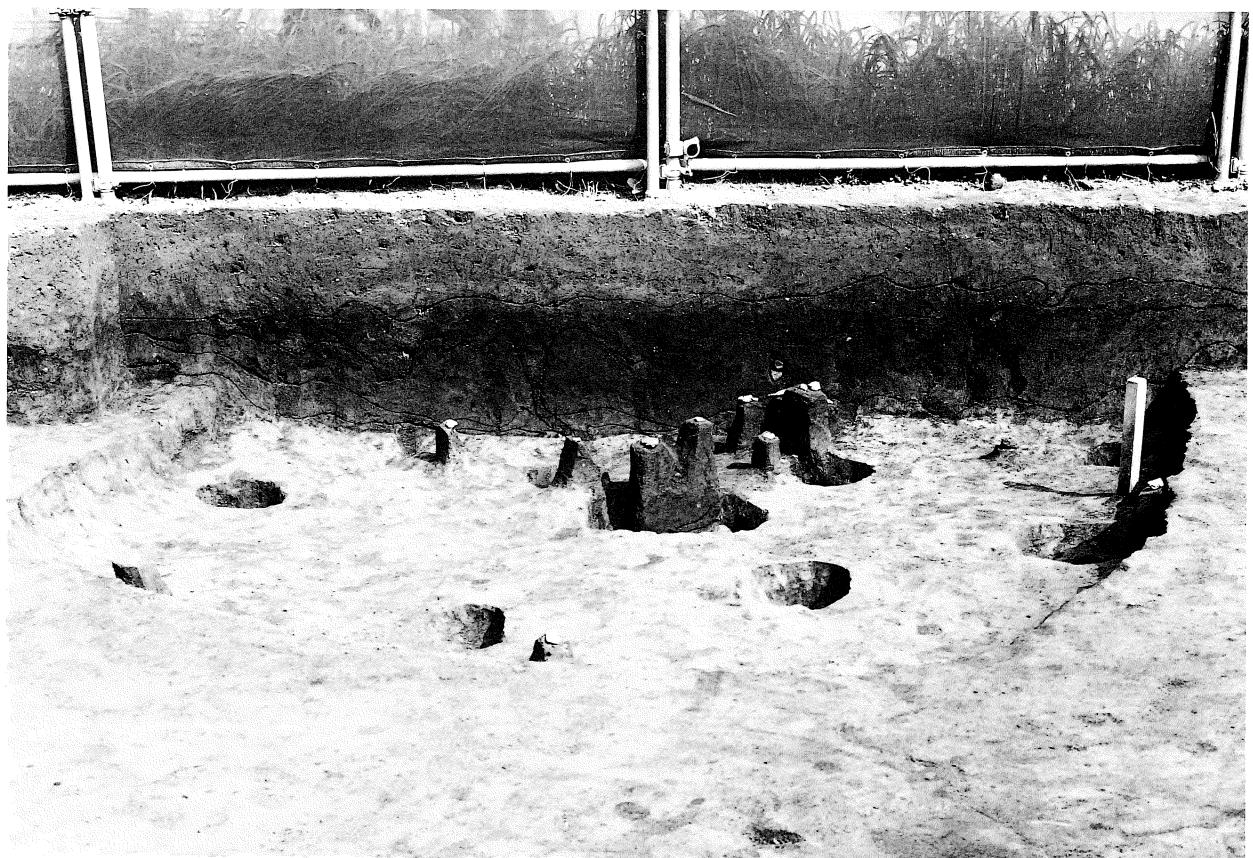
第2号住居跡埋甕



第2号住居跡炉跡・埋甕



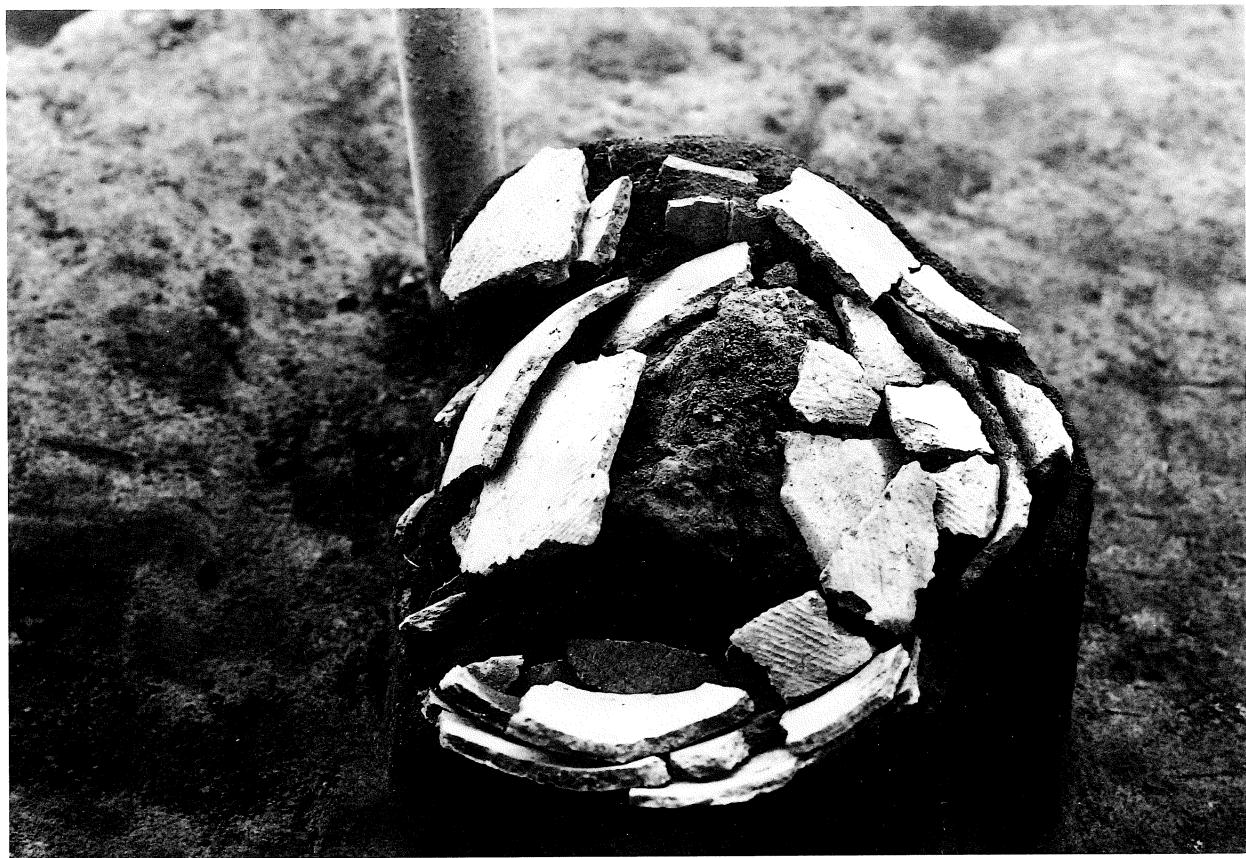
第3号住居跡



第3号住居跡遺物出土状況



第4号住居跡



第5号住居跡遺物出土状況



第2号土壤



第3号土壤



第4号土壤



第5号・第6号土壤



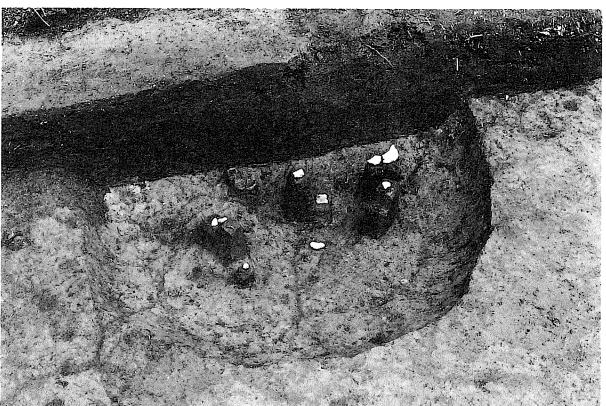
第9号土壤



第10号土壤



第11号土壤



第13号土壤



第27号土壤



第48号土壤



第49号土壤



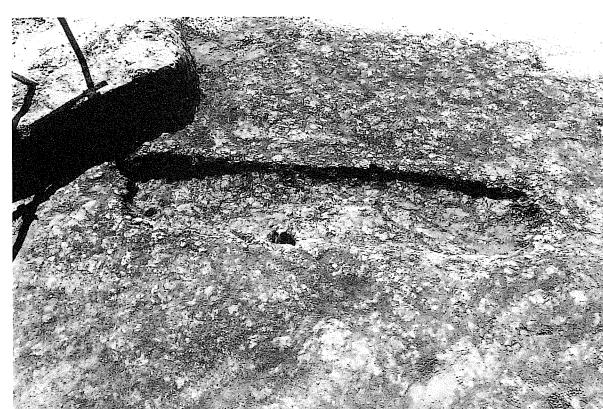
第50号土壤



第51号土壤



第53号土壤



第55号土壤



第57号土壤



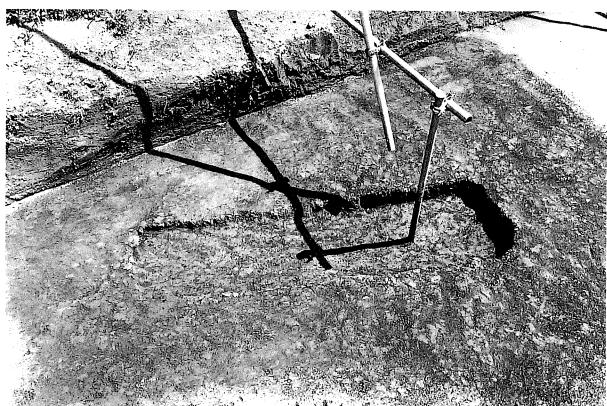
第58号土壤



第61号土壤



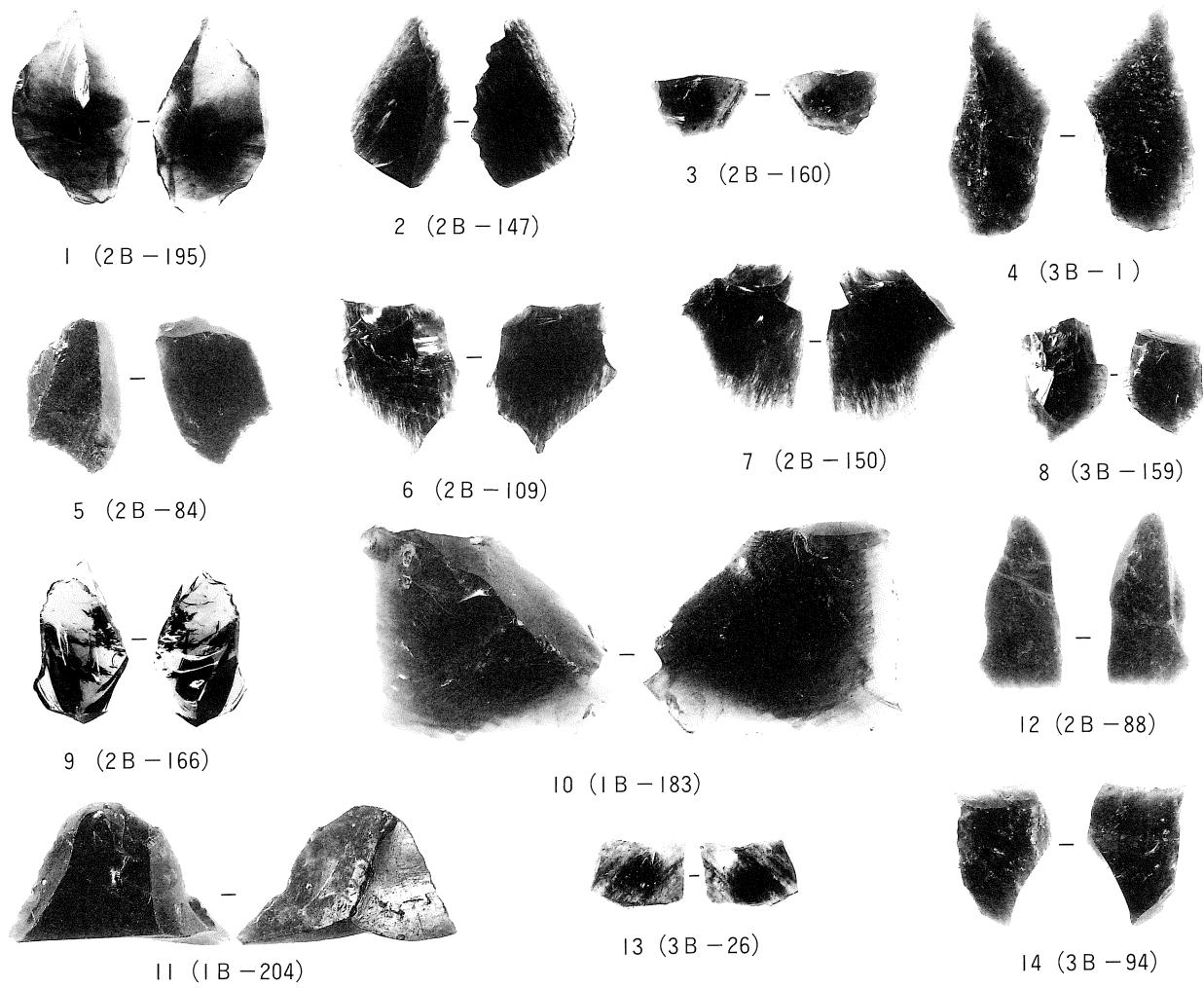
第62号土壤



第65号土壤



第2号・第3号溝跡



先土器時代出土石器

出土土器（1）



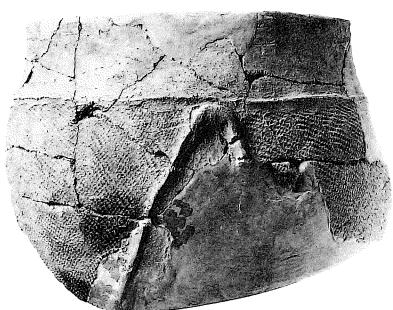
第23図-1



第24図-2



第24図-3



第24図-4



第31図-1



第19号土壤出土土器

出土土器（2）・出土古銭



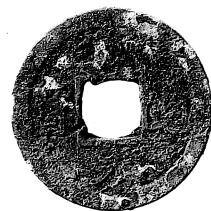
第19図-1



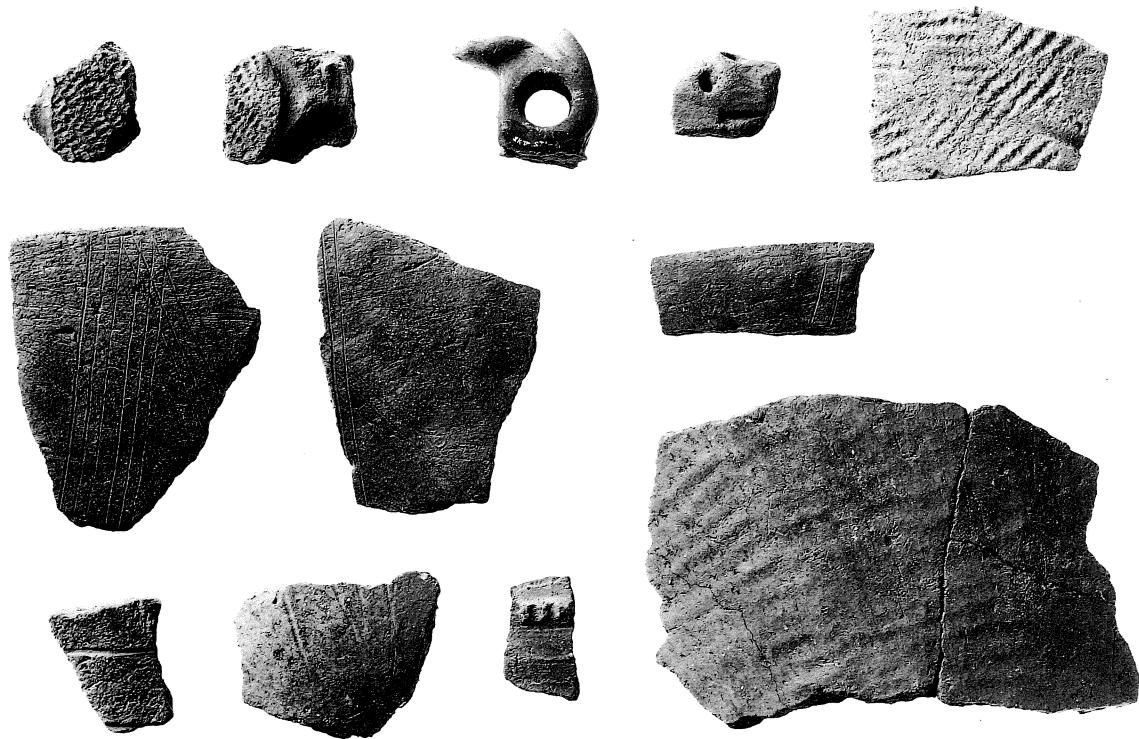
第19図-2



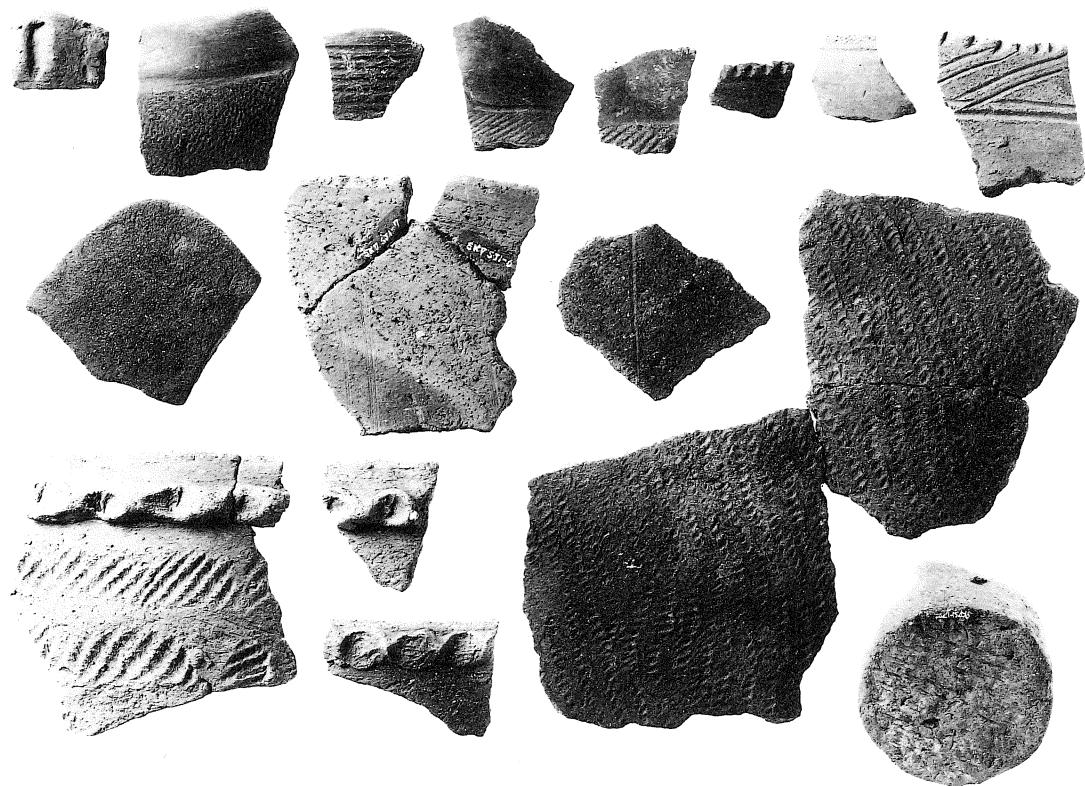
第19図-3



第47図-1



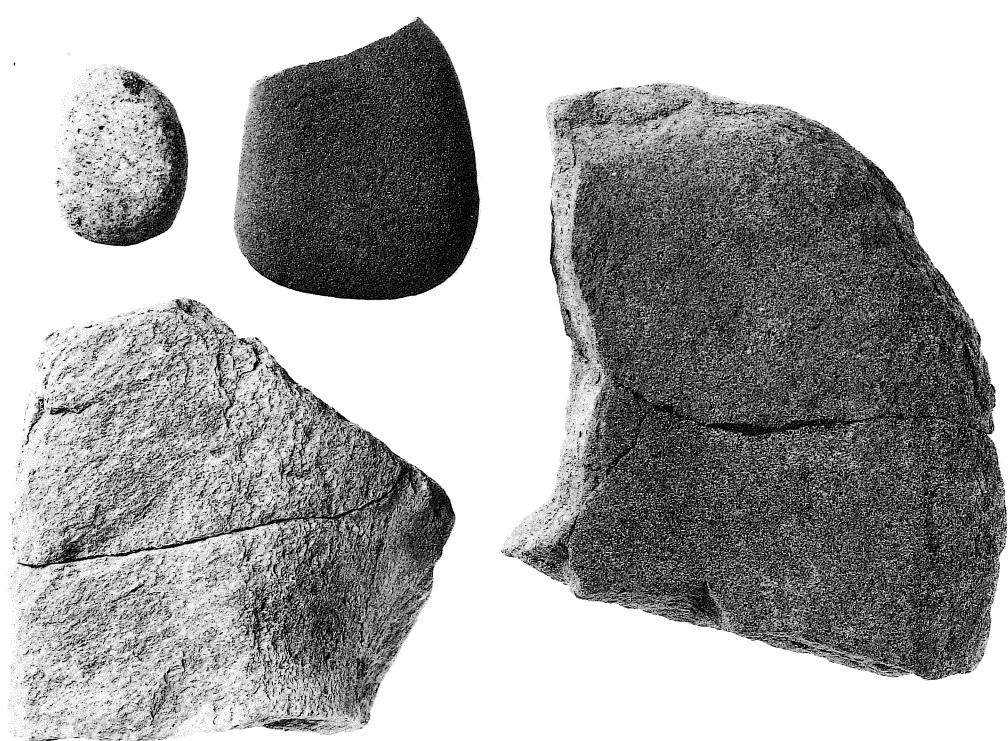
第1号住居跡出土遺物（1）



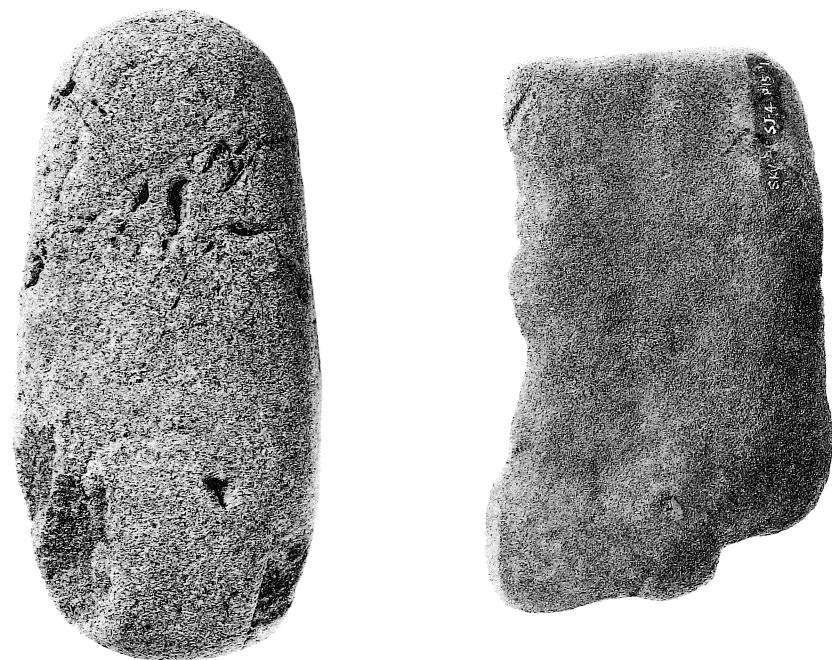
第1号住居跡出土遺物（2）



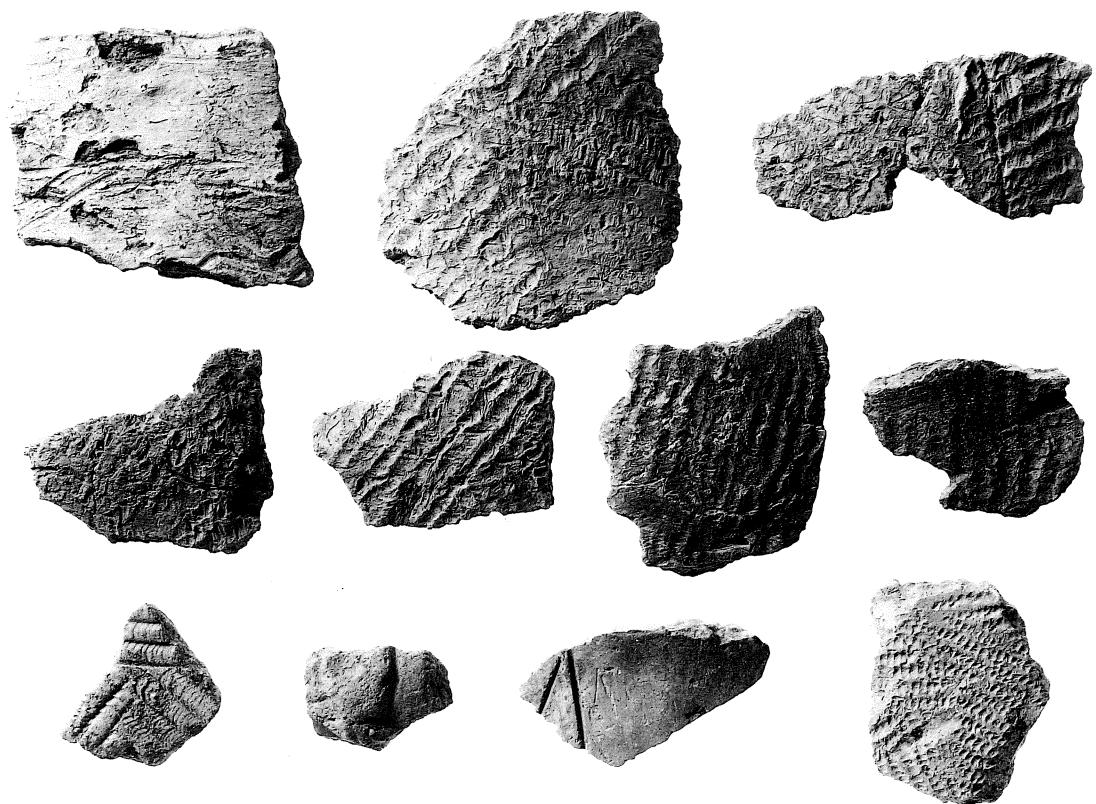
第2号住居跡出土遺物（1）



第2号住居跡出土遺物（2）



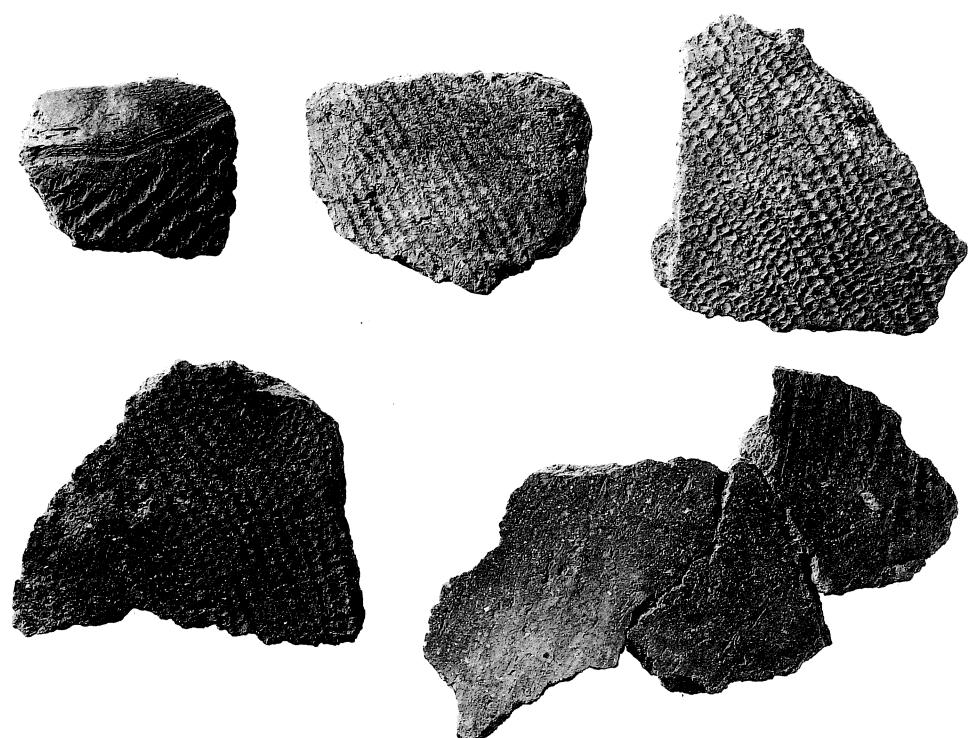
第1号・第4号住居跡出土石器



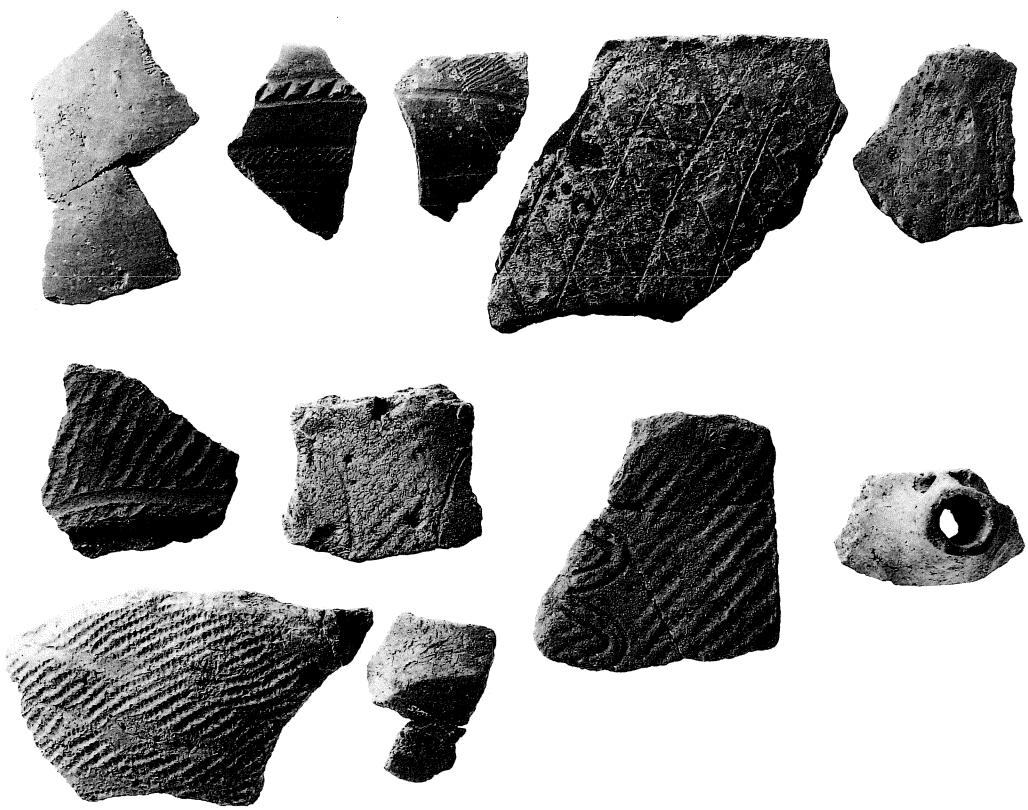
第3号住居跡出土遺物



第4号住居跡出土遺物



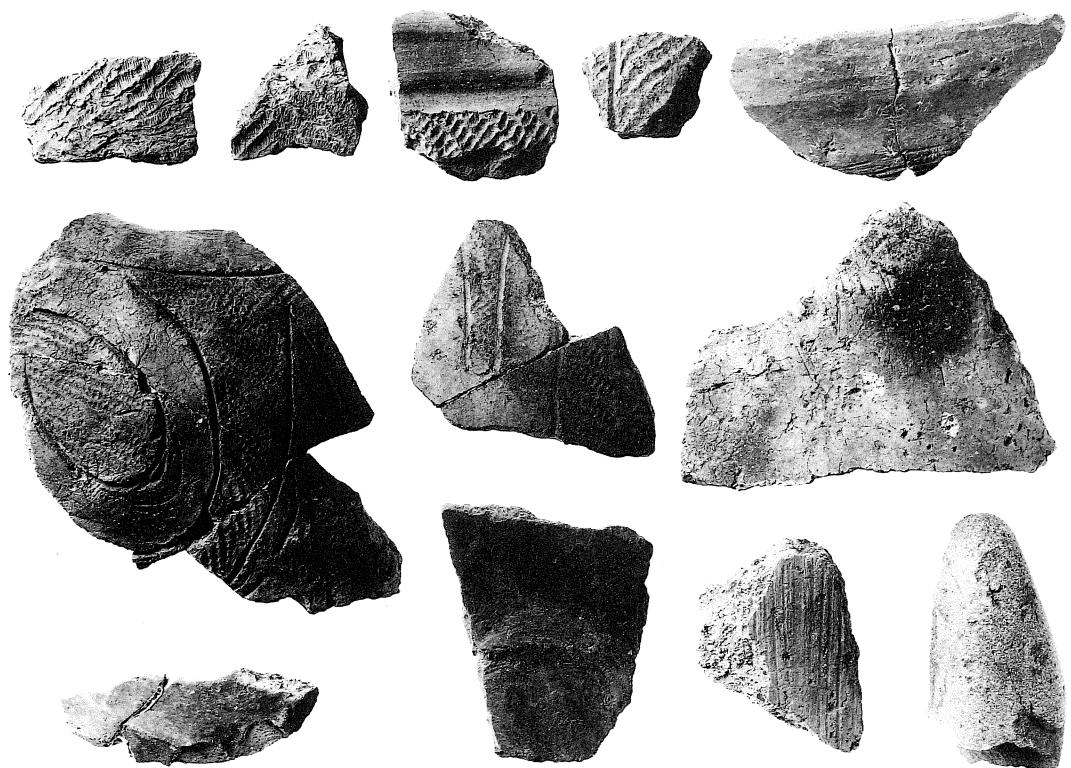
第5号住居跡出土遺物



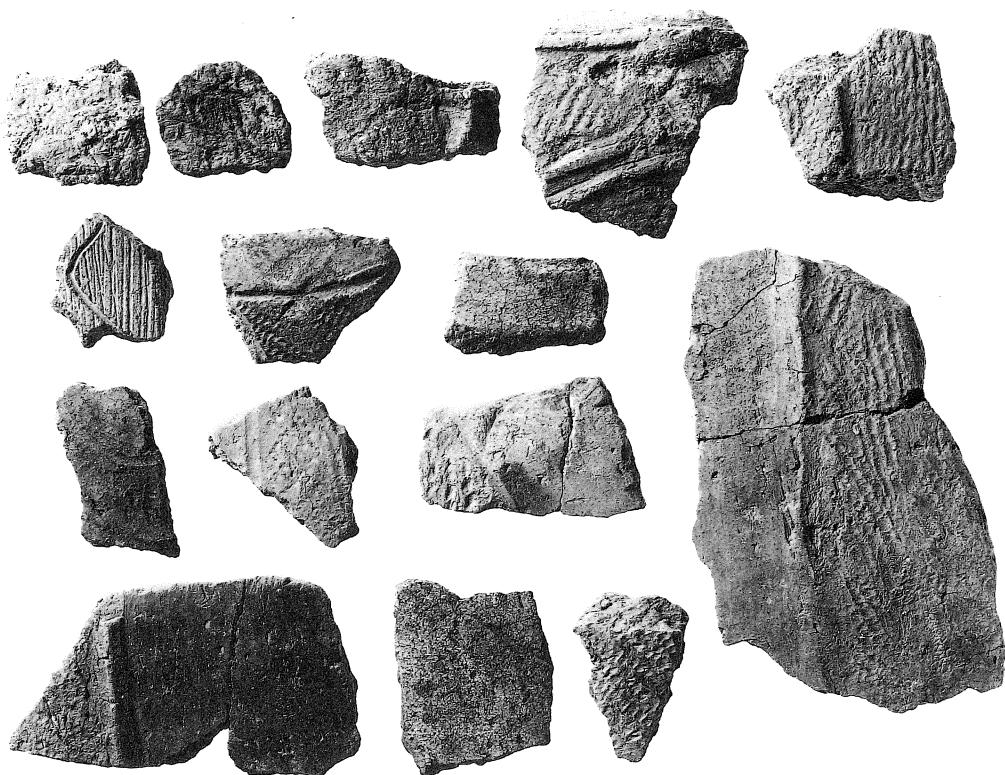
土壤出土遺物 (1)



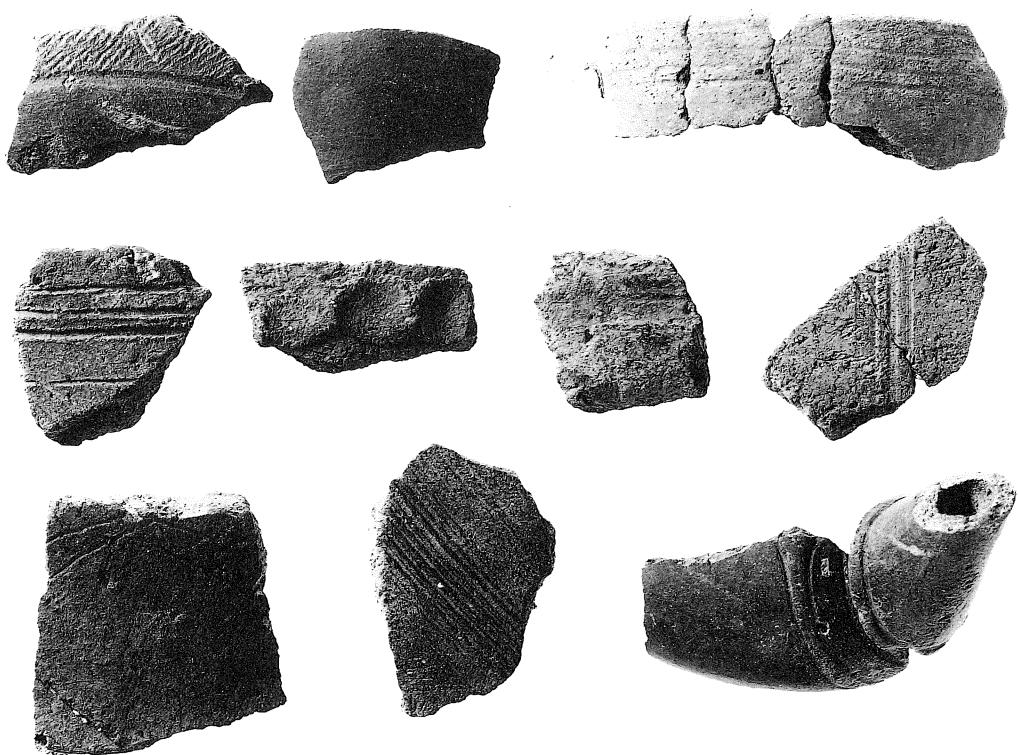
土壤出土遺物（2）



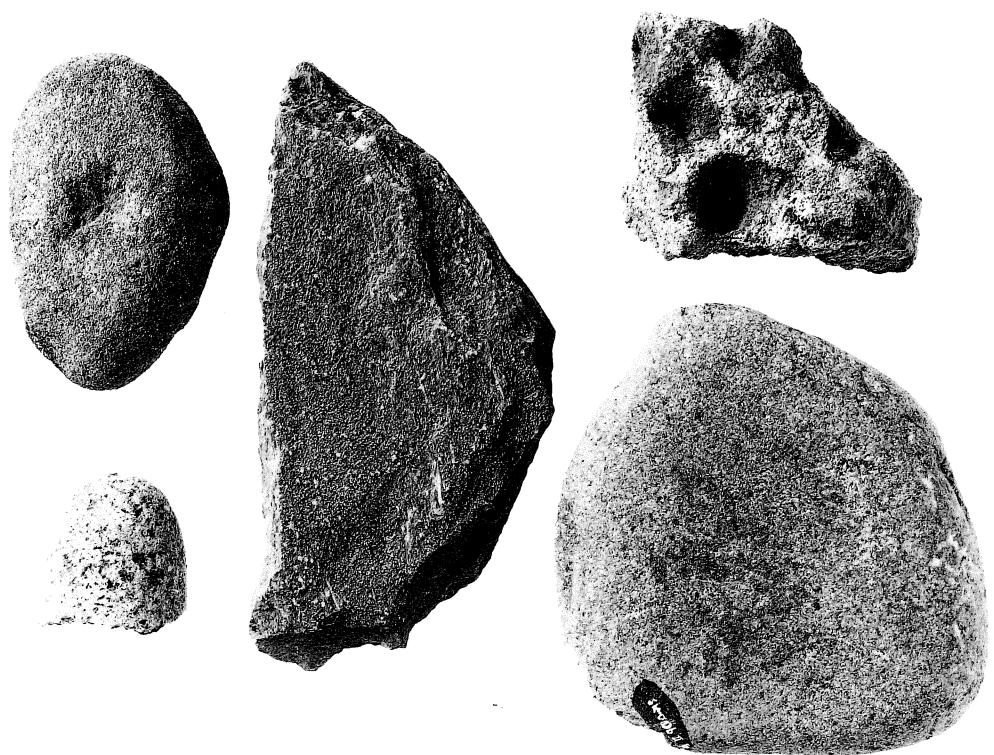
土壤出土遺物（3）



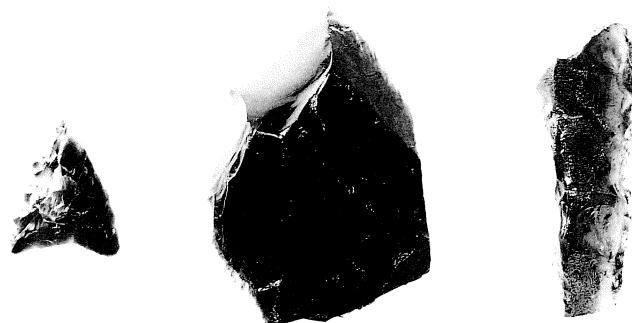
グリッド出土遺物（1）



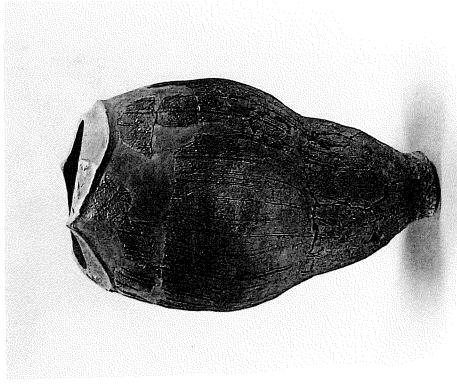
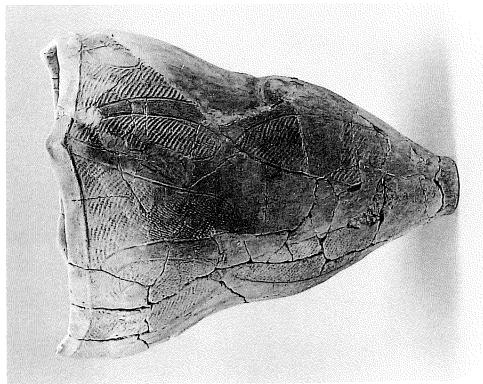
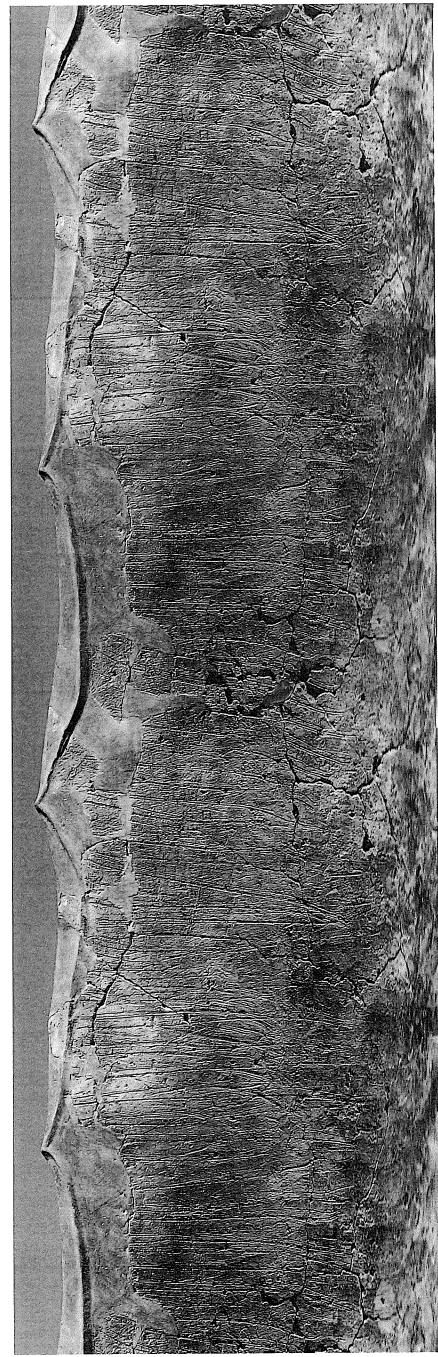
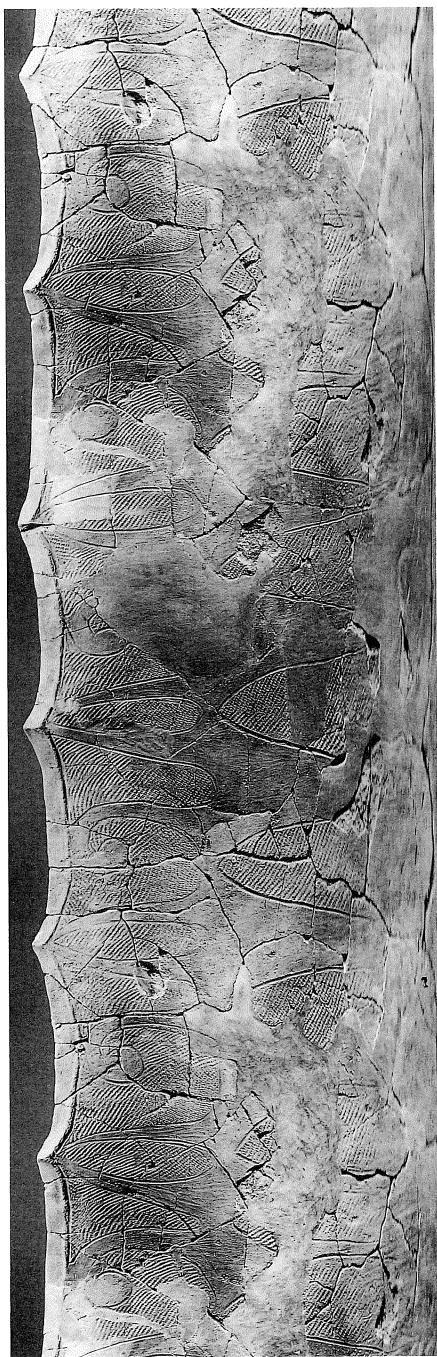
グリッド出土遺物（2）



グリッド出土遺物（3）



小形石器



展開写真

## 報 告 書 抄 錄

ふりがな	しゅくきたごいせき							
書名	宿北V遺跡							
副書名	県道川越上尾線関係埋蔵文化財発掘調査報告							
卷次								
シリーズ名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書							
シリーズ番号	第214集							
著者氏名	上野真由美							
編集機関	財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒369-0108 埼玉県大里郡大里村船木台 4-4-1 TEL 0493-39-3955							
発行年月日	西暦 1999(平成11)年2月26日							
所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因	
		市町村						遺跡番号
宿北V遺跡	埼玉県上尾市 おおあざひらかた 大字平方 ばんちほか 1714番地他	11219	58	35° 56' 37"	138° 34' 20"	19950601～ 19950831	1,500	道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
宿北V遺跡	集落跡	旧石器時代 縄文時代 中・近世	石器集中 礫群 住居跡 土壙 土壙 溝跡	2 3 5 47 25 10	ナイフ形石器・磨石 縄文土器・石器 古銭・陶磁器			

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第214集

---

上尾市

---

## 宿北V遺跡

---

県道川越上尾線関係  
埋蔵文化財発掘調査報告

平成11年2月15日 印刷  
平成11年2月26日 発行

発行／財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団  
〒369-0108 大里郡大里村船木台4-4-1  
電話 0493 (39) 3955

印刷／望月印刷株式会社